

第五十二回  
帝國議會  
衆議院

# 登録稅法中改正法律案外三件 委員會會議錄(速)第七回

## 會議

昭和二年二月十五日(火曜日)午前十時  
二十七分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 武藤 金吉君

理事 奧村 千藏君

理事 高橋熊次郎君

理事 清水 長郷君

木村三四郎君

神部 爲藏君

村山喜一郎君

永田善三郎君

松本 眞平君

内田 信也君

木暮武太夫君

岩切 重雄君

丹下茂十郎君

同日委員吉原義雄君、山本芳治君辭任

ニ付其ノ補闕トシテ同日村山喜一郎君

内田信也君ヲ議長ニ於テ選定セリ

出席國務大臣左ノ如シ

大藏大臣 片岡 直溫君

農林大臣 町田 忠治君

商工大臣 藤澤幾之輔君

出席政府委員左ノ如シ

大藏政務次官 武内 作平君

大藏省主稅局長 黑田 英雄君

營繕管財局理事 太田嘉太郎君

商工政務次官 棚瀬軍之佐君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

大藏書記官 藤井 眞信君

遞信省管船局長 宮崎 清則君

商工省工務局長 宮内國太郎君

商工技師 平野 久保君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

登録稅法中改正法律案(政府提出)

印紙稅法中改正法律案(政府提出)

砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出)

關稅定率法中改正法律案(政府提出)

武藤委員長 是ヨリ會議ヲ開キマ

ス、通告ノ順序ガアリマスアレドモ、順

序ノ御方ガ御出席ガアリマセヌカラ、

此際内田信也君ニ發言ヲ許シマス――

内田君

○内田委員 私ハ印紙稅法ノ改正ニ付

キマシテ御尋ネ致シタイト思ヒマス、

即チ印紙稅法ノ第四條ノ中ノ第五、即

チ儲船契約書ト云フコトガ規定シテア

ル、所デ政府ノ御眞意ハ恐ラク此項ハ

請負ニ關スル項モアル、即チ運送ハ一

種ノ請負契約ダト云フコトカラ、運送

契約書ヲ其中ニ入レ、同時ニ儲船契約

ハ運送契約ノ一種ナリ、貸貸借ニ非ズ

ト云フ御解釋ノ下ニ此第五ハ入レテ、

即チ稅法ヲ五十圓以上トカ、百圓以上

トカ、金額ノ差別ヲ設ケ、後ノ貸貸借ト

區別シタモノデアラウト思考スルノデ

アリマス、蓋シ儲船契約ト云フモノガ

一ツノ或數量ノ荷物ヲ以テ、契約ノ標

準トシテ居ラナイ、大體ニ於テ――大

體デハナイ、實際ニ於テ全部サウデア

ル、船荷證券ノ如キハ百噸ナラ百噸ノ

荷物ヲ積ンデシマツテ、而シテ發行スル

ノデアルカラシテ、隨テ百噸ニ對スル

五圓ノ運賃ナラバ五百圓ト云フヤウ

ニ、金額ガ明ニ分リマスアレドモ、儲船

契約ニ於テハ五百噸トカ八百噸トカ云

フ、荷物ノ數量ヲ以テ目的トシテ居ラ

ナイデ、此船滿船約何噸ト斯ウナル、總

テサウナル、所ガ卑近ナ例デハアリマ

スガ、自分ノ家ノ重箱ヘ船ヲ詰メタ所

ガ、此重箱ヘ船ガ幾ツ這入ルト云ツタ

ラ、二十這入ルトモアレバ、二十八這入

ルコトモアル如ク、何千噸何萬噸ノ船

ニ以テ來テ、滿船亞米利加ノ木材ナラ

米材幾ラ運賃幾ラ、斯ウ云ツタトキニ

ハ、例ヘバ北海道ノ木材ガ八千石這入

ル時モアレバ、七千石這入ルトモアル、

同ジ船デモ其時ニ依テ常ニ積高ヲ異

## 付託議案

登録稅法中改正法律案(政府提出)

印紙稅法中改正法律案(政府提出)

砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出)

關稅定率法中改正法律案(政府提出)

商事非訟事件印紙法中改正法律案(政府提出)

承リタイ

○黒田政府委員

儲船契約ニ付キマシ

テハ内田サンハ専門家デ居ラセラレル  
ノデアリマスカラ、十分之ヲ御承知ノ  
コトデアアルデアリマシテ、詳シク申  
上グルマデモナイノデアリマス、此案  
ニ當リマシテハ儲船契約ハ從來ノ立法  
ニ於キマシテハ、二條ノ中ニ入ルベキ性  
質ノモノデアルト考ヘテ居ルノデアリ  
マス、唯々今日ノ取扱ト致シマシテ儲  
船契約ガ二條ノモノデアルカ、或ハ賃  
借ノモノデアアルカト云フコトハ、其  
趣意ニ依リマシテ随分色々ニ見解モ分  
レルヤウニ考ヘルノデアリマス、ソレ  
等ノ負擔ノ點モ考ヘマシテ、今日解釋  
上ニ於テ別ニ取扱ヲ致シテ居ルコト  
ハ、御承知ノ通りデアアルノデアリマス、  
今回改正スルニ當リマシテ是ガ賃借  
デアアル、或ハ運送契約デアアルト云フヤ  
ウナコトニ付キマシテモ、考究ヲ致シ  
タノデアリマスカ、只今内田サンノ仰  
セニナリマス通り、是ハ何方カト云  
ハ運送契約ニ近イモノデアアル、嚴格ナ  
ル意味ニ於ケル運送契約ナリト申サレ  
ナイト致シマシテモ、運送契約ニ準ズ  
ベキモノデアアルト云フ風ニ考ヘタノデ  
アリマス、サウシテ今回ハ二條ノ比例  
稅ヲ止メマシテ、階級定額稅ニ致シマ  
シテ、適當ナル負擔ヲスルト云フコト  
ニ制度ヲ改メマシタ以上、是ハ本來ノ  
性質ノモノトノ權衡カラ見マシテモ、  
之ヲ四條ノ中ニ置キマシテ、階級定額

稅ヲ掛ケルコトガ適當デアルト考ヘタ  
ノデアリマス、只今御質問ニアリマシ  
タ通り、儲船契約ノ金額ハ實際ニ於テ  
多少ノ異動ハアルト云フ御話デアリマシ  
タ、是ハ専門家ノ御話デアリマスカラ、  
勿論間違ッテ居ラヌト私ハ考ヘルノデ  
アリマスガ、併シ是ハ茲ニ揭ゲテアリ  
マスル所ノ階級定額稅ハ、大體百圓ト  
カ、五百圓カラ千圓、儲船契約ニナリマ  
スレバ多ク一萬圓ヲ超ユルモノニ相成  
ルカト思フノデアリマス、一萬圓ヲ超  
ユルモノハソレガ五萬圓デアリマシテ  
アリマシテモ、總テ之ヲ一圓トスルト  
云フコトニ致シテ居ルノデアリマスカ  
ラ、多少ノ實際上ニ於キマス異動ト云  
フモノハ、大シテ影響ハ無イヤウニ考  
ヘルノデアリマス、サウシテ一萬圓ヲ  
以テ一圓ト云フ風ニ致シマシテ、一圓  
ト云フ負擔ハ是ハ儲船契約ト致シマシ  
テ、即チ船舶ノ全部若クハ一部ヲ以テ  
運送契約ノ目的トシタト云フ風ナ場合  
ニ於キマシテハ、一圓ノ負擔ヲスルト  
云フコトハ他ノ不動產ノ移轉トカ、或  
ハ消費貸借トカ、或ハ請負ト云フモノ  
ニ比較致シマシテハ、適當ナル負擔デ  
アルト考ヘタノデアリマス、脫稅云々  
ノ御話モアッタノデアリマスカ、是ハ從  
來ノ比例稅デアリマス往々シテ其弊  
ガアリマシテ、却テ負擔ノ公正ヲ得ナ  
イト云フ風ノ考カラ、今回階級定額稅  
ニ致シマシタノデアリマスカラ、此一

圓ト云フモノノアリマスカラ、運  
送契約ニ於キマシテ大シタ負擔デハナ  
イ、適當ノモノデアラウ、隨テ斯様ニ致  
シマスレバ脫稅等ノ弊ハナイ、法律通  
リ實際ニ行ハルルコト考ヘテ居ルノデ  
アリマス  
○内田委員 只今黒田局長——政府委  
員ノ儲船契約ノ金額ハ運賃總額ガ大體  
一萬圓以上ダト云フコトデアリマシタ  
ガ、是ハ甚ダ政府委員ノ方ヲ素人扱ヒ  
ニシテ相濟ミマセヌケレドモ、船ノ事  
ハ多少素人ガ知リマセヌガ、エテ儲船  
契約ト云フモノハ世間デハ定期儲船ト  
頭ニ浮ンデシマウ、成程定期儲船ハ  
殆ド一萬圓以上デアリマス、併ナガラ  
航海のノ儲船契約ニ於キマシテハ一萬  
圓以下ガ多イ、例ヘバ門司、橫濱ノ石炭  
ガ標準運賃デアリマスカ、之ニシタ所  
デ五千噸ノ船ヲ使ッテ、今日ハ九十錢、四  
千五百圓デアリマス、近頃大抵ハ一萬圓  
以內、ダカラ運賃ノ金額ハ一萬圓以上  
ニナルト云フ御話ハ、ソレハ失禮デア  
ルケレドモ御間違デアアルコトハ、私ノ  
申スマデモナク御了承ヲ願ヒタイ、ソ  
レカラ負擔ガ僅デナイカ、ソレハ私ノ  
申スノハ負擔ノ點デ申スノデアリマセ  
ヌ、負擔ノ點ニ於キマシテ私ハ一圓ガ  
高イノ、五十錢ガ高イノト云フ譯デナ  
イ、即チ實際ノ便不便ヲ言フノデ、國家  
カラ云ヒマシテモ、國庫ノ歲入カラ云  
ヒマシテモ、亦同時ニ大シタ收入ニナ  
ラヌ、日本ノ儲船市場ニ於ケル船舶ガ

今日六百艘アッテ、門司、橫濱ノ航海ガ  
十五日デアアルカラ、普通平均二十日間  
ノ航海ト見ル、一年ニ船ガ定期檢査ヲ  
加ヘテ引括メテ十七航海ガ平均デアリ  
マス、航海度數ガ一年ニ十七航海トス  
ルト、六百艘ノ船ダカラ一萬航海、一萬  
航海ノ船デアアルカラ二錢カラ一圓トア  
ルノガ、平均五十錢ニシタ所デ一萬航  
海デ五千圓、政府ノ收入ガ五千圓ニホ  
カナラヌ、我國ノ民間ニ於キマシテ負  
擔ガ少ナイト同時ニ、大シタ問題デナ  
イト同時ニ、政府ノ歲入カラ云ッテモ全  
部デ僅ニ五千圓ニ足ルカ足ラヌモノデ  
アル故ニ、金額ノ負擔ノ事ヲ申スノデ  
ナイ、實際ノ便不便ノ國際慣習カラ申  
スノデアアル、御承知デアリマセウケレ  
ドモ、英國ノ海運業ハ「インターナシヨ  
ナル」國際的ノモノデアッテ、而シテ英  
國ノ如キハ船荷證券ト儲船契約共ニ六  
片貼ッテ居ル、亞米利加ノ如キハ何方モ  
貼ッテ居ナイ、斯ノ如ク比例定額デナ  
イ、一ツノ單純ナル定額ニ止ッテ居ル、  
日本デモ從來ハ多少大藏省ノ方ニ御議  
論ガアッタケレドモ、日本船舶始ッテ以  
來三錢ノ定額デヤッテ來テ居ル、ソレヲ  
各國ノ世界ノ三大海運國タル英吉利、  
亞米利加等ハサウシテアルニ拘ラズ、  
日本ダケ比例定額稅デ五錢以下ハドウ  
ダ、三錢以下ハドウダト云フコトニ別  
ケルト云フコトハ、其世界ノ海運ノ習  
慣ヲ無視スル所以デ、又不便ヲ來ス所  
以デアアル、殊ニ世界ノ海運ト云フモノ

ハ所謂海運ニ國境ナシ、即チ備船契約書ノ方式カラモ、海商法カラモ同一ニシヤウト言ッテ居ル今日ニ於テ、日本ダケ、歳入ニ對シテ變リガナイニモ拘ラズ、從來ノ習慣ヲ破リ、英米ノ習慣ヲ無視シテサウシテ、斯ノ如キ實行ニ不便ナル所ノ比例定額稅ヲ設ケルノハ不便ダケアツテ、即チ害アツテ更ニ益ハナイト思フノデアリマスガ、其點ニ付テ政府ノ御意見ヲ伺ヒタイ

○黒田政府委員 備船契約ノ收入ハ仰セノ如クサウ多額ニハ上ルモノデナカラウト思ヒマス、併ナガラ是ハ他ノモノトノ負擔ノ均衡カラ致シマシテ、即チ請負デアルトカ、或ハ商事貸借、或ハ不動產ノ移轉ト云フヤウナモノトノ權衡カラ見マシテ、ソレ等ト同ジヤウナ負擔ヲスルコトガ適當デアルト云フ風ニ考ヘマシテ、負擔ノ公正ヲ得セシムル目的カラシテ之ヲ同様ニ取扱ヒマシタ次第デアリマス、是ガ爲ニ非常ニ不便デアルト云フ御話デアリマスガ、日常ノ取引ニ於テ毎日何通モ出ス請取證ト云フヤウナモノ、或ハ小切手ト云フヤウナモノデアリマスレバ、階級定率デアリマシテハ不便ノコトモアラウト思ヒマス、併ナガラ是ハサウ頻繁ニ毎日澤山ノ取引ヲスルモノデモナイト考ヘマス、其爲ニ餘リ階級ヲ多クスルコトハ却テ繁雜ニナツテ、實際ノ納稅者ニ取リマシテハ不便デアルト考ヘマシタノデ、前ニ御説明申上ゲマシタ階級ヲ

此程度ニ止メマシタ次第デアリマス、此程度デアリマスレバ左程不便ヲ來スコトモナカラウト云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、勿論國際ノモノデアタルカラ、之ヲ同様ニスルガ宜シイト云フ御意見ハ、是ハ一應御意見トシテ御尤ナ次第ト考ヘルノデアリマスガ、併ナガラ今日各國ノ租稅ガ違ッテ、居ル上ニ於テハ已ムヲ得ナイト云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○内田委員 只今政府委員ハ私ノ申ス不便ト云フ點ヲ、毎日請取證ノ如ク何通モ發行スルモノデナイカラ、不便ハナイデヤナイカト云フ仰セデアリマス、私ハ度數ニ依テ不便ト申シタノデハナイ、即チ庸船契約ニ依テ授受スベキ金額ガ不定デアルカラシテ、印紙ノ貼リヤウニ困ル、ソレデ不便ダト云フノデス、即チ木材ハ八千石百二十五圓、今日ノ相場デ云フト丁度一萬圓ニナル、是ガ七千石ナラバ一圓以下デ濟ムガ、八千石ノ上ニナレバ一圓拂ハナケレバナラヌ、木材ノ如キハ七千石積ムコトモアリ、九千石積ムコトモアリ、二割位ノ増減ハ始終アル、ダカラシテ印紙ヲ貼ッテ宜イカ分ラヌト云フノガソレガ不便ダト云フノデ、一日ニ數ガ多イカラ不便ダト云ノデハナイト云フコトヲ御了承ヲ願ヒタイ、他トノ權衡ト云フ御話デアリマスガ、私ハ備船

契約ト云フモノヲ從來ノ商習慣ノ如ク、三錢デ濟ムト云フコトデナクテモ、他トノ權衡カラナラバ、之ヲ六錢ニシテモ、若クハ十錢ニシテモ權衡ガ取レルト思ヒマスノデ、歳入ニ欠陥ヲ生ゼズ、又他トノ權衡モ取レ、又商賣人モ不便デハナイト云フヤウニ考ヘテ御質問ヲ致シタノデアリマス、又外國ノ例ハ租稅其他ニ於テ違ッテ居ルカラ、是モ違フノハ仕方ガナイト云フ御話デアリマスケレドモ、是ハ租稅ハ各國ノ領土内ニ於テ別々デアリマスケレドモ、海運ハ「インターナショナル」ノモノデアッテ、英吉利カラモ日本ニ入ッテ來ル、日本カラモ亞米利加ニ行クコトデアリマシテ、國際的ノ「スタンパ」ト云フモノハ他ノ領土内ニ於ケル別ナ租稅トハ趣ヲ異ニシテ居ルダラウト思ヒマス、是ハ英吉利ノ租稅ト比較スルコトハ場合ガ違ッテ、備船契約ト云フモノハ國際的デアルカラ、國際的習慣ヲ重シゼヨト云フ意見デアルコトヲ御了承ヲ願フヨリ外ナイノデス、一言……

○黒田政府委員 先程不便ト云フ意味ハ私ノ御答ヘ申シタノ違フト云フ御話デ、只今御述ニナリマシタガ、是ハ先程實ハ申上ゲタ積リデアリマシテ、成程多少ノ異動ガアルト云フコトハ或ハ御話ノ通りデアラウカト思フノデアリマスガ、其爲ニ階級定額ニ致シマシテモ、一萬圓以下千圓、千圓カラ一萬圓ノ間ハ五十錢ト云フコトニナツテ居ルノ

デアリマシテ、極メテ開キガ廣イノデアリマシテ、其間ニ於テ多少ノ異動ガアリマシテモ、五十錢ヲ拂ヘバ宜イト云フコトニナル、然ラバ千圓ノ上ニナルカ下ニナルカト云フコトニナルト、面倒デヤナイカト云フコトニナリマスレバ、ソレハ仰セノ通りニナリマセウ、是ハ併シ極メテ少イ場合デアリマシテ、多クノ場合ニ於テハ大體見當ガ付クノデアリマス、契約書ニ依テモ見當ガ付クノデアリマスカラ、契約書ニ載ッテ居リマス所ノ金額デ以テ貼ッテ行クコトニ致シマスレバ、階級モ少イカラ左程不便ハナイト考ヘマス、然ラバ之ヲ一率ニシテ一定ノ金額ニシタラ宜イデハナイカト云フ御話モ、一應御尤デアリマスガ、僅カ萬分ノ五ノ比例稅デアル、之ヲ一躍シテ一率ニ致シマス、非常ニ高クスレバ歳入ノ上ニモ或ハ影響ナク、又他トノ權衡モ得ラレルカモ知レマセヌガ、之ヲ非常ニ低イモノニスルト、多額ノ貸借契約或ハ運送契約ト云フモノハ非常ニ低イ稅率ニナル、サウスルト他トノ權衡ヲ失スルト云フコトニナリマシテ、是ハ前ニモ御話申シタヤウニ、階級定額稅ト云フモノニ移ッテ行クコトハ、他トノ負擔ノ權衡カラ申シテモ已ムヲ得ナイコトノヤウニ考ヘルノデアリマス

○内田委員 只今政府委員ノ御話デハ、從來備船契約ノ印紙ハ階級定額稅デアルト云フ御話デアリマス、ソレハ

大藏省ノ御見解ハサウデアッタカモ知  
レマセヌガ、實際ニ於テハ總テ三錢ノ  
印紙ヲ全部貼ッテ居ッタコトヲ御  
記憶ヲ願ッテ、以下ハ私ノ議論ニナリマ  
スノデ、討論ニ讓ッテ、質問トシテハ是  
デ打切りマス

○武藤委員長 次ハ神部君ノ順序ニナ  
ツテ居リマス、商工省ノ政府委員ガ參ッ  
テ居リマスガ……

○神部委員 私ハ昨年ノ議會ニ於テ御  
約束ヲ致シテアル「バタ」ノ關稅改正ニ  
付テ、二御伺ヲ致シタイノデス、五十  
一議會ニ於テ通過シテ居リマスル關稅  
ノ法律案ノ中ニ、御承知ノ通り附帶條  
件ガ付キマシテ、昨年決議ニナッテ居ル  
コトハ政府御當局モ能ク御承知ノコト  
デアルト考ヘテ居リマス、即チ昨年條  
件ヲ付ケマシタ二十何種カノ品目ニ付  
キマシテ、委員會デ猛烈ナ議論ガアッタ  
ノデアリマスガ、政府當局ハ次ノ議會  
デハ再調シタ上ニ提案ヲスルト云フ御  
意見デアッタ爲ニ、其條件ヲ附シテ通過  
ヲ致シテ居ル次第デアアルノデアリマ  
ス、然ルニ今回御提案ニナリマシタ品  
目ヲ調査シテ見マス、昨年再調スベ  
ク約束ノモノハ僅ニ酸化「ゴバルト」バ  
カリデアリマシテ、他ノ品目ニ付テハ  
更ニ御提案ノナイノヲ甚ダ奇怪ニ存ジ  
テ居ル譯デアアル、本年此關稅改正ニ付  
キマシテ大藏大臣ノ御説明ヲ承リマス  
ト、調査審議ノ材料ガ不十分デアッタカ  
ラ、審議未了デアアル、故ニ審議ガ終了次

第再ビ提案ヲスルト云フコトノ御説明  
ヲ承ッタノデゴザイマスガ、之ニ付キマ  
シテ疑ノ點ヲ御伺致シタイノデゴザイ  
マス、先ヅ第一ニ條件付ノ品目中デ、本  
議會會期中ニ審議ヲ終リマシテ議會ニ  
提案ヲ得ル見込ノモノハ如何ナル品目  
デアアルカ、之ヲ承リタイノデアリマス、  
第二ニハ吾々ノ調査ニ依リマスレバ、  
數字ノ上カラ見マシテモ社會政策上、  
又ハ產業政策ヨリ之ヲ見マシテモ、一  
點疑フ餘地ノナイ所ノ品目ニ對シマシ  
テ、審議未了ノ名ノ下ニ御提案ノナイ  
コトハ甚ダ私共ノ遺憾トシテ居ルノデ  
ゴザイマス、ソレハ何デアアルカト申シ  
マス、私、又他ノ委員諸君ヨリモ昨年  
ノ委員會ニ於テ申上ゲマシタ彼ノ「バ  
タ」デゴザイマス、從來ノ農業經營組織  
ヲ改メマシテ、立體的ト申シマス、又  
集約的ト云ヒマシテ、多量ノ生産ヲ圖ッ  
テ食糧問題ヲ解決スルト云フコトガ、  
刻下我國ノ國策ト致シマシテ必要ナル  
コトハ、敢テ多言ヲ要セザル所デアリ  
マス、如上申上ゲマシタル集約的經營  
法ト申シマスノハ色ミアリマセウケレ  
ドモ「バタ」本位ノ農業ガ其最モ合理  
的經濟農法デアアルト云フコトハ、既ニ  
世間ノ定議デアアルヤウデアリマス、從  
ヒマシテ我國ニ於テ「バタ」農業ハ日尙  
ホ淺キニ拘ラズ、官民多年ノ努力經營  
ニ依リマシテ漸次ニ發達シ來ッテ居リ  
マス、「バタ」ノ生産ハ年々増加ヲ致シ  
テ參ッテ居リマス、全國ノ消費量ノ約七

割ヲ生産シ得ルヤウニ至ッテ居ルノデ  
ゴザイマス、此勢ヲ以テ進ミマスレバ  
本邦ニ於キマシテ全需要量ヲ供給致シ  
マスコトモ、遠キコトデナイト思フノ  
デゴザイマス、斯ウ考ヘテ居リマス、各  
般ノ事情ガ未ダ此實現ヲ爲シ得ナイコ  
トハ甚ダ残念デアリマスガ、ソレハ何  
故カト申シマスレバ、彼ノ加奈陀、或ハ  
濠洲、新西蘭、此方面ヨリ輸入サレル  
「バタ」ハ原價ガ約八十錢デアリマシ  
テ、現行關稅ガ之ヲ百二十匁一封度ニ  
引直シマス、二十錢ヲ課シマシテモ  
一圓内外デ我が市場ニ現ハレテ來ルノ  
デゴザイマス、此一圓ト云フノハ昨年  
一ケ年ノ平均相場デアリマス、然ルニ  
我が國產ノ經濟原價ハドウデアアルカト  
申シマス、一斤ガ一圓二十錢ヲ要ス  
ルノデアリマス、其計算基礎ヲ申シマ  
スレバ「バタ」一斤ハ御承知ノ通り牛  
乳七升ガ原料トナルノデアリマス、今  
此一合ノ牛乳ヲ一錢五厘ト見テ、牛乳  
代ガ七升デアリマスカラ一圓五錢掛リ  
マス、ソレニ製造費、加工費ヲ加ヘマス  
ト、加工費ハ十五錢掛リノデアリマス、  
サウ致シマスルト合計ガ一斤ノ「バタ」  
ヲ搾ヘマスルノニ一圓二十錢ト云フ費  
用ヲ要スル次第デアリマス、故ニ外國  
品ハ一圓デアアル、國產品ハ一圓二十錢  
ノ生産原價デアリマスカラ、外國品ニ  
壓迫サレルコトハ是ハ已ムヲ得ナイ次  
第デアアルノデアリマス、ソコデ國產品  
ヲ對抗上一圓内外デ賣ラナケレバナラ

スト云フ破目ニ陥ッテ居ルヤウナ次第  
デアリマス、國產品ヲ一圓ニ賣ルト致  
シマスレバ、牛乳一合ノ價ハ一圓ニ位ニ  
當ルカト申シマス、製造其他ノ費用  
十五錢ヲ差引キマス、牛乳原價八十  
五錢ト云フ計算ニナルノデアリマス、  
一合當リガ僅ニ一錢二厘乃至一錢二厘  
五毛位ニシカ原價ガナラヌノデアリマ  
ス、現在ノ農家ハ一合一錢二厘乃至一  
錢二厘五毛位デ「バタ」ヲ製造シテ居ル  
始末デアリマスカラ、是デハ到底經濟  
上引合ハヌト云フコトニナルノデアリ  
マス、此儘デ若シ進ンデ參リマス、折  
角發達シ掛ケマシタ「バタ」ノ事業ト云  
フモノハ大成スルコトガ出來ナイ、挫  
折スルコトハ火ヲ賭ルヨリ明ナコトデ  
アラウト考ヘルノデアリマス、當局ハ此  
現狀ヲドウ云フヤウニ御考ヘニナッテ  
居ルノデアアルカ、一圓内外ノ相場デ農  
家ガヤリ得ルモノト御考ニナルカ、牛  
乳一合一錢二厘ノ價デ農家ガ引合フト  
云フ御考デアラウカ、此點ニ付テ明瞭  
ナル御答ヲ御願シタイト存ジマス、又  
第三ニハ茲三ケ年ノ「バタ」ノ輸入ノ實  
況ヲ數字ニ依テ見マス、大正十三  
年ハ輸入品ガ八十六萬餘斤入ッテ居リ  
マス、大正十四年ハズット減リマシテ四  
十二萬餘斤、大正十五年度ハ是ハ十一  
月ニ調ベマシタガ、十二月モ加ヘマス  
ト計算ガ少シ違ヒマスガ、九十餘萬斤  
輸入ガアルヤウデアリマス、大正十三  
年ハ大震災ノ善後策ト致シマシテ、輸

入關稅ノ撤廢ヲ致シマシタ前年度ノ影響ヲ受ケマシテ、斯ク多量ニ入ッタノデアリマスケレドモ、十四年度ト是ガ半減致シマシタ、何故半減致シタカト申シマスト、爲替相場ノ暴落ハ輸入品ノ昂騰ヲ來シテ、關稅共ニ一圓二十五錢ヨリ一圓三十七、八錢位デアリマシタ、輸入不引合トナツテ著シク減ジタノデアリマス、然ルニ昨十五年度ハドウデアリカト申シマスト、爲替相場ノ平衡ト共ニ、輸入價格ハ二割下落ヲ來シテ參リマシタ、前述ノ通り關稅ヲ併セマシテ一圓内外デ輸入サレタガ爲ニ、更ニ輸入ガ激増シテ、一昨年ノ約倍數ニナツタト考ヘルノデアリマス、此三箇年ノ數字ダケデモ明瞭ニ國產品ノ壓迫ヲ物語ツテ居ルノデアリマスガ、若シ此儘デ推維リマスレバ、本年度ハ更ニ多量ノ輸入ヲ見ルコトハ明デアリマシテ、國產品ハ非常ナ悲境ニ陥ル譯デアリマスルガ、政府ハ此僞リノナイ數字ヲ如何ニ御解釋ニナラルルノデアラウカ、是モ承ツテ置キタイト思ヒマス、第四ニハ社會政策ヨリ見マシテ、御尋ネ致シタイノデアリマスガ、「バター」ヲ製造スル農家ハドウ云フ農家デアリカト申シマスルト、何レモ山間僻地ニ住ンデ居ル者デアリマシテ、地味モ至ツテ瘦薄ナル僻陬ノ地ニ在ル農村デゴザイマス、而モ何レモ二頭、三頭ノ牛ヲ飼ウテ居ルヤウナ貧民階級ノ小農若クハ小作農者デアアルノデアリマス、都會ノ近郊

ノ農家ノ牛乳ハ或ハ市價トナツテ出テ居リマス、又或ハ煉乳ノ原料トナリマスルケレドモ、交通不便ノ山間僻地ノ農家ノ生産致シマスル牛乳ハ「バター」原料トナリマス、都會ノ便利ノ所ハ市乳トナツテ出、「バター」トナルモノハ何レモ山間僻地ノ小農カラ出マスノデゴザイマス、私共住ヒシテ居ル北海道邊リデハ、市價地帶又煉乳地帶、「バター」地帶ト云フヤウニ、都會ヲ中心トシテ分ケラレテ居ルノデゴザイマス、此附近ニ於キマシテモ、他ノ内地デ申シマスルト、大島トカ、八丈島、又三宅島ノ如キ不便ノ地方デ「バター」ガ出來マスノデゴザイマスガ、之ヲ内地デハ大島「バター」ト申シテ居ルヤウデゴザイマス、是等ノ此邊ノ地方カラ出マスノハ、大島「バター」ト總稱スルノデアリマス、斯カル農民中ノ極ク細民ガ搾ツテ居リマスル乳牛ヲ原料トシテ、是ガ製造ハ大部分農業ノ組合事業デ行ハレテ居ルノデ、資本家ハ更ニ此間ニハ介在シテ居リマセス、故ニ此小農ノ細民ノ生産品デアリマスルノデ、是等ニ付テ保護ヲ願ヒタイト云フ譯デアリマス、而シテ之ヲ需要スル階級ハドウ云フモノデアリカト申シマスルト、現在ノ日本ト致シマシテハ、何レモ「バター」ヲ食スル者ハ中流以上ノ階級ガ之ヲ消費シテ居ルヤウナ譯デアリマス、斯ウ云フ意味ニ於キマシテ、社會政策ヨリ見マシレバ、關稅ヲ引上ゲテ斯カル可憐ノ

小農ノ細民階級ヲ救フト云フコトハ當然ノコトト私共思ウテ居ル次第デアリマス、ソレモ大シタコトデハアリマセヌ、僅カ一合ノ牛乳ヲ一錢二厘ノモノヲ一錢五厘ノ算盤ニシテ戴キタイト云フ至ツテ農民、細民ノ悲痛ナル叫デアルノデアリマス、世ノ人ガ動トモ致シマスト此真相ヲ究メマセヌデ、皮相ノ見解ヨリ誤ツタ反對論ヲ唱ヘル者ガアリマシテ、牛乳ヲ高クスレバ「バター」ガ高クナルト云フヤウナコトヲ唱ヘル者ガアルノデゴザイマスガ、洵ニ是等ハ農村ノ小農ノ者カラ申シマスルト、洵ニ聞エヌ話デアリマシテ、洵ニ是等ヲ保護スル必要ガアルト思フノデゴザイマス、右様ノ譯デアリマスガ、政府ノ社會政策ヨリ御覽ニナル所ノ御見解ハドンナモノデアアルカ、是モ併セテ承ツテ置キタイト思フノデゴザイマス、僅カノ至ツテ小サナ事デアリマスルノデ、之ヲ叫ンデ居ルヤウナ次第デアリマスケレドモ、生産者カラ見マスルト洵ニ是ガ急務ノ必要ナル叫デアリマスルノデゴザイマスカラ、ドウゾ此邊ヲ御諒承下サイマシテ、前ニ申上ゲタコトノ質疑ニ對シテ御答ヲ得タイト思フノデアリマス

○武内政府委員 第一ノ前ノ議會ニ於テ希望條件附ニナツテ居ル諸案ノ提案ノ審査ノ狀況、其中デ如何ナルモノヲ提案スルカト云フコトノ御尋ネニ對シマシテハ、其後當局ニ於キマシテモ頻ニ調査ヲ急イデ居ルノデアリマスガ、其中デ既ニ調查會ヲ經マシテ或モノハ提案シ、或モノハ此際提案スルニ及バズ、斯様ニ決定致シタモノモアルノデアリマス、併シ御希望ノ條件ノ附イテ居リマスルモノニ付キマシテハ、無論其御希望ヲ尊重致シマシテ、成ベク早ク此議會ニ間ニ合フヤウニ詰リ審理ノ出來ルヤウナ風ニ提案スベキモノハ提案スル積リデ準備ヲ急イデ居ル次第デアリマス、只今其中ノドウ云フモノヲ提案スル、ドウ云フモノヲ提案ヲシナイト云フコトヲ一々一寸申上ゲル時期ニ到達ヲ致シテ居ラヌヲ遺憾ト致シマスル次第デアリマス、第二ノ「バター」ノ問題デアリマスガ、之ニ付キマシテハマダ閣議ノ決定ハ經テ居リマセヌガ、卒直ニ申上ゲマス、關稅調査委員會ニ於キマシテハ、幹事會ニ提案ヲシテ改正スベキモノト云フコトニ決定ヲ致シテ居リマスカラ、是ハ必ズ遠カラヌ中ニ極ク最近ノ中ニ議會ニ提案サレルコトト考ヘテ居ルノデアリマス、是ハ御安心ヲ下サツテモ宜イダラ竝社會政策的ノ見地カラ、北海道ニ於ケル牛乳ノ事ニ付テ神部君カラ詳細ナ御陳述ガアリマシタガ、此點ニ付テハ神部君ノ御陳述ヲ事實トシテハ全然肯定スルモノデアリマシテ、御互ニ出來ルダケ是等ノ方面ノ事ニ努力シナケレバナラヌト思ウテ居ルノデ、「バタ

「ニ付テ最近ニ提案ヲシタイト云フ希望ノ如キモ其實現ノ一ツデアルト考ヘテ居リマス」

○神部委員 只今政務次官ノ御答デ大ニ満足ヲ致シマシタ、目下此ノ「バタ」ニ付テハ幹事會ニ於テ攻究ヲ致シテ居ラレト云フコトヲ承リマシテ、希望ヲ滿ツル時期ガ遠クアルマイト云フ御意見ヲ承リマシテ、大ニ満足ヲ致シタ譯デアリマス、私ノ質問ハ是デ止メマス

○武藤委員長 禱君

○禱委員 大藏大臣ト農林大臣ノ御出席ヲ願ヒタイ、御出席ガアリマシテモ私ノハ少シ長クナリハセヌカト思ヒマスカラ、若シ今日御差支ガアリマシタナラバ次ニ願ヒタイ

○武藤委員長 ソレデハ兩國務大臣ノ都合ニ依テ禱サンノハ後ニ願フコトニシテ、次ハ西脇君

○西脇委員 私ハ關稅定率法ノ改正中金液ノ問題ニ付テ聊カ質問シテ見タイト思ヒマス、既ニ此點ニ付テハ同僚ノ奥村君カラ詳シク質問ヲサレマシテ、大體ハ分リマシタガ、極メテ簡單ニ申上ゲタイト思ヒマス、我國ノ狀態デハ現在ノ金液ハ必シモ外國ノ品物ト拮抗シ得ル程度ニハ行ッテ居ナイヤウニ思フノデアリマス、是ハ見方ニ依ルカモ知レマセヌガ、染ミヲ出シタリ或ハ其含有金量ガ少イガ爲ニ、外國ヘ參ッテカラ剩ゲル憂ヒガアリハシナイカ、サウ

云フ危險性ヲ持ツト云フヤウニモ思ハレマスシ、又見タ目モ非常ニ惡イカラ、亞米利加アタリヘ參リマシテ、果シテ一流ノ店、若クハ紳士ノ家庭ニ使ハレルト云フコトハ必シモ出來ルモノデハナイト云フコトヲ承ッテ居ル次第デアリマス、ドウモ私共ノ考デハ、マダ之ヲ保護スル程度ニハナッテ居ナイヤウニ考ヘル次第デアリマス、サウ云フヤウナ狀態デアリマシテ、一面陶器ノ狀況ヲ見マスト、申スマデモナク我國デハ輸出品ノ第五位ニ當リマシテ、多イ時ハ殆ド三十八百萬圓モ出ルヤウデアリマス、此出ル品物ニ付テハ殆ド金液若クハ酸化「コバルト」ガ使ハレテ居ルノデアリマス、是レナクテハ殆ド陶磁器業ノ生命ハナイト言ッテモ宜シイノデアッテ、ソレニ斯ノ如キ高イ稅ヲ掛ケテ居ッテハ、到底獨逸、英國ノ如キ立派ナ品物ト競争スルコトガ困難デアルト云フヤウニ當業者ハ非常ニ心配ヲ致シテ居ルノデアリマス、マダ陶器業ガ幼稚ナ時代デアアルナラバ、今暫ク輸入稅ヲ撤廢サレマシテ、何等カ他ノ方法デ之ヲ御獎勵ナサル方法ガナイカ、而シテ當分ノ中金液ニ對スル所ノ輸入稅ヲ免除サレル御考ガアルカナイカト云フコトヲ大藏御當局ニ御聞キシタイノデアリマス、第二ニハ此金液ニ課稅シテ居ル爲ニ、却テ陶磁器ノ輸出ノ上ニ於テ非常ニ影響ヲ及ボシテ居ルト云フヤウナ實績ガアリハシナイカト云フコ

トヲ商工省當局ノ御考ニ御聞キシタイノデアリマス、尙ホ若シドウシテモ之ニ對シテ輸入稅ヲ免除スルコトガ出來ヌト云フナラバ、金液ハ陶器ニ着イテ全部外國ヘ行クノデアリマスカラ、使用量ニ對スル戻稅ト云フヤウナ方法デモ御講ジニナルコトハ出來ヌカドウカト云フコトヲ御聞キシタイノデアリマス、大ニ勇氣ヲ奮ッテ輸入稅ダケハ全部免除シテ他ノ方法デ獎勵スル御意思ハナイカドウカト云フ此二點ヲ承リタイノデアリマス

○榎瀨政府委員 西脇君ノ金液ニ對スル御尋ネハ、先般來商工省ノ實際其方面ニ當ッテ居ル當局ヨリ詳シク御説明ヲ申上ゲテアル筈デアリマス、昨年ノ議會以來此金液ノ問題ニ付テハ種々ナル御議論ガアリマシタ、我國ニ生産スル金液ハ外國金液ニ比較シテ甚ダ劣等ナモノデアアル、之ヲ使フコトニ依テ陶磁器ノ輸出ヲ阻害スル虞ガアル、故ニ此金液ハ外國品ヲ使フコトガ輸出獎勵ノ目的ヲ達スル上ニ於テ便宜デアアルカラ、輸入稅ヲ全廢シテハ如何デアアルカト云フコトヲ熱心ニ御主張ニナッタ方ガアリマス、商工省ハ昨年ノ此御主張ニ十分敬意ヲ拂ヒマシテ、其後ニ於キマシテモ御承知ノ「センクバイル」ノ製造ニ係ル金液ニ付テ、商工省所管ノ京都ノ陶磁器試驗所ニ於テ嚴密ナル比較研究ヲ致シマシテ試驗ヲ行ッタノデアリマス、此嚴密ナル試驗ノ結果ヲ見ル

ト、今日外國品トシテ輸入サレテ居ル所ノ「ハノービヤ」ノ金液ト何等遜色ガナイト云フ報告ヲ得テ居リマスガ故ニ、今直ニ昨年ノ御主張ニ基イテ此輸入品ニ對シテ無稅ノ政策ヲ執ルト云フコトマデ考ヘテ居ラヌノデアリマス、殊ニ「センクバイル」ニ於キマシテハ、昨年矢張其方面ニ從事致シテ居ル技師ガ海外ヘ參リマシテ、此金液製造ニ付テ十分新ナル研究ヲ積ンデ歸ッタコトモ承ッテ居リマスノデ、今後ハ一段ト優良ナル製品ヲ市場ニ出シ得ルト云フ確信モアルヤウニ承ッテ居リマスノデ、只今御希望ノ如ク直ニ外國品ニ對スル輸入稅ヲ廢スルト云フ考ハ只今ノ所持ッテ居リマセヌ、尙ホ第二ノ御尋ネノ内地品ヲ使フガ爲ニ陶磁器ノ輸出貿易ノ上ニ影響ガアルコトヲ認メナイカト云フ御尋ネデアリマスガ、只今ノ所デハ別段是ガ爲ニ陶磁器ノ輸出貿易ノ上ニ何等影響ヲ及ボシテ居ルモノト考ヘテ居リマセヌ、第三ニ戻稅ヲ出シテハドウカト云フコトノ御尋ネデアリマスガ、是ハ如何ナル分量ヲ此陶磁器ノ上ニ使用サレルモノデアアルカ、其分量ノ區分ガ殆ド付キ難イノデ、一ツノ方法デハアリマスケレドモ、是モ實行上極メテ困難ナモノデアルト考ヘテ、戻稅ノ問題ニシテモ只今直ニ之ヲ行フト云フ意思ヲ持ッテ居ラヌノデアリマス

○木暮委員 私ハ最初ニ印紙稅法ノ改正ニ付テノ疑點ヲ質シ、次ニ砂糖稅ニ



付テノ疑點ヲ質シタイト思ヒマス、先  
ツ御聞キシタイコトハ、記載金額一萬  
圓ヲ超ユルモノノ證書ニ付テハ從來ノ  
ヤウニ比例税法ヲ適用シナイデ、今度  
ハ十萬圓ニ付テモ二十萬圓ニ付テモ一  
圓ノ印紙稅ヲ貼レバ宜イト云フ改正ノ  
方針デアルト云フ御説明ヲ伺ヒマシタ  
ケレドモ、何處ニ其理由ガアルカト云  
フコトヲ判然私共ハ納得ガ出來ナイノ  
デアリマス、政府ガ私共ニ下サレタ「登  
録税法印紙稅法改正綱要」ト云フ小サ  
イ本ノ中ニモ、今度ノ改正ノ方針ト云  
フモノガ三ツノ範圍デアルト云フコト  
ヲチャント限ッテアル、其一ハ負擔ノ均  
衡ヲ保タシムルコト、其二ハ社會政策  
ノ效果ヲ擧グルコト、其三ハ稅務行政  
上ノ便宜ヲ圖ル爲ト云フ方針ニ出デタ  
モノデアルヲ御説明ニナッテ居リマス  
ガ、記載金額一萬圓ヲ超ユルモノヲ一  
圓ニ改メタト云フコトハ、誰ガ考ヘテ  
モ第一ノ理由ノ負擔ノ均衡ヲ得セシム  
ルト云フコトニ當ラナイ、一萬圓以上  
ノモノハ一圓デアアル、二十萬圓デモ三  
十萬圓デモ矢張一圓ト云フ定額デ印紙  
ヲ貼ルト云フコトハ、決シテ負擔ノ均  
衡ヲ得セシムル所以デナイ、ソレデハ  
第二ノ社會政策上ノ效果ヲ擧グルモノ  
デアルカト云フト、是多言ヲ要セズ  
シテ明カナル如ク、決シテ十萬圓二十  
萬圓ヲ一圓ニシテ比例税法ヲ適用シナ  
イト云フコトハ、社會政策上ノ效果ヲ  
擧グルモノデナイ、然ラバ第三ノ理由

トスル所ノ稅務行政財政上ノ便宜ト云  
フコトダケガ改正ノ理由ニナルモノト  
シカ私共ニハ見エマセヌ、併シ實際ニ  
於テ一萬圓以下ノ證書ハ澤山アリマス  
カラ、之ヲ定額稅ニシタコトハ稅務行  
政上ノ便宜ヲ圖ッテ趣旨ニ合フカ知レ  
マセヌケレドモ、二十萬、三十萬、百萬  
ト云フ證書ガサウ一萬圓以下ノ契約書  
ヤ證書ニ比較シテ澤山アルモノデナ  
イ、數ノ點ニ於テ澤山デナイトスレバ、  
必シモ稅務行政上ノ便宜ヲ圖ッテ云  
フ理由モ當ルマイト思ヒマス、シテ見  
レバ此改正ノ理由ハ三ツノ方針ノ何レ  
ニ該當スルモノデアアルカト云フコトニ  
付テ第一ニ伺ヒタイ

テ行ク積リデス、——他ノ機會ニ於キ  
マシテ他ノ政府委員ヨリ御説明申上ゲ  
テ居リマス通り、現在ノ比例稅ノ制度  
ト云フモノハ、印紙ヲ貼リマス場合ニ、  
其金額ニ對スル比例デ貼用スベキ印紙  
額ヲ計算シナケレバナリマセヌノデ、  
甚ダ不便デアリマス、不便デアリマス  
ノミナラズ、比例稅ノ結果ト致シマス  
テ、大キイモノニナリマスレバ相當高  
イ印紙ヲ貼ラネバナラヌ、最高百圓ニ  
限ッテ居リマスケレドモ、實際上非常ナ  
不便ガアルノミナラズ、相當高イ印紙  
ヲ貼ラネバナラヌト云フ結果ト致シマ  
シテ、實際ニ於キマシテハ此現行法第  
二條ノ規定ト云フモノハ勵行サレテ居  
ラナイ實例ニアルノデアリマシテ、折  
角規定ハアリマシテモ、ソレハ事實上  
實行サレナイト云フコトニナリマスレ  
バ、決シテ負擔ノ均衡ヲ得ル所以デア  
リマセヌ、不便デアアルノミナラズ、結果  
ニ於テ負擔ノ均衡ヲ得ナイト云フコト  
ニナリマスカラ、寧ろ之ヲ改正シテ實  
行ノシ易イヤウニシ、負擔ノ均衡ヲ得  
ルヤウニシタ方ガ宜イデハナイカト云  
フノデ改正シタノデアリマス、記載金  
一萬圓ヲ超ユルモノヲ一圓ト云フコト  
ニシテハ負擔ノ均衡ヲ得ナイデハナイ  
カト云フ御説デアリマスガ、稅務行政  
上ノ實際ノ便宜ト云フ趣旨デアリマス  
カラ、ソレニハ負擔ノ均衡ト云フコト  
ノ意味ガ入ッテ居ルノデアリマス、消費  
貸借ニ關スル證書ハ、舊定額ノ下ニ從

來ハ萬分ノ五ヲ課セラレテ居ルノデア  
リマス、然ルニ一面ニ於テ約束手形ノ  
如キハ三錢ノ定額稅デアリマス、約束  
手形ヲ發行シテ金ヲ借リル場合ニハ三  
錢デ宜シイ、普通ノ地方ニ於ケル農村  
ノ方ニガ借用證文デ金ヲ借リルト云フ  
場合ニハ、比例稅デ最高百圓迄ノ印紙  
ヲ貼ラネバナラヌト云フコトハ、必シ  
モ負擔ノ均衡ヲ得テ居ル所以デハナ  
イ、勿論約束手形ノ如キハ發行ノ度數  
モ多イシ、實際ニ於テ頻繁ニ發行サレ  
ルモノデアリマス、借用證文デ消費貸  
借ヲスル場合ト比較シテ、負擔ノ均衡  
ヲ得ル所以デナイト考ヘテ居リマス、  
主トシテ改正ノ理由ハ稅務行政ノ實際  
上ノ便宜ト云フコトト、ソレカラ同時  
ニ負擔ノ均衡ヲ得セシムル爲ニ斯ウ云  
フ改正ヲシタノデアリマス

○木暮委員 只今御説明ヲ聞イテ見ル  
ト、外ノ點ハ兎モ角モトシテ、此一萬圓  
ヲ超ユルモノノ證書ニ對シテ、十萬デ  
從來ノ一萬分ノ五ト云フ比例稅ヲ廢  
シ、全部一圓ノ印紙ヲ貼ルト云フコト  
ハ、御強辯ニナリマシタ如ク稅務行政  
ノ利益ガ主デアルト云フ御話デアリマ  
ス、一萬圓以上一圓ト云フコトハ稅務  
行政上ノ便宜ヲ主トシテ居ルト云フコ  
トハ只今仰セニナリマシタガ、御承知  
ノ通り登錄稅ト云フモノハ普通ノ財政  
學上ニ於ケル所ノ手数料ノ如キモノト  
違フト云フコトハ、此前黑田政府委員

第五類第二號 登錄稅法中改正法律案(政府提出)外三件委員會議錄 第七回

○藤井大藏書記官 ソコニ説明ヲ持ッ  
テ行ク積リデス、——他ノ機會ニ於キ  
マシテ他ノ政府委員ヨリ御説明申上ゲ  
テ居リマス通り、現在ノ比例稅ノ制度  
ト云フモノハ、印紙ヲ貼リマス場合ニ、  
其金額ニ對スル比例デ貼用スベキ印紙  
額ヲ計算シナケレバナリマセヌノデ、  
甚ダ不便デアリマス、不便デアリマス  
ノミナラズ、比例稅ノ結果ト致シマス  
テ、大キイモノニナリマスレバ相當高  
イ印紙ヲ貼ラネバナラヌ、最高百圓ニ  
限ッテ居リマスケレドモ、實際上非常ナ  
不便ガアルノミナラズ、相當高イ印紙  
ヲ貼ラネバナラヌト云フ結果ト致シマ  
シテ、實際ニ於キマシテハ此現行法第  
二條ノ規定ト云フモノハ勵行サレテ居  
ラナイ實例ニアルノデアリマシテ、折  
角規定ハアリマシテモ、ソレハ事實上  
實行サレナイト云フコトニナリマスレ  
バ、決シテ負擔ノ均衡ヲ得ル所以デア  
リマセヌ、不便デアアルノミナラズ、結果  
ニ於テ負擔ノ均衡ヲ得ナイト云フコト  
ニナリマスカラ、寧ろ之ヲ改正シテ實  
行ノシ易イヤウニシ、負擔ノ均衡ヲ得  
ルヤウニシタ方ガ宜イデハナイカト云  
フノデ改正シタノデアリマス、記載金  
一萬圓ヲ超ユルモノヲ一圓ト云フコト  
ニシテハ負擔ノ均衡ヲ得ナイデハナイ  
カト云フ御説デアリマスガ、稅務行政  
上ノ實際ノ便宜ト云フ趣旨デアリマス  
カラ、ソレニハ負擔ノ均衡ト云フコト  
ノ意味ガ入ッテ居ルノデアリマス、消費  
貸借ニ關スル證書ハ、舊定額ノ下ニ從

○木暮委員 只今御説明ヲ聞イテ見ル  
ト、外ノ點ハ兎モ角モトシテ、此一萬圓  
ヲ超ユルモノノ證書ニ對シテ、十萬デ  
從來ノ一萬分ノ五ト云フ比例稅ヲ廢  
シ、全部一圓ノ印紙ヲ貼ルト云フコト  
ハ、御強辯ニナリマシタ如ク稅務行政  
ノ利益ガ主デアルト云フ御話デアリマ  
ス、一萬圓以上一圓ト云フコトハ稅務  
行政上ノ便宜ヲ主トシテ居ルト云フコ  
トハ只今仰セニナリマシタガ、御承知  
ノ通り登錄稅ト云フモノハ普通ノ財政  
學上ニ於ケル所ノ手数料ノ如キモノト  
違フト云フコトハ、此前黑田政府委員

○木暮委員 只今御説明ヲ聞イテ見ル  
ト、外ノ點ハ兎モ角モトシテ、此一萬圓  
ヲ超ユルモノノ證書ニ對シテ、十萬デ  
從來ノ一萬分ノ五ト云フ比例稅ヲ廢  
シ、全部一圓ノ印紙ヲ貼ルト云フコト  
ハ、御強辯ニナリマシタ如ク稅務行政  
ノ利益ガ主デアルト云フ御話デアリマ  
ス、一萬圓以上一圓ト云フコトハ稅務  
行政上ノ便宜ヲ主トシテ居ルト云フコ  
トハ只今仰セニナリマシタガ、御承知  
ノ通り登錄稅ト云フモノハ普通ノ財政  
學上ニ於ケル所ノ手数料ノ如キモノト  
違フト云フコトハ、此前黑田政府委員

○木暮委員 只今御説明ヲ聞イテ見ル  
ト、外ノ點ハ兎モ角モトシテ、此一萬圓  
ヲ超ユルモノノ證書ニ對シテ、十萬デ  
從來ノ一萬分ノ五ト云フ比例稅ヲ廢  
シ、全部一圓ノ印紙ヲ貼ルト云フコト  
ハ、御強辯ニナリマシタ如ク稅務行政  
ノ利益ガ主デアルト云フ御話デアリマ  
ス、一萬圓以上一圓ト云フコトハ稅務  
行政上ノ便宜ヲ主トシテ居ルト云フコ  
トハ只今仰セニナリマシタガ、御承知  
ノ通り登錄稅ト云フモノハ普通ノ財政  
學上ニ於ケル所ノ手数料ノ如キモノト  
違フト云フコトハ、此前黑田政府委員

ノ御説ノ通り、一種ノ流通税ト申シマセウカ、交通税ト申シマセウカ、財産權ノ創設移轉ニ應ジテハ是ハ登録税デアルト致シマシタナラバ、近頃ノ税ノ趨勢ハ比例税サヘモ緩慢デアル、段々累進税マデモ課シテ行カナケレバナラヌト云フ觀念ガ發達シテ來テ居ルノデアアル、税務行政上ノ便宜ト云フコトヲ主タル點トシテ、サウシテ十萬圓、二十萬圓ニ悉ク一圓ノ印紙ヲ貼用スルコトハ、今ノ社會政策ノ上カラ云フト負擔ノ衡平ヲ得タモノデハナイト私ハ考ヘテ居リマス、此點ハドウデゴザイマスカ

○藤井大藏書記官 比例税ヲ廢止致シマシテ階級定額税ヲ採ッタト云フノハ、主トシテ税務行政實行上ノ便宜ト負擔ノ衡平ト此兩方面カラノ理由ガアルト云フコトヲ申上ゲタノデアリマスガ、税務行政實行上ノ便宜ト云フコトハ、私申シマセデモ直ニ御了解下サルコトト思ヒマスガ、先刻モ簡單ニ申シマシタ通り、比例税ノ制度ヲ置イテ置キマシテモ、其比例税ガ實際ニ於テ行ハレナイト云フコトニナリマスレバ、規定ノ上ニハ宜シイヤウデアリマスケレドモ、事實上負擔ノ衡平ヲ得ナイ、況ヤ從來カラ定額税ヲ課シテ居ルモノトノ間ニ權衡ヲ得ナイ、斯ウ云フ趣旨ニ於キマシテ、今度ノ改正ハ此點ニ關シテ矢張税務行政實行上ノ便宜ト云フコトト、負擔ノ權衡ト云フコトト、此兩方面

ノ理由ヲ包含スルト斯ウ云フ趣旨ニ於テ御答致シタノデアリマス、尙ホ最近ニ於ケル租税制度ノ趨勢ハ、寧ろ累進税ヲ課スルト云フ方面ニ走リツツアル、然ルニ之ヲ定額税若クハ階級定額税ニ直スノハ、其趨勢ニ反スルノデヤナイカト云フ御意見ノヤウデアリマスカ、勿論累進税率ヲ適用スベシト云フ要求ガアリマスガ、是ハ御説ノ通りデアリマスガ、ソレハ寧ろ所得税ノ如キモノニ於キマシテ、其人ノ所得ヲ全部綜合致シマシテ、ソレニ依テ其人ノ税ヲ納メ得ベキ能力ヲ測定シ、ソレニ對シテ累進税率ヲ課スト云フノガ理論ノ要求デアリマシテ、例ヘバ現行ノ日本ノ制度ニ於キマシテモ、所得税ニ對スル補完税トシテ設ケテアリマス地租、營業收益税、資本利子税ト云フヤウナ如キモノハ、其人ノ全部ノ力ヲ捉ヘルコトハ出來マセヌノデ、其一部分ダケノ方面シカ出テ居ナイノデアリマスカラ、之ニ對シテ累進税率ヲ課スルト云フコトハ、大ニ議論ノ餘地ガアルモノト私共ハ考ヘテ居リマス、御承知ノ如ク日本ノ所得税ニ對スル補完税ハ、全部比例税デアリマス、隨ツテ累進税率ヲ適用スル方ガ、其人ノ負擔力ニ應ズルト云フ理論ノ立チマス場合ニ於テハ、成ベク累進税率ヲ適用スルト云フコトガ公正ヲ得ル所以デアアルノデアリマスカ、印紙税ノ如キニ於キマシテ累進税率ヲ用ユルト云フコトハ、是ハ大ニ考慮

ヲ要スル所デアラウト考ヘテ居リマス、例ヘバ今度ノ改正ニナツテ居リマスコ、消費貸借ト云フモノヲ例ニ取リマシテモ、借金ノ額ガ多イカラソレデ累進税率ヲ適用スルト云フコトニナリマス、是ハ實際ニ合ハナイコトニナルデハナイカト思ヒマス

○木暮委員 成ベク議論ヲ避ケマスカ、一寸誤解ヲ解イテ置キマス、私ハ印紙税ニ累進税率ヲ適用シロト言ッタノデハナイノデアリマス、比例税デサヘモ尙ホ緩慢ダト云フノデ、段々累進税率マデモ適用シヤウト云フヤウナサウ云フ時勢ニナツテ來テ居ル、其時一萬圓以上ノモノハ十萬デモ二十萬デモ一圓ノ定額ニシテ置クト云フコトハ、是ハ現在ノ社會正義ノ觀念ニ反シハシナイカト云フコトデ、何モ具體的ニ印紙税ニ累進税率ヲ適用シロト云フコトヲ申シタノデハナイ、流通税ノ性質トシテ困難デアルト云フコトハ私モ知ツテ居リマス、此處ハ誤解ノナイヤウニ、後ハ議論ニナリマスカラ此點ニ付テハ御同致シマセヌ、ソレカラ第二ノ貯金銀行法ノ第一條ニ依ル所ノ貯金通帳トカ、積金通帳ト云フヤウナモノニ對シテ、印紙ヲ今迄貼ツテ居ッタモノヲ廢メタ、此理由ハ政府ノ發表シテ居ル所ノ三ツノドレニ適合シテ居ルカト云フコトヲ伺ヒタイ

○藤井大藏書記官 御承知ノ如ク現行ノ印紙税法ニ於キマシテハ、貯蓄銀行ノ通帳ヤ積金通帳ト云フヤウナモノニ對シマシテハ、他ノ定額税ハ全部二錢若クハ三錢デアリマスノニ、特ニ之ヲ一錢ノ低イ税率ヲ適用シテ居ッタノデアリマス、其趣旨ハ主トシテ斯ノ如キ零細ナル資金ニ關スルモノニ對シテ負擔ヲ成ベク輕クシヤウト云フ趣旨デ、他ノ定額税ヨリカ特ニ低メマシテ、僅カ一錢ノ印紙ヲ貼用スルコトニシテ居ツタノデアリマス、其趣旨ヲ更ニ一歩進メマシテ、寧ろ此際斯ノ如キモノハ免税ヲシタラ宜カラウト云フノデ改正ヲシタノデアリマス、今回第二次税制整理ヲ行ヒマシタ大體ノ方針ト致シマシテ、數箇條ノ點ヲ書イテ居リマスガ、此改正ヲ行ヒマス、總テ此三ツノドレニ入レルカト云フ、嚴重ナ意味デ御調ベテ願ヒマス、或ハ其一ツニ適合スルモノモアリマス、或ハ其二ツ三ツニ適合スルモノモアリ、全部ニ當嵌マルモノモアリマス、場合ニ依リマシテハ必シモドレニ這入ルト云フコトヲ明瞭ニ申上ゲ兼ルモノモ出來ルノデアリマス、貯金通帳等ノ免税ヲ致シマシタノハ、從來ノ一錢ト云フ特ニ低イ税率ヲ適用シテ居ッタモノヲ、一歩進メテ寧ろ此際免除シタ方ガ宜カラウト云フ趣旨デ左様ニ致シタノデアリマス

○木暮委員 ドウモ其處ガハッキリシマセヌガ、零細ノ資金ニ對スル負擔ヲ輕クスルト云フ意味ハ、ドウ云フ意味カ一寸分ラヌガ、アナタノ仰シヤル意



味ハ此間黒田主税局長ガ仰シヤッタ通  
リ、此印紙ヲ免稅シテサウシテ貯金ノ  
獎勵ダト云フヤウナ意味ニシヤウト  
云フ、斯ウ云フ御意思デスカ、或ハ利子  
ヲ引下ゲルト云フヤウナ御意思デス  
カ、資金ノ負擔輕減ト云フノガ分リマ  
セヌガ

○藤井大藏書記官 零細ナル資金ニ關  
スル斯ノ如キ通帳ニ對シテ負擔ヲ輕ク  
致シマスレバ、ソレデ實際ノ金利ノ方  
面ニ於キマシテモ好影響ヲ與ヘマセウ  
シ、又一面ニ於テハ獎勵ノ趣旨モ此處  
カラ出テ來ルト思ヒマス

○木暮委員 此前モ矢張政府當局ノ方  
ハ此問題ニ付テハ貯金ノ獎勵ト利子ノ  
引下ト云フヤウナコトヲ主トシテ御強  
辯ニナツテ居ルノデアリマスケレドモ、  
私共ハ此印紙ヲ免稅シタカラト云ツテ、  
貯金ノ獎勵ニナルモノデハナイト考ヘ  
テ居ル、何トナレバ預ケル人ガ貯金通  
帳ニ印紙ヲ貼付スルノデアリマシタナ  
ラバ、貯金銀行ノ預人ハ貼ラナイデモ  
宜イト云フコトニナリマシタナラバ翁  
然トシテ之ニ集ツテ貯金ノ獎勵ト云フ  
コトガ出來マスケレドモ、是ハ預ケル  
人ガ貼ルノデナクシテ銀行ガ貼ルノデ  
アル、唯、銀行ノ營業費ヲ幾分カ——  
ソレモ小使ノ一人ヲ減シタ位ノ程度ノ  
經費ニ對シテ負擔ヲ輕減シタルト云  
フ意味ニハナリマセウケレドモ、決シ  
テ貯金ヲ獎勵スルト云フコトニハナル  
マイト思フ、ソレカラ利子ヲ引下ゲル

ト云フコトヲ此前モ黒田サンガ盛ニ論  
ジテ居リマシタケレドモ、利子ヲ引下  
ゲルト云フコトハ印紙稅ヲ一錢位無ク  
シタノデ利子ヲ引下ゲルナラバ、金融  
組織ノ改善モ要ラナケレバ、資金ノ積  
極的供給組織モ要ラヌコトニナル、サ  
ウ云フコトハ私ハ諍辯ニ等シイモノト  
考ヘテ居ル、此貯金銀行ノ通帳若クハ  
積金ノ通帳ナドニ對スル免稅ト云フモ  
ノハ、政府ノ發表シタ社會政策的ノ意  
味デモナク、負擔ノ衡平ヲ得ルト云フ  
意味デモナク、或ハ稅務行政上ノ便宜  
ノ爲デモナイトスレバ、何等ノ方針ガ  
ナクシテ、唯、貯金銀行ノ歡心ヲ買フ  
程度ニ止マルモノデハナイト私ハ考ヘ  
テ居ル、若シモウ少シ皮肉ナ言葉ヲ以  
テ言ヘバ、此貯金銀行ノ貯蓄ト云フモ  
ノヲ獎勵シヤウト云フ御意見ナラバ、  
寧ロ印紙ヲ廢止スルト云フコトヨリ  
モ、最近頻繁ニ起ツテ居ル大藏當局ノ監  
督緩慢ナル爲ニ、幾多零細ナル貯金者  
ニ對シテ迷惑ヲ掛ケテ居ルコトナドヲ  
嚴重ニ取締ツテ、サウシテ銀行ノ信用ト  
云フモノヲ一般ノ間ニ植付ケテ、安全  
ニ貯金銀行ト云フモノハ政府ガ是ダケ  
骨ヲ折ツテ居ルカラ、安心ダト云フコト  
ヲ宣傳ナサル方ガ貯蓄ノ獎勵ニハ積極  
的ニ效果ガ舉ガルデアラウト思フ、印  
紙ヲ減ラシテモ其印紙ハ預ケル人ガ貼  
ルモノデモ何デモアリマセヌ、詰リ資  
本ヲ持ツテ居ル銀行家ガ貼ルベキ印紙  
ヲ免稅シタル、斯ウ云フコトハ少シ

モ利子ノ引下ゲアルトカ、或ハ貯金ノ  
獎勵ニナルマイト私ハ考ヘマスガ、ド  
ウデゴザイマスカ

○武内政府委員 木暮君ノ御意見ハ御  
意見トシテ拜聽シテ置キマスガ、貯金  
帳ノ印紙ガ減レバ、減ルダケ、ソレダケ  
貯金者ニ利益ガアル、成程御説ノ通り  
非常ナ偉大ナモノデモアリマスマイケ  
レドモ、要スルニ其負擔ハ何處ニ歸ス  
ルカト言ヘバ、矢張貯金者ニ歸スル譯  
デアリマスカラ、幾ラカノ利益ニナル  
ト云フコトハ爭フコトノ出來ナイコト  
デアラウト思ヒマス、サウデアリマス  
ナラバ、成ベク零細ノ金ナドヲ貯金ス  
ル人ニ對シテ、幾ラカノ負擔デモ輕減  
スルト云フコトハ當然執ルベキ問題デ  
アラウト思ヒマス、其他ノ貯金ノ獎勵  
トカ何トカ云フコトニ付テ種々ノ方策  
モアルデアラウ、ソレモ御尤ナ問題デ  
アリマシテ、政府ニ於テハサウ云フ點  
ニ付テ十分考慮スル積リデアリマス

○木暮委員 今御名前ハ一寸存ジマセ  
ヌガ、御若イ方——藤井サンノ御答辯  
ノ中ニ、政府ガ登錄稅及印紙稅改正綱  
要ト云フモノヲ委員ニ吳レマシタ、此  
中ニ今度ノ改正ニ當ツテ三ツノ方針ガ  
明記シテアリマスガ、必シモ今度ノ改  
正ト云フモノハ此三ツノ方針ニ入ラナ  
クトモ差支ナイモノダト云フコトヲ藤  
井サンガ仰シヤッタガ、武内サンモ其御  
意見デ宜イカ、之ヲ承ツテ置キマス  
○武内政府委員 ソレハドウ云フ風ニ

書イテアリマスガ、一寸心得マセヌガ、  
大體案ノ趣意ヲ大別スレバサウ云フコ  
トニナルト云フ梗概ヲ以テ申上ゲタダ  
ケデアリマシテ、必シモソレニ適合シ  
ナイモノガナイトモ言ヘナイノデアラ  
ウカト思ヒマスガ、大體ノ上カラ、大局  
ノ上カラ申シマスレバ、大體サウ云フ  
方針ニ依テ法案ガ立案サレタ、斯ウ云  
フ風ニ御諒解ヲ願ヘマス結構ト思ヒ  
マス

○木暮委員 サウシマス大體ノ上カ  
ラ言ヘバ、今度ノ改正ハ國民ノ租稅負  
擔ノ均衡ヲ得セシムルコトト、ソレカ  
ラ此社會上、經濟上ノ現況ニ照シテ、成  
ベク社會政策ノ效果ヲ舉ゲヤウ、モウ  
一ツハ稅務行政ノ便宜ヲ圖ラウト云フ  
ノデアアルガ、今ノ貯金ノ通帳ヤ、積金ノ  
通帳、其他ノ免稅ト云フモノハ、議論ハ  
只今藤井サンガ仰シヤッタ方ガ好クテ、  
之ヲ減シタガ爲ニ貯金ガ殖エルトカ、  
或ハ貯金ノ獎勵ニナルトカ、利息ヲ下  
ゲルトカ云フコトニナリマセウケレド  
モガ、大體ミニシタ所デモ、政府ガ此登  
錄稅及印紙稅改正綱要ニ書イテアル三  
ツノ目的ニハ、洵ニ懸離レタモノデハ  
ナカラウカト思ヒマスガ、サウ解釋  
シテ宜シイノデアリマスガ  
○武内政府委員 ソレハ私ガ曩ニ申上  
ゲマシタヤウナ風ニ、零細ナル貯金ヲス  
ル人ノ成ベク負擔ヲ輕減スルト云フヤ  
ウニナレバ、矢張社會政策ノ實行ト云  
フコトニ該當スルモノト考ヘルノデア

リマス

○木暮委員 其點ガ私共ト違フノデア  
リマスガ、社會政策ト云フコトハ御承  
知ノ通り是ハ經濟上ノ分配論カラ出發  
シテ居ル議論デ、零細ノ金ヲ積ムトカ、  
若クハ資本ノ集積トカ、富ノ集積トカ  
云フコトハ、是ハ謂ハバ資本生産ノ方  
面ニ關スル問題デアツテ、之ヲ貧乏人ノ  
積金ヲ獎勵シタカラト言ツテ、ソレガ社  
會政策ニナルト云フヤウナコトハ少シ  
カラウカト私ハ考ヘテ居ル、社會政策  
ト云フコトハ寧ロ分配論カラ出發シタ  
モノデアツテ、是ハ今御説明ノヤウニ矢  
張貯金ヲ段々獎勵シテ行ツテ、零細ナ金  
ニ對シテ負擔ヲ輕減シテヤルト云フコ  
トガ社會政策ダト仰ッシャルガ、其結果  
ト云フモノハ貯金ノ獎勵ニナリ、資本  
ノ集積ニナリ、富ノ集積ニナル以上ハ、  
是ハ善イトカ惡イトカ云フ議論ハ別デ  
アリマスガ、社會政策的效果ヲ舉ゲル  
ト云フ中ニ入レルト云フコトハ、少シ  
私ハドウカト考ヘテ居リマスガ、如何  
デスカ

アリマス、其理由ヲ一ツ伺ヒタイト思  
ヒマス、只今武内サンハ、議論ノ違ヒデ  
アルカラ辯駁ハシヤウトハ思ハヌト云  
フ御話デアリマスケレドモ、前申上ゲ  
タ通り此一萬圓以上十萬圓二十萬圓ト  
比例稅デ取レバ澤山印紙稅ガ取レルノ  
ニ、サウ云フヤウニ社會政策的效果  
ヲ加味セズ、負擔ノ均衡ヲ得セシムル  
ト云フヤウナ事ヲ加味セズ、唯單ニ稅  
務行政上ノ便宜ト云フコトバカリ著目  
シテ、一圓ト云フ印紙十萬圓デモ二  
十萬圓デモ濟マスト云フコトヲ致シ  
テ、ソレカラ又此貯金ノ通帳デアルト  
カ積金ノ證書ト云フヤウナモノハ、特  
別ニ何モ之ヲ免稅スルト云フコトノ理  
由ハナイノニ之ヲ免稅シタガ爲ニ缺陷  
ヲ生ジテ、サウシテ此通帳ノ三錢ノモ  
ノヲ五錢ニシタト云フコトニ付テハ、  
私共ハ洵ニ改正デナクシテ、改惡デハ  
ナカラウカト考ヘテ居ル、議論ヲ申上  
ゲテ恐入ルケレドモ、此質問ヲ致シマ  
スノニ一寸御話ヲ申上ゲマセヌト分リ  
マセヌガ、私共ノ考ヘテ居ルノハ、一體  
印紙稅ノ中ニ此通帳ノヤウナ廣ク一般  
ニ行ハレテ居リマスモノノ印紙ノ收入  
ト云フモノハ割合ニ大キイシ、又之ヲ  
上ゲズニ置キマシテモ經濟上ノ取引ガ  
頻繁ニナリ、國民經濟ガ活躍シテ參リ  
マス、徵稅ノ手數ト云フモノハ掛カ  
ラナイデ國庫ノ收入ト云フモノハ増  
ス、此性質ヲ通帳ノ印紙稅ナドガ持ッテ  
居ルノデアリマス、唯缺點トシテハ此

○武内政府委員 前ニ申上ゲタ通りデ  
アリマスカラ、木暮君ガ左様ニ御解釋  
ニナレバ、ソレハ御意見デアリマスガ  
ラ、此際別ニ木暮君ノ御意見ハ辯駁ス  
ル考ハ持チマセヌガ、私共ハ左様ニ解  
釋致シマス

通帳ナドノ印紙ト云フモノハ、動トモ  
スルト其轉嫁筋道ガ少シ怪シクナツテ  
來テ、經濟上ニ於テモ弱イ者ノ方ノ負  
擔ニ是ガ轉嫁サレルヤウナ傾キガアル  
ト云フコトガ缺點デアリマス、サウ云  
フ點カラ考ヘテ來ルナラバ、此通帳ノ  
ヤウニ一般ノ廣ク行ハレテ居ルモノ  
デ、而モ國民經濟ガ活躍シテ取引ガ頻  
繁ニナツテ來レバ、自然ニ收入ガ増シテ  
來テ、徵稅ノ費用ト云フモノハ掛カラ  
ズシテ、而モ是ガ一步誤ッタナラバ經濟  
上ノ弱者ノ方ニ轉嫁サレルヤウナ、間  
接的ニ惡結果ヲ及ボス通帳ノ印紙稅ト  
云フモノヲ、此際方針ヲ誤ッテ引下ゲタ  
モノノ代リニ上ゲルト云フコトハ、私  
ハ筋道ガ違ヒハシナイカト云フコトヲ  
考ヘテ居リマス、此點ニ付テハ如何デ  
カザイマス

○武内政府委員 此通帳デスガ、色々  
細カイ御議論ヲスレバ細カイ議論モ出  
來ルト思フノデアリマスガ、大體ニ常  
識的ニ考ヘマシテ、通帳ノ如キモノハ  
當リ前ノ請取ナドト比較シマスルト、  
請取ヲ十通モ二十通モ書クモノガ茲ニ  
集メテアルノデアリマスカラ、少シク  
高クテモソレガ非常ニ負擔ガ重イト云  
フ譯ノモノデハナカラウト云フヤウナ  
趣意ニ基キマシテ、幾ラカ上ゲテ居ル、  
成ベク安イ方ガ宜イコトハ宜イノデア  
リマスガ、先ヅ大體ソウ云フ考デアリ  
マシタヤウナ次第デアリマス

○木暮委員 今御説明ヲ聽クト、受取  
證ナドトハ違ッテ澤山書込ガアルカラ  
ト云フヤウナ御話ガアリマシタケレド  
モ、是ハ武内サンモ御承知ノ如クニ  
印紙稅ト云フモノハ、先程藤井君ノ  
御説明ニ依テモ、之ヲ比例稅ニスル方  
ガ條理ノ上カラ言ッタラ當然デアアルダ  
ラウケレドモ、之ヲ今度改メタノハ、ド  
ウモ徵稅ヲ逃ゲラレル傾ガアル、或ハ  
徵稅上ノ色々ノ便宜上斯ウ變ヘタト云  
フコトヲ仰シヤッタノデアアル、其通りニ  
此印紙稅ト云フモノハ、高クナレバ逃  
ゲル虞ガアリマスカラ、成ベク此通帳  
ノ印紙稅ト云フモノハ低クシテ置イテ  
モ國民經濟ガ活躍シテ取引ガ頻繁ニナ  
ツテ來レバ、是ハ徵稅費ヲ餘計掛ケナ  
クテモ國家ノ收入ハ増スノデアリマシ  
テ、通帳ノ印紙稅ヲ上ゲルト云フ理由  
ハ私ハアルマイト思フノデアリマス、  
サウスルト今日此通帳ノ印紙ヲ上ゲタ  
ト云フノハ、受取證ニ比較シテ非常ニ  
金額ガ澤山書カレテ居ルト云フ御考ダ  
ケデアアルガ、併シ是ハ通帳ナドノ印紙  
稅ト云フモノハ、動モスレバ間接稅ノ  
惡イ傾向ヲ持ッテ經濟上ノ弱イ人達ノ  
上ニ轉嫁スルト云フヤウナ虞ガアルト  
云フコトハ御考ニナラナカッタカドウ  
カ之ヲ一ツ伺ッテ置キタイ

○武田政府委員 サウ云フ御説ノヤウ  
ナ場合モ生ジテ來マセウガ、私ノ家ナ  
ンカモ五ツヤ十ノ通帳ガ來テ居リマス  
ガ、又「ハイカラ」ノ店ニナルト一ツ一  
ツ受取證ヲ出シテ居ルノデ、ソレニ三

錢印紙が貼ッテアリマス、通帳ハ一ツ貰  
ツテ置キマスレバ、一箇年ハ一ツデ濟  
ム、ソレデ「ハイカラ」ナ店デ出ス十通  
分二十通分ニ相當スル效力ガアリマス  
カラ、現在ノ所デハ少シ安過ギル、之ヲ  
少シ上ゲテモ其事ガ負擔ノ權衡ヲ失ス  
ル所以デナイト考ヘテ居リマス、ソレ  
ガ何處ヘ轉嫁スルトカ、轉嫁シナイト  
云フ經濟上ノ問題ハ、非常ニ微妙ナモ  
ノデアリ、復雜ナモノデアリマスルカ  
ラ、色々御説ノヤウナ事ガ出來テ來ル  
場合モアリマセウケレドモ、サウ云フ  
事ニ非常ニ重キヲ置イタノデナクシ  
テ、只今申シマシタヤウニ大體ソレヲ  
常識的ニ見テ、負擔ノ均衡ヲ期スル上  
カラ是レ位ノ程度ガ相當ト考ヘタ次第  
デアリマス

○木暮委員 大變議論ガ懸離レテシマ  
ツテ居リマスカラ、質問シテモ要領ヲ  
得マセヌカラ、遺憾デアリマスガ印紙  
税ノ方ハ時間モアリマセヌカラ是デ打  
切ッテ砂糖税ノ質問ヲ致シマスガ、午後  
モアヤリニナリマス

○武藤委員長 ヤリマス

○木暮委員 少シ砂糖税ノ方ハ長クナ  
リマスカラ午前ハ是デ……

○高橋委員 管理局ノ方面ノ一事項ダ  
ケ質問ヲ御許シテ願ヒマスガ、此前主  
ニ山形縣ノ實例ヲ以テ荒蕪地ノ拂下ハ  
頗ル苛酷ノ取扱ヲヤッテ居ル、是ガ爲ニ  
民間ニ於ケル殊ニ小農階級ノ者ガ非常  
ナル脅威ヲ感ジテ居ル、デスウ云フ事

ハ政府ノ方針トシテ極力避ケテ居ルノ  
デアル、元來荒蕪地ヲ耕地トシテ開墾  
ヲ致スト云フ場合ニハ、素地ノ値段ト  
シテ、勞働力等ヲ之ニ加味シタ爲メニ  
土地ノ價格ヲ増加シタノデアルカラ、  
無願開墾ト雖モ其素地ノ値段段拂下ゲ  
ルト云フコトハ、取扱上ノ原則ト致シ  
テ居ル、斯ウ云フヤウナ大體ノ御答辯  
デアッタノデアリマスガ、ソレニ對シテ  
種々個人的ニ質問應答ヲシタ結果トシ  
テ、山形縣ニ於ケル實狀ハ能ク調査シ  
ナケレバ分ラヌ、ソレデ此御大葬ノ機  
會ニ仙臺ノ管理局長ガ上京スルカラ、  
能ク實情ヲ聽取ノ上政府ノ意見ヲ開陳  
スル、斯ウ云フコトニ承ッテ居ッタノデ  
アリマス、私ノ質問ヲ致シタ事項ノ要  
旨ト云フモノハ御分リノ管デアリマス  
カラ、此處デ繰返サズニ御答辯ヲ求  
マス

○太田政府委員 御尋ネノ點ニ付キマ  
シテハ、仙臺局長ガ參リマシタカラ、能  
ク話ヲ致シテ置キマシタ、御話ニナッテ  
居リマシタ具體的ノ問題ニ付キマシテ  
ハ、仙臺局長ハ能ク存ジテ居リマセヌ  
ノデアリマシテ、其方ノ事ハ歸リマシ  
テ能ク實施ヲ取調ベル、斯様ニ申シテ  
歸リマシタノデアリマス、ソレデ山形  
縣ノ方ニ付テハ、既ニ豫算モ貴衆兩院  
ノ協賛ヲ受ケマシテ成立シタノデアリ  
マスカラ、苛酷ニハ取扱ハナイ方針デ  
アリマス、今御話ニナリマシタ特殊ノ  
問題ニ付キマシテハ、仙臺局長ハ全然

知ラナイノデアリマスカラ、歸リマシ  
テ篤ト取調ベテ至急報告スルヤウニナ  
ツテ居リマス、左様御承知ヲ願ヒタイ  
○高橋委員 少シモ要領ヲ得ナイコト  
ヲ仰シヤルノデアリマスガ、サウスル  
ト斯ウ云フコトニ解釋シテ宜シイノデ  
アリマスガ、山形縣ニ於ケル實例ト云  
フモノハ、政府ノ方針デナイノデアル、  
偶々一稅務署長ガ間違ッテ、政府ノ方針  
ヲ誤解ヲ致シマシテ、サウシテ收入主  
義ニ基イテ苛斂誅求ヲヤッタノデアリ  
マシテ、ソレハ本省ノ趣旨デハナイ、斯  
ウ云フヤウナコトデアアル、若シ私ノ申  
上ゲタヤウナ事實ガアッタトスレバ、サ  
ウ云フコトニ解釋シテ宜シイノデアリ  
マス

○太田政府委員 ソレハ一般的ノ方針  
ハサウ云フコトデアリマスカラシテ、  
稅務署長ノ取扱ッタコトハ能ク調ベテ  
見マセヌト、其間ニ於テ何カ兩者ノ間  
ニ意思ノ疏通ヲ缺イテ居ラレルカモ知  
レマセヌカラ、個々ノ問題ト致シマシ  
テハ能ク其事情ヲ調ベタ上デナイト、  
何トモ申上ゲ兼ネルノデアリマス、一  
般的ノ方針ト致シマシテハ只今申上ゲ  
マシタ通りデアリマスカラ、サウ云フ  
方針デ私共ノ方デハソレヲ取扱フ積リ  
デアリマス

○高橋委員 諄イヤウデアリマスガ、  
ドウモハッキリシナイノデアリマス、個  
個ノ問題ニ付テハ實地取調ヲシナケレ  
バ分ラヌト云フコトハ仰セノ通りデア  
リマス、併ナガラ大藏省管内ノコトデ  
ハ、他ノ農林省ノヤッタコトガ、商工省  
ノヤッタコトデアレバ、己ハ知ラヌト云  
フコトヲ言ハレテモソレハ仕方ガアリ  
マス、併ナガラ大藏省ノ管内デヤッ  
テ居ル事柄デアリマスカラ、サウ云フ  
ボンヤリシタ御答辯ヲ承ッテハ、吾々ハ  
満足ガ出來ナイノデアリマス、ソレデ  
此種ノ問題ニ關スル御取扱ノ原則ヲ能  
ク承ッテ置カナケレバナラヌノデアリ  
マスガ、無願開墾地デアリ、其荒蕪地ト  
云フモノハ、多クノ實例ハ河成地デア  
ル、此河成地タル荒蕪地ヲ無願開墾ヲ  
致シタ、今度國有財産ノ整理ニ當ッテ、  
ソレニ向ッテ他ノ類地ト比較ヲ致シテ、  
ソレニ加ヘタル所ノ勞力トカ資本トカ  
ト云フモノヲ考慮セズ、甚シキニ至ッテ  
ハ、其勞力タルヤ冬期アタリノ、仕事ノ  
ナイ時期ノ勞力ヲ以テヤッタノデア  
ルカラ、其勞力ト云フモノハ零デア  
ル計算シテ宜シイデハナイカ、ソレデア  
ルカラ其勞力ナドハ吾々ハ考慮ノ中ニ置  
ク必要ハナイ、斯ウ云フヤウナコトデ  
ヤッタト云フヤウナコトデアリマスレ  
バ、全然其土地ニ加ヘタル勞力トカ資  
本トカラ認メズシテ、而シテ其附近ニ  
在ル所ノ類似ノ地所ノ想定ノ賣買價格  
ト云フヤウナモノヲ標準ト致シテ、ソ  
レニ依テ現在ノ問題ニナッテ居ル所ノ  
無願開墾地ノ價格即チ政府ノ拂下價格  
ヲ決定ヲ致シタト云フコトニ事實ハナ  
ツテ居ル、サウ云フコトガ若シ茲ニアッ

タト致シタナラバ、私ノ申上ゲルヤウ  
ナ事實及事情ヲ御了解ノ上ニ、サウ云  
フ事實ガ實際現實サレタトシタナラ  
バ、ソレハ政府ノ方針ニ基イテ居ルノ  
デアルカ、政府ノ方針ニ基カナイノデ  
アルカト云フコトヲ承テ置キタイ

○武内政府委員 只今ノ御尋ネニ付キ  
マシテハ、大體政府委員カラ申上ゲマ  
シタヤウナ風ニ、今急速ニ調査中デア  
リマス、只今御意見モアリマシダケレ  
ドモ、或ル事實ヲ假定シテ、斯ウ云フ事  
實ガアレバソレハ政府ノ方針ニ反スル  
トカ、反セヌトカ云フヤウナコトハ、政  
府トシテ申上ゲ兼ネマス、成ベク急速  
ニ只今御話ニナリマシタヤウナ事實ガ  
アルカナイカラ調査シタ上ニ於キマシ  
テ、十分ソレハ或ハ方針ニ反スルトカ  
反シナイトカ、是ハ斯ウスベキモノデ  
アルトカ云フ意見ヲ申上ゲルコトニ致  
シタイト思ヒマス

○高橋委員 ドウモ責任通レノヤウナ  
御答辯ニナルヤウデアリマスルガ、私  
ハ大藏省ノ御取扱ニナッテ居ル所ノ原  
則ト云フモノガ、吾々ハ腑ニ落チナイイ  
ラ、實在シタ事實ダト申上ゲルト、又答  
辯ニ支障ヲ生ズルト思ハルカラ、實  
際ノ事柄ヲ態ト假定の事實ヲ此處ニ申  
上ゲテ、サウシテソレニ付テ御意見ヲ  
承ツタノデアアル、サウ云フ事實ヲ認メル  
ヤ否ヤト云フノデナイ、アナタ方ノ御  
取扱ニナッテ居ル方針ヲ吾々ハハッキリ  
會得スル爲ニ、即チ責任免レデナク、ハ

ツキリト御答辯ヲ煩ハス爲ニ、假定的  
事實トシテ御伺ヒ致シタノデアアル、若  
シ御分リニナラナカッタナラバ、實際私  
ハアナタ方ノ腑ニ落チルヤウニ説明ノ  
出來ル物件ヲ多數持ッテ居ルカラ、御目  
ニ懸ケテモ宜シイノデス

○太田政府委員 實ハ之ニ付キマシテ  
ハ、從來ノ方針ニ於キマシテ、開墾ス  
ル場合ニ於キマシテハ、國有財産法ノ  
規定ニ依リマシテ、豫メ先ニ願出ヲシ  
マシテ、サウシテ其開墾成功ノ上ニ於  
テ拂下ヲ受クベキモノノ價格ヲ豫メ定  
メテ居ルノデアリマス、サウ云フ手續  
ヲシナカッタモノニ付キマシテハ、從來  
ノ方針ニ於キマシテハ、ソレハ無斷デ  
ヤッタカラト云フ意味ニ於テ、比較的其  
價格ナドヲ嚴重ニ見マシテ、比較的高  
イ所ノ價格デ拂下ゲタ例ガ大分アッタ  
ノデアリマス、併ナガラ山形縣ノ如キ  
非常ニ多數ニ上ルヤウナ所デハ、ドウ  
モ必シモ之ヲ開墾スル人ノ惡意ト見ル  
ト云フコトモ非常ニ苛酷デアラウト考  
ヘマスノデ、外ノ方面ニ付テハ別デア  
リマスルガ、少クトモ山形縣ノ部分ニ  
付キマシテハ、寛大ニ見ル方針デアリ  
マス、但シソレガ主ナル部分ハ川成デ  
ナク普通ノ原野ニ多イノデアリマス、  
原野ノ方ノコトニ付キマシテハ、稅務  
署ノ方ニ於テモ能ク趣意ハ徹底シテ居  
ルコトト思ヒマスケレドモ、川ノ方ノ  
コトニ付テハ或ハコッチノ方ノ趣意ガ  
十分徹底シテハ居ナイノカモ知レヌト

考ヘルノデアリマス、ソレデアリマス  
カラ尙サウ云フコトニ付テハ稅務監督  
局長ニ注意致シテ置キマシタカラ、尙  
サウ云フ事情ヲ調べマシテ、恐ラクハ  
御趣意ニ添フヤウニ取扱フコトガ出來  
ルト思ヒマス、併ナガラ能クソレハ調  
ベテ見マセヌト、斯ウ云フコトハ兩方  
側ノ言フコトヲ聞キ止メテ判斷致シマ  
セヌト、假定的ノ判斷ヲ致シマス、往  
往ニ誤解ヲ生ズルコトガアリマスカ  
ラ、其邊ノ具體的ノ事ニ付テハ種々調  
ベテ居リマスカラ、其上デ御承知ヲ願  
ヒタイ

○高橋委員 調ベルトカ、マダ回答ガ  
來ナイトカ、マダ調査ガ付カヌト云フ  
ノデ、多クハ議員ナドノ職責外ニナッ  
テ、此議會ナドヲ終ッテカラ、色ニナ交  
涉ヲシナケレバナラヌト云フコトヲ恐  
レテ居ルノデアリマス、サウシテハ  
山形縣ニ非常ニ多イ、一萬件以上モア  
ルト云フノデアアルガ、以前ハ多ク原野  
山林ノ無願開墾ト云フヤウナモノガ多  
クアリマシタガ、一昨年邊リカラ問題  
ニナッテ居リマスルモノハ、多クハ此最  
上川竝最上川ノ支流ニ生ズル所ノ川  
成地ガ大部分ヲ占メテ居ルノデアリマ  
ス、ソレデ山形縣デハ非常ナル脅威ヲ  
感ジテ居ル、ソレデ今續々御述デアリ  
マスケレドモ、民間ノ加工タル勞力資  
本ト云フモノヲ稅務署ハ認メナイト云  
フヤウナ方針デ、類地ノ價格ニ比例ヲ  
致シテ、拂下價格ヲ極メルト云フヤウ

ナ方針ヲ執ッテ居ラレルヤウニ思フノ  
デアリマス、私ハ此所ニ地圖ヲ持ッテ居  
リマス、其附近ノ最近ニ賣買サレタ賣  
買價格ノ登記所ノ寫ヲ此所ニ持ッテ居  
リマス、ソレカラ賣買契約證書ノ原本  
モ持ッテ居リマス、稅務署デ決定ヲ致シ  
テ、是ダケノ納入ヲシロト云フ價格、而  
シテ納入ノ告知書モ此所ニ二三通持ッ  
テ居リマス、サウ云フヤウナ實際ノ物  
件ヲ私ハ押ヘテ此所デ伺ッテ居ルノデ  
アリマス、決シテ吾々ハ何等假定的ノ  
事實ヲ以テ國家ノ問題トシテ之ヲ論議  
致シテ居ルノデハナイ、實際ノ此所ニ  
的確ナル證據書類ヲ持ッテ、サウシテ私  
ハ御尋ネヲ致シテ居ルノデアリマス、ア  
ナタ方ノ方ハ大體監督局長ニ御尋ネニ  
ナッタラ分ル、是ハ今急ニ突發シタ問題  
デナイ、昨年一昨年から引續キノ問  
題デアリマス、唯々斯ウ云フ問題ガ外  
間ニ顯ハレナカッタノハ此等ノ問題ノ利  
害關係者ハ大地主ト云フヤウナ階級ヨ  
リモ、小農寧ロ貧農階級ニアル、而シテ  
大地主級ノモノハ小農ガ其地所ヲ到底  
買フコトガ出來ヌデ、自分ノ所ヘ頭ヲ  
下ゲテ來ルニ違ヒナイ、サウスレバ其  
地所ハ只轉シテ來ル、斯ウ云フ事ヲ考  
ヘル者ガ多クヤウデアリマス、ソレ  
デアリマスカラ多クハ細民ノ手デ苦シ  
デ居ルダケデ、有資家階級ハ之ヲ問題  
視シナイト云フ所ニ禍ガアル、サウ云  
フ所カラ禍ガ生ジテ來タノデアリマ  
ス、ソレデアアルカラ天下ノ人ハ知ラナ

十分徹底シテハ居ナイノカモ知レヌト

イノデアリマス、偶々自分共ガ開込シ

デ、而カモ自分ノ足許ニ其一端ハ展開

シテ來タト云フコトデ、驚イテ自分ハ

調査シテ見タノデアリマス、サウシマ

シタラ、サウ云フ事實ガ茲ニ出テ參ッ

ノデアリマス、是ハ私ハ非常ニ大キナ

問題デアッテ、農林當局ノ言ハレル通

リ、是ハ自作農ヲ創定維持スルコト云フ

方針ニハ適ハヌノデアアル、ソレデアリ

マスカラ政府ト致シテ一方ニ於テハ餘

リ自作農地ト云フモノノ價格ヲ上ゲシ

メナイ、又小作人ト致シテモ、其自作農

地ヲ取得スルニ付テ、之ニ收支計算ノ

合ハナイヤウナ農家經濟エナラシメナ

イヤウニト苦心シテ、ソレノ施設

ヲ爲シテ居ルノデアアル、ソレデアルカ

ラ政府ト致シマシテハ、自ラ拂下ゲベ

キモノニ、サウ云フ採算ヲ外シタヤウ

ナ價格デ無理押付ラスルヤウナコトハ

之ヲ防止シナケレバナラヌト云フコト

ヲ、農林當局ハ先般此委員會デ御聲明

ニナッタノデアリマス、ソレデアリマス

カラ是ハ大キナ問題デアラウト思フノ

デアリマス、故ニ只今ノヤウナ抽象的ナ

御答辯ヲ承ッテ、御座ナリノ御答辯ヲ承

ツタダケデハ私トシテハ是ハ満足ノ出

來得ナイ事デアリマス、今日はレ以上

願ヒタイト思ヒマス

○太田政府委員 一寸後トデ其書類ヲ

拜見シタイト思ヒマス、私ノ方ハ勿論

誠心誠意デ回答スル積リデアリマス、

唯遠方デアリマスカラ實際能ク分リ

マセヌ、是ハ後トデアナタ方御承知デ

アリマシタナラバ、一方ダケノ御意見

デハ總テノ事ガ中ニ決定致シ兼ネル點

モアリマスカラ、アナタ方ノ仰シヤル

事ハ御尤ト考ヘマスカラ、其書類ヲ能

ク私ノ方デ拜見シタイト思ヒマス、尙

ホ併シ稅務署ノ意見ヲ能ク聽イタ上

デ適當ノ解決ヲ與ヘタイト考ヘマス

○高橋委員 承知致シマシタ、後程

○武藤委員長 一寸御諮リ致シマス

○奥村委員 先程委員長ハ午後委員會

ヲ御開キニナルヤウニ御宣告デアリマ

シタガ、私ハ午後ノ委員會ニ商工省ノ

宮内工務局長ト、ソレカラ平野技師ト

ニ是非出席致シマスヤウニ御話ヲ願ヒ

タイ、ソレハ官紀、綱紀ニ係ハル所ノ一

大事實ガアルノデアリマス

○武藤委員長 マダ午後開クコトヲ宣

言致シマセヌガ、午後一時カラ續行致

シマス、改メテ宣告致シマス、平野技師

ハ政府委員デアリマスカラ、此委員會

ノ決議ヲ以テ出席ヲ要求シタイト思ヒ

致シマス、是デ休憩致シマス

午後零時十一分休憩

午後一時三十九分開議

○武藤委員長 午後ニ引續キ會議ヲ開

キマス、農林商工兩大臣ガ見エテ居リ

マス、大藏大臣ハ追テ見エルデセウカ

ラ——禱君

○禱委員 私ハ只今議題トナッテ居リ

マス案ノ中、黑糖ニ關スル消費稅ニ付

テ當局ノ御意見ヲ承ッテ置キタイト思

フノデアリマス、是マデ政府ノ説明セ

ラレル所ニ依リマス云フト、今度ノ

稅制整理、即チ第二次稅制整理ハ、第一

次稅制整理ノ續キデアッテ、同一趣旨ニ

基イテ現在ノ歲入ニ著シキ變化ヲ及ボ

サザル範圍ニ於テ負擔ノ均衡ヲ保チ、

社會政策ノ效果ヲ擧ゲ、並産業ノ發

展ニ資スル、是ガ主タル此稅制整理ヲ

爲シタル目的デアッタ、斯ウ云フ御説明

デアリマス、所ガ黑糖ニ對シテハ殊ニ

此意味ヲ十分ニ發揮セシムルベク當局

ハ努力シタノデアアルト云フ御聲明デア

リマスルガ、私ノ見ル所ニ依リマス、

何レモ其趣旨ガ此案ニ依リマシテハ努

力若クハ發揮セラレテ居ナイト云フ考

ヲ持ッテ居ルノデアリマス、黑糖ノ主要

產地ハ申ス迄モナク沖繩並鹿兒島縣

僅カナモノデアアルト斯ウ考ヘテ居ルノ

デアリマス、而シテ其主要產地デア

ル農民ノ一部ニ對シテハ、此稅ヲ撤廢

セズシテ存續セシメテ置クト云フコト

ハ、是ハ寧ろ殘酷デアッテ、苛斂誅求デ

ハナカラウカト私ハ思フノデアリマ

ス、ソレデハドウ云フ納稅者ガアルカ

ト申シマス、其納稅者ノ中ニハ斯ウ

云フ人ミガ居リマス、是ハ私一己ノ私

言デアアリマセズ、寧ろ責任アル沖繩

ノ産業課長ノ田村浩ト云フ人ガ書イタ

本ノ中ニハ斯ウ言フコトガアリマス——

沖繩ノ農民ノ生活ノコトガ書イテア

リマス、ソレヲ極ク所ニ摘讀致シマス

ガ「沖繩縣農民ノ生活ハ極テ貧弱デアッ

テ、其常食ハ芋ヲ以テシ、而モ其不作ナ

ルトキハ野生ノ蘇鐵ヲ澱粉ト爲シテ飢

ヲ凌グ——」是ハ食物ノコトヲ言フノ

デアリマス「而シテ其住民ハ普通以下

ニアリテハ恰モ堀立小屋ニシテ最モ原

始的ナル古キ形式ハ寄木デ四圍ヲ繞ラ

シ萱ヲ以テ屋根ヲ葺キ、ソコニ疊モナ

ク天井モナク、全ク巢窟ニ類ス、稍進ミ

タルハ細竹ニテ網代ヲ造リ壁トスル、

内部ノ構造ハ寄木ノモノニ同ジ、家ニ

蚊帳ナク夜具蒲團ナク、五六人ノ家族

此處ニ寢食スル者多ク、跣足ニテ湯浴

ヲ爲ス者殆トナシ」斯ウ云フヤウナ生

活狀態ヲ爲シテ居ル農民ガ稍々一割ニ

相當スルト云フコトガ書イテアリマ

ス、沖繩ハ暖イト云フ、成程寒イト言ッ

テモ東京ナドトハ違フテ暖カデスガ、矢張相當ニ温度ハ低クナッテ居リマス、ソレニモ拘ラズ斯ル生活ヲ爲シテ居ル農民ガ一割以上ヲ占メテ居ル、是ガ正サシク此砂糖消費稅ノ納稅者デアリマス、私ガ先ヅ第一ニ當局ニ伺ヒタイ、砂糖消費稅ノ納稅者中ニハ斯ル悲惨ナル生活ヲ爲シテ居ル農民ガアルト云フコトヲ、一體稅制整理ノ審議ヲサレタトキニ、其役人ノ中ニ、委員ノ中ニ發言サレタ人ガ多勢アッタデアラウカ、又當局大臣ハ斯ル人ガ納稅者デアアル、之ヲ全廢セズニ存續スル限リニ於テハ、矢張之ニ對シテ課稅スルノデアアルト云フコトヲ文字其他ニ依テ調ベタノデアリマスガ、調ベテ尙ホ此稅ヲ存續シテ是等ノ者カラヲモ搾取サレル——敢テ搾取ト云フ詞ヲ用ヒマス——搾取スルコトヲ極メラレタノデアリマスガ、第三ニハ假ニソレ等ノコトハ今迄知ラナカツタガ、オ前ノ言フコトニ依テ初メテ知ツタト云フコトデアアルナラバ、若シ果シテサウデアレバ、之ニ對シテノ課稅ト云フモノハ、是ハ殘酷デアッテ所謂苛歛誅求デアルト云フ考ヲ御持チニナラナイノデアリマスガ、ドウデアリマスカ、先ヅ此點ヲ伺ッテ置キタイノデアリマス

地方ニ於キマスル樽入黑糖ノ生産者ト云フモノガ洵ニ生活程度ハ低ク悲惨ナルモノデアアル、然ルニサウ云フ者カラ稅ヲ取ル、納稅者トスルコトハ果シテ課稅ノ上ニ於テ慘酷トハ考ヘナイカト云フ風ナ御質問デアッタヤウニ伺ッタノデアリマス、樽入黑糖ノ生産ハ御尋ネノ通り主トシテ沖繩、鹿兒島縣ノ大島地方ニ於テ生産サレルノデアリマス、九州或ハ内地ノ地方ニ於テモ多少生産サレテ居リマスガ、主トシテ沖繩大島デアアルコトハ御説ノ通りデアリマス、而シテ是等ノ生産者ハ非常ニ多數ニ上ッテ居ッテ、小規模ノ製造方法ニ依テ製造シテ居ルト云フ事モ承知シテ居ルノデゴザイマス、而モ樽入黑糖ノ生産ト云フモノガ近時非常ニ經營上ニ於テ困難デアルト云フコトモ能ク承知ヲ致シテ居リマス、併ナガラ是等ノ經營上ノ困難或ハ經濟上ノ悲境ト云フヤウナコトハ單ニ砂糖消費稅ノ關係ノミデアルトハ考ヘナイノデアリマス、是ハ沖繩縣ニ於キマシテモ、其他ニ色々ナ事情ガアルヤウニ考ヘルノデアリマス、砂糖ニ付テ見マシテモ唯是ガ稅金ノミデナク、是等ノ砂糖ノ消費地タル内地ニ之ヲ移送シマスル上ニ於キマシテモ、諸種ノ不利ガアリ、色々改善スベキ點ガアルト云フヤウナ諸種ノ原因ニ基クヤウニ考ヘルノデアリマシテ、砂糖ノ生産者ガ決シテ裕福ニ、非常ニ好キ生活ヲシテ居ルト云フ風ニ考ヘテ調査ヲ致

シタノデハナイノデアリマス、ソレ等ノ事情ハ當時調査シタ官吏ノ中ニサウ云フ事ヲ發言シタ者ガアッタカト云フ御尋ネデアリマシタガ、是等ノ點ハ十分考究ヲサレタノデアリマス、然ラバサウ云フ狀況ニ在リマスル者ニ付テ砂糖消費稅ヲ免稅スルガ宜シイカドウカト云フコトニ相成リマスルト云フト、是ハサウ云フ事情デアリマスル今日ト致シマシテ、之ヲ免稅スルト云フコトハ却テ適當デナイト云フコトニ歸著シタノデアリマス、即チ砂糖消費稅ハ申上ゲル迄モナク製造者ガ負擔スベキモノデハナイノデアリマシテ、消費稅デアリマスカラ消費者ガ負擔スベキモノデ、即チソレ等ノ砂糖ガ主トシテ内地ニ於キマシテハ九州ノ山間地方トカ、或ハ東北ノ地方ニ於テ消費サルノデアリマシテ、是等ノ消費者ガ負擔スルコトニナルノデアリマスカラ、成ベク是ハ輕減スルコトガ適當デアルト考ヘマシテ、其稅金ヲ半減致シタノデアリマス、是ハ單リ消費者ノ負擔ヲ輕減スルノミナラズ、生産者ニ於テモ非常ニ便益ヲ得ルト云フコトハ本議場デモ申上ゲタ通りデアリマス、然ラバ尙ホ進ンデ何故ニ之ヲ免稅シナカッタカト云フコトニナリマスレバ、或ハ斯ノ如キ消費ノ方面カラ見マシテモ、主トシテサウ云フ地方ノ中産階級以下ノ階級ニ消費サルモノデアリマスカラ、或ハ之ヲ免稅スルト云フコトモ一ツノ御議

論デアアルカト思ヒマス、併ナガラ之ヲ免稅致シマスト云フト、消費者ニ於キマシテハソレダケ負擔ノ輕減ニナリマセウガ、一面ニ於テ先程御述ニナリマシタヤウナ事情ニ於キマスル所ノ沖繩大島ノ砂糖ヲ造ッテ居リマスル製糖業者ノ爲ニハナラナイ、其疲弊ヲ救ッテヤル目的ヲ以テ假ニ之ヲ致シマシテモ、ソレハ却テソレ等ノ生産業者ニ不利益ヲ來スト云フヤウニ考ヘタノデアリマス、其理由ハ過日本會議ニ於テモ申述ベマシタ通り、之ヲ免稅スルコトニ致シマスレバ、是等ノ生産ト云フモノガ容易ニナリマス、内地ニ於テモ何等ノ取締ナク是等ヲ造ルコトガ出來、又他ノ砂糖ニ比較シテ消費稅ノ負擔ガアリマセヌカラ、是等ノ生産ハ自然他ノ地方ニ於テモ殖エテ來ルコト考ヘルノデアリマス、ソレノミナラズ生産力ニ於テ非常ニ強イ力ヲ持ッテ居リマスル臺灣ニ於キマシテハ、其免稅サレタ——今一種ノ課稅ヲ受ケテ居ルモノガ總テ樽入黑糖ニナッテ參ル、或ハ外國カラ參ル比律賓ノ砂糖ノ如キ、是等ガ參リマシテ假置場ニ於テ樽入黑糖トシテ出テ來ルト云フコトニナリマス、却テ沖繩ノ砂糖ト云フモノガソレ等ノ爲ニ糖價ノ下落ヲ來シテ却テ不利益ノ狀況ヲ來シ、今日以上ニ困難ナ狀況ニ導クモノデハナイカ、ソレ故ニ吾々ハ沖繩大島等ノ製糖業者ノ今日ノ狀態ニハ洵ニ同情ヲ致スノデアリマスガ、其同情

○黒田政府委員 御尋ネノ最初ノ分ヲ

同ヒマセヌデ、或ハ御答申上ゲマスコトガ間違ッテ居リマシタナラバ、更ニ訂正致シマス、御尋ネノ御趣旨ハ沖繩大島



致シマスル結果トシテ、寧ロ是ハ免稅ヲシナイ方ガ宜イト云フコトニ考ヘタノデアリマス、然ラバ沖繩大島ダケデ出來ル砂糖ヲ免稅シテ、臺灣トカ内地トカ或ハ外國カラ來ルモノニ消費稅ヲ課稅スル方ガ宜イト云フ御議論モ有リ得ルカト考ヘマスガ、是ハ消費稅ノ性質カラ致シマシテ、消費者ト云フモノガ内地ニアル、或ハ九州或ハ東北地方デア、斯ウ云フ方ニ消費サレルノデアリマス、其生産地ノ如何ニ依テ之ヲ免稅スルト云フコトハ、消費ハ同ジ地方ニ消費ナレテ居ッテ區別ガナイニ拘ラズ、免稅サレルコトニナリマスレバ消費稅ノ本旨ニ對シテ負擔ノ公正ヲ得ルコトガ出來ナイノデアリマス、ソレ故ニ地方的ニ免稅スルト云フコトハ到底制度上出來ナイ事ト考ヘマス、ソレ故ニ樽入黒糖或ハ白下糖ト云フモノヲ免稅スルト云フコトニナリマス、却テ同情ヲスル如クニシテ爲ニナラヌ、不利益ヲ來スト云フ考カラ致シマシテ、課稅ヲ致シテ成ベク輕減スル意味ヲ以テ半減シタ次第デアリマス

○禱委員 只今黒田政府委員カラ答辯ガアリマシタガ、私ガ御尋ネ致シタ所トハ大分的ガ外レテ居リマス、私ガ質問以外ニ殆ド砂糖消費稅ノ全般ニ關シテ答辯ヲサレマシタコトハ問題ヲ複雑ナラシムル所以デアルカト思ヒマス、段々御尋ネスル積リデアリマスカラ、成ベク質問シタ範圍ニ於テ御答辯ヲ願

タイ、只今ノ御答ハ私ノ尋ネタ質問ト少シ齟齬シテ居ル所ガアリマス、範圍外ニナッテ居ル所ガアリマスガ、今御尋ネシタ範圍内ニ於テ一ツ農林大臣ノ明快ナル御答辯ヲ煩シタイ

○町田國務大臣 沖繩人民ノ經濟狀態竝生活狀態ガ寧ロ禱君ノ御言葉ハハツキリシマセヌガ、大體ニ於テ生活ノ程度モ低シ、生活狀態モ甚ダ困難ナ現狀ニ在ルニ拘ラズ、沖繩ニ於ケル殆ド、唯一ト申シテハナニカ知ラヌガ、主要ナル沖繩ノ人民全體ノ生命ヲ維イデ居ル程ノ重大ナル糖業即チ黒糖等ニ對シテ消費稅ヲ課シテ居ル、此消費稅ヲ課スルニ付テ沖繩縣民ノ生活狀態ヲ考慮シナカッタカト云フ意味ガ御尋ネノ要點デアッタカノヤウニ心得マス、只今黒田政府委員カラ御答致シマシタ通り、調査會ニ於キマシテモ其點ハ十分考慮サレタノデアリマス、同時ニ私ノ關係シテ居ル所デハ禱君ガ略々御承知ノ通り内地以上ニ沖繩ノ産業ヲ獎勵シテ、一般沖繩縣民ノ生活狀態ヲモ改善シ、其經濟狀態ヲ改善シテ行カナケレバ、内地同様ニ參ラヌト云フコトニ深ク考慮ヲ致シマシタ末ニ、昨今以來産業獎勵金ト致シマシテ年々五十數萬圓ヲ五箇年間之ヲ出シテ、其中ニハ糖業ノ獎勵其他沖繩縣ニ最モ適シタ所ノ産業獎勵ノ爲ニ、特ニ斯様ナ施設ヲスル爲ニ年々五十萬圓以上ノ獎勵金ヲ出シテ居ルト云フ次第デアリマス、此獎勵金ヲ出

シテ居ルト云フコトガ、丁度今度ノ稅制ニモ關係致シマシテ、黒糖ノ消費稅ヲ從來ニ圓デアッタノヲ、沖繩縣民希望ノ如ク之ヲ無稅ニ致スコトハ、黒田政府委員カラ御答シタ如ク、動モスレバ臺灣ニ於テ黒糖ヲ獎勵スルコトト相成ッテ、其結果却テ沖繩ノ殆ド唯一トモ言ハレル主要産業ノ衰退ヲ來スト云フ虞アルガ爲ニ、一般社會政策ノ見地カラ消費者ノ負擔ヲ幾分タリトモ輕メタイト云フ意味カラ、黒糖ノ二圓ヲ一圓ニスルト同時ニ、之ヲ無稅ニスルコトガ沖繩ノ産業ヲ獎勵スル所以デナイカト、斯様ニ考ヘタノデアリマシタガ故ニ、此消費稅ノ一圓ヲ殘シテ置イテ、他ノ方法、即チ産業獎勵ノ意味カラ、國家ガ相當ノ施設ヲスルガ爲ニ、年々五十萬圓ヲ與ヘテ、沖繩全體ノ産業ノ開發縣民ノ生活狀態ヲ改良シタイ、此二様ノ趣意カラ此案ガ出來テ居ルノデアリマス、御尋ネノ點ガ三點ニ分レテ居リマシタヤウデアリマスルガ、要スルニ只今大要申述べタ所ニ依テ、農林省側ガ此案ニ賛成シタ趣意ノ大要ヲ御諒知下サルコトト思ヒマス

○禱委員 サウ致シマスルト、先刻私ガ讀上ゲマシタ詰リ沖繩ノ農民ノ一部ノ狀態ニ對シテハ、後ニ議論モアリマスケレドモ、沖繩ノ産業ノ發展ヲ阻害スル、又沖繩ノ糖業ヲ發展スル所以デナイト云フ意味カラ、先刻讀上ゲマシタ狀態ノ者ニ對シテモ、尙ホ課稅スル

コトハ是ハ苛酷デナイ、斯ウ云フヤウナ詰リ計畫、其處ニ結論ガ歸著シテ此案ヲ決メラレタト、斯ウ諒承シテ宜シウゴザイマス、尙ホ一應農林大臣ノ御答辯ヲ煩ハシタイ

○町田國務大臣 禱君ノ只今ノ御言葉ガ、相當強イ御言葉ヲ御使ヒニナッタカラ、私ガ、全然御同意ト云フコトヲ申上ゲルコトハ、却テ誤解ヲ惹起ス虞ガ或ハアルカモ知レマセヌカラ、他ノ言葉ヲ以テ申シマスレバ、沖繩多數ノ糖業者ガ、今日生活狀態ニ於テモ、經濟狀態ニ於テモ、餘程一般内地ノ縣民ニ較ベレバ低イ狀態ニアルカラ、之ヲ改善シテ之ヲ向上スルト云フコトニ對シテハ、禱君ト同様滿腔ノ同情ヲ沖繩縣民ニ有シテ居ルノデアリマス、併シ若シ私共ノ解釋ニ依リマス、此消費稅ヲ全廢スルコトガ、寧ロ沖繩縣民ノ、糖業ニ從事シテ居ル多數ノ生活狀態經濟狀態ニ不利益ヲ與ヘヤセヌカト云フコトヲ頗ル憂慮シタノデアリマス、ソレハ黒田政府委員カラ言ハレタ如クデス、内地ニ於テモ競争ガ生ジマセウシ、又殊ニ臺灣ニ於キマシテアノ氣候其他有利ナ地位ニ在ル臺灣ニ黒糖產出ヲ獎勵スルコトト相成ッテハ、一層沖繩縣民ノ經濟狀態ノ改善ヲ妨ゲル虞ガアルト云フコトニ深ク考慮シマシタ末ニ、一圓ノ消費稅ヲ殘スト云フコトハ、一面沖繩縣民ノ將來ノ經濟ノ改善ニ資スル意味ヲ以テ、此一圓ヲ存スルト同時ニ内地ニ

比ベマシテ、産業狀態ガマダ幼稚ト申シテモ宜シイカ、進歩ノ程度ノ程度ガ薄クアリマスルガ故ニ、昨年來五十萬圓宛々産業助成金ヲ出シテ一般沖繩縣民ノ經濟狀態改善ノ爲ニ政府ガ骨折ルト云フ計畫ヲ立テタノデ、私ノ答辯ハ大體御諒承下サリハセヌカト思ヒマス

○禱委員 質問ノ順序ト致シマシテ、今御答辯ニ付テ先ヅ質問シタイノデアリマスガ、沖繩ノ農民ニ消費稅ヲ課スルト云フコトハ、ハッキリハ仰シヤイマセヌケレドモ、稍是ハ權衡ガ取レナイ、負擔ノ權衡ガ取レナイケレドモ、其代リニ政府ハ産業助成金五十何萬圓ヲ出シテ居ッテ、其産業ヲ助成スル方面ニ於テ之ヲ救済スル、斯ウ云フヤウナ御答辯デナカッタカト思ヒマス、若シ果シテサウデアリマシタナラバ、沖繩ハソレニ依テ幾ラカ助カリマセウ、私ハ直接ニ是ハ細民ガ——先刻讀上ゲマシタ細民ノ直接ニ急場ヲ救フ譯ニ行カスト思ヒマスガ、ソレハ別問題ト致シマシテ、沖繩程ニハ成程困ッテ居ナイカモ知レマセヌケレドモ、幾ラカ沖繩ト比ベマスト生活狀態ハ高イカモ分リマセヌガ、稍相似タル所ノ隣縣ノ鹿兒島縣ノ大島郡、之ニ對シテハ今御聲明ニナッタヤウナ手段ハ政府ハ施シテ居ラレナイト私ハ確ニ承知シテ居リマス、是ハ見棄テテモ宜イ、沖繩サヘ助ケタラバ此處ハ考慮ノ必要ハナイト云フ御考デ

極メラレタモノデアリマス、若クハ今年デモ矢張沖繩同様ニ助成金ヲ此處ニモ支出サルルト云フ御考デアリマスカ、先ヅ此點ヲ伺ッテ置タイノデアリマス

○町田國務大臣 大體消費稅一圓ヲ存シテ置キマシタ意味ハ、沖繩縣民ノ糖業ニ從事シテ居ル多數ノ爲ニ、同時ニ隣縣ノ大島郡ノ糖業ニ從事シテ居ル多數ノ人ノ爲ヲ考慮シテ、一圓ヲ存シテ居ッテ意味ハ双方ノ間ニ區別ハアリマセヌ、同様ナ趣意カラ出來テ居ルト私ハ信ジテ居リマス、而シテ大島郡ニ於ケル産業狀態ガ鹿兒島縣ノ中ニ於テモ餘程低イカラ、之ヲ國庫ガ産業獎勵ノ爲ニ相當ナ國費ヲ投ズルコトガ、沖繩ト同様ニシテ宜カリサウナモノデアアルガ、政府ガ之ヲ閑却シテ居リハセヌカト云フヤウナ意味合ニ御質問ヲ解釋致シマシタノデアリマスガ、私ハ左様ニ大島ヲ冷淡ニ取扱フコトヲ考ヘ勿論持ツテ居リマセヌ、是ハ御懇談ノ意味ニ委員會ヲ解釋シテ居リマスカラ、極ク打解ケタ御話ヲシマス、禱君ガ沖繩ノ産業ノ爲ニ、從來ト雖モ非常ナ御熱心デアルト云フコトノ御意見ヲ私モ豫テ承ッテ居リマス、殊ニ昨年ノ風水害ノ爲ニ、大島郡ノ復舊其他經濟狀態改善ノ爲ニ、何等カ地方廳トシテ、若クハ之ニ關聯シテ國家トシテモ、何等カノ方法ヲ立テルコトガ必要デア、昨年ノ悲慘ナル風水害ノ爲ニ一層其經濟狀態

ガ今日ハ餘程宜シクナイ現狀ニ在ルト云フコトハ、私モ承知シテ居リマス、察スルニ鹿兒島縣知事トシテ目下其計畫ヲ立テツツアルト私ハ諒解シテ居リマス、沖繩縣知事ハ縣トシテ復舊及ビ將來ノ開發ノ計畫ヲ立テタトキニハ、改メテ私ノ方ニ關係アル所ハ農林省ノ方ニ協議ニ參ルト云フコトモ承ッテ居リマス、其節ニハ地方官憲ト協力シテ、大島郡ノ昨年ノ非常ナル風水害ヲ受ケタ、其復舊ト同時ニ將來ノ開發ニ對シテ、相當ナ考慮ヲスルコトハ勿論ト斯様ニ考ヘテ居リマス

○禱委員 大島郡ノ將來ノ開發上ニ對スル御意見ヲ承ッテ、非常ニ其處ニ御考慮ヲシテ戴クコトヲ私今希望シテ感謝ヲシテ置キマス、先程カラ農林大臣モ黑田政府委員モ、是ハ本會議ノ御答辯中ニモアリマシタガ、之ヲ廢稅スルコトハ寧ろ沖繩並大島ノ黑糖主要產地ノ向上發展ニ資スル所以デナイ、何トナレバ若シ之ヲ廢稅スルト云フコトニナレバ、臺灣デモ黑糖ヲ製造スルヤウニナリ、内地ノ現在砂糖ヲ製造シテ居ル所デモサウ云フ傾向ニナッテ來ルト寧ろ他ノ方面ニ於テ此需要ノ少イ所ノ黑糖ト云フモノガ非常ニ澤山現ハレテ寧ろ壓迫ヲ蒙ル、斯ウ云フ御趣旨カト思ヒマスガ、是ハ明確ナル私ハ統計ヲ實ハ持チマセヌ、若シ政府ニ此資料ガアリマシタナラバ、是非御提出ヲ煩ハシテ置キタイノデアリマス、今日カラ

臺灣ノ方カラ私ガ研究ヲシテ居リマスル範圍ノ事ニ付テ私ノ考ヲ申上ゲテ見タイ、臺灣デハ成程機械製糖以外ニ土人ガ小規模ノ壓搾機ヲ用ヒテ砂糖ヲ製造シテ居リマスガ、其生産品ハ黑糖ニ非ズシテ殆ド赤糖デアルト云フコトヲ聞イテ居リマス、是ハ長イ間臺灣ニ居リマシタ東郷代議士カラモ聞イテ居リマス、此赤糖ノ今日ノ市場ニ於ケル販路ノ上カラ、其價格ノ上カラ、之ガ黑糖ノ砂糖消費稅ガ全廢セララルガ故ニ、黑糖ニ後戻リシテ黑糖ヲ造ルコトニナルト云フコトハ絕對ニナイト思ヒマス、假ニ之ガアリマシテモ、其生産額ナルモノハ極ク小部分デア、砂糖全般カラ見マスルト一割ニモ當ラナイ、故ニ是ガ價格ノ上カラ即チ消費者一般ノ需要ノ上カラ、決シテ是ガ轉業セラレベキモノデナイト思フ、ソレカラ其他内地ニ於ケル砂糖製造業者ガ、免稅セララルト云フコトニナレバ段々其方ニ轉業シテ來テ、サウシテ生産量ガ増シテ、沖繩大島ガ壓迫セララル、是全般ノ方面ハ聞キマセヌ、統計デハ私ハ調ベルコトガ出來ナカッタガ、高知縣、香川縣、愛媛縣、熊本縣、大島ノコトハ私ハ知ッテ居リマス、是等ノ土地ニ於テ是ガ主要產物デモナシ、副業デア、サウシテ多クハ樽入デハナイ、何ト申シマスルカ、茲ニ包ンデア、ソレ等ノモノガ市場ニ今日出テ居ルノデア、是等ハ假ニ全廢セラレタニシテモ、一年

間ニ於テ百斤一圓下ツタカラ上ツタカラ  
ト云フノデ、其生産費ガ増減セラルル  
ト云フコトハ今日考ヘラレナイ狀況デ  
アル、是ハ尤モ議員ノ素人ノ人々デス  
カラ正確ナコトデハナイカモ知レマセ  
ヌガ、サウナツテ來レバ輸入品ガ直ニ今  
度ハ包裝ヲ變ヘテ樽ニ入レ替エテ市場  
ニ販賣セラルルヤウニナツテ壓迫セラ  
レル、是モ先達ヲ本會デノ御答辯デア  
リマシタガ、是ハ考ヘラレナイト云フ  
コトハ、砂糖樽ハ是ハ大量生産ヲシマ  
スルト、マダ安クモナリマセウケレド  
モ、鹿児島縣大島郡デ此樽ヲ造リマス、  
其生産費ガ幾ラ掛カルカト云フト、約  
一圓五十錢掛カリマス、一圓五十錢ヲ  
成程他ノ砂糖ニシテ置キマスレバ、其  
他ノモノニ依テ包裝セラレタモノガ、  
樽ニ替エラレルカモ知レマセヌガ、少  
クトモ外國カラ東京大阪其他ノ市場ニ  
持ッテ來ルニハ、運持ッテ來ルダラウト  
思ヒマス、ソレヲ樽ニ造リ替エ入レ替  
エルト云フコトハ、一圓ヲ得スルガ爲  
ニ一圓五十錢ニ相當スル所ノ樽ヲ拵ヘ  
テ市場ニ出スト云フコトハ、到底考ヘ  
ラレナイコトデアアル、ノミナラズ此黑  
糖ハ今日非常ニ利益デアアル所ノ事業デ  
アリマシタナラバ、其議論モ立チマセウ  
ガ、沖繩大島ニ依テ見マスレバ、數字のニ  
ハ分リマセヌガ、大島デハ一段歩中等ノ  
畑ヲ用キマシテ出來マシタ所ノ砂糖、  
早ク申シマスレバ金ニシテ換算致シマ  
スレバ、十三年ノ統計ニ五十四圓トナツ

テ居ル、生産費ヲ、男ノ賃銀ヲ七十錢ト  
換算シ女ヲ五十錢ト換算シテ、是ハ高  
イ賃銀デハナカラウト思フノデス、斯  
ウシテ換算シテ行キマスト云フト、七  
十六圓四十四錢トナルノデアリマス、  
サウシテ見ルト一箇年出來タ所ノ一段  
歩當リノ砂糖ニ依テ二十二圓四十四錢  
ト云フ損失ヲ招ク結果ニナツテ居リマ  
ス、大島ガ其通り、沖繩ニ於テモ大同小  
異デアリマス、内地ニ於テ是ガ生産費  
ガ非常ニ減ゼラルル、又内地ノ畑ニ出  
來ルモノハ大島ヨリ非常ニ有利デア  
ルト云フコトハ、氣候ノ上其他ノ方面カ  
ラサウ考ヘラレマセヌ、サウシテ見レ  
バ餘リ有利ナ事業デナイ、是等ノ事情  
ヲ綜合シテ考ヘテ見マスレバ、此一圓  
ヲ、モウ一圓ヲ減額シテ全廢スルコト  
ニ依テ、大島ノ砂糖、沖繩ノ砂糖ガ他ノ  
方面ニ於テ大量生産ヲセラルルガ爲  
ニ、壓迫ヲ受ケルト云フコトハ到底私  
ニハ信ジラレナイノデス、併シ私ガ唯、  
此處デ強ク申上ゲルコトガ出來マセヌ  
ノハ、事實ニ基イテ居ル統計ヲ持チマ  
セヌ、唯々人ノ話ヲ聞イテ、其人ノ意見  
ニ依テ只今ノ疑問ヲ持ッテ居ルノデア  
リマス、政府ノ方ニ於テハ統計ニ基イ  
テ、技術ニ基イテ、ソレガ誤リデアルト  
云フコトデアリマシタナラバ、謹ンデ  
其事ヲ伺ヒタイノデアリマス

○黒田政府委員 樽入黒糖ノ課税ヲ免  
除致シマスト云フコトハ、却テ沖繩、大  
島郡ノ砂糖ノ生産ニ不利益ヲ與ヘルト  
云フコトハ誤ッテハ居ラヌダラウカト  
云フ意味ノ御意見デアッタノデアリマ  
ス、統計ニ付キマシテハ、御要求ノモノ  
ニ付キマシテハ、作リマシテ差上ゲテ  
宜シイト思ヒマスガ、骨子ハ一圓ノ免  
税ヲスルト云フコトニ依テ、果シテ臺  
灣或ハ内地或ハ輸入糖ガ、樽入黒糖ニ  
變ズルトハ考ヘラレナイ、僅カ一圓ノ  
輕減ニ依リ斯様ニナラウトハ考ヘラレ  
ナイト云フコトガ根本ノヤウデアッタ  
ノデアリマス、消費税ヲ免除致シマス  
レバ、矢張一圓ノ輕減ニナリマスルコ  
トハ、是ハ申迄モナイノデアリマスル  
ガ、其上ニ課税ヲ致シテ居リマスルト  
云フト、非常ニ手數ヲ要スルノデアリ  
マス或ハ監督、取締或ハ課税上ノ  
納税上等ノ手數ト云フモノガ色々掛カ  
ルノデアリマシテ、ソレ等ノ點ヲ考ヘ  
マスルト云フト、單ニ一圓ト云フダケ  
ノ問題デハナカラウト考ヘマス、内地  
ニ於キマスル砂糖ノ産額ト云フモノ  
ハ、是ハ今日ニ於キマシテハ、勿論沖  
繩、大島郡ニ比較スル程ノモノデハナ  
イノデアリマシテ、樽入黒糖ダケニ付  
テ見マスルト云フト、沖繩大島郡ヲ除  
キマスル地方ニ於キマシテハ、三百八  
十五萬圓、六千萬七千萬斤、沖繩大島ガ  
出來テ居ルノデアリマスカラ、極メテ  
少イノデアリマス、併ナガラ課税ヲ免  
除サレマシタ場合ニ於キマシテハ、内  
地ニ於テ造ッテ居リマスモノモ、極メテ  
此製造ガ容易ニナツテ來ル取締モ何モ

受ケナイノデアリマスカラ、容易ニナ  
リマシテ、又一方ハ課税ヲサレ一方ハ  
無税ト云フコトニナリマスト云フト、  
自然ニ其方ニ移ル、例ヘバ小笠原ニ致  
シマシテモ小笠原ハ樽入白下デアリマ  
スガ、是等ニ於キマシテモ、同ジ樽ニ入  
レテ居ルノデアリマスカラ、是等ヲ樽  
入黒糖ニ變ズルコトモ容易デアラウト  
考ヘルノデアリマス、假ニ内地ニ於キ  
マスル砂糖ガ全部變ジマシテ或ハ第一  
種ノ丙ト云フモノモ内地ニ於テ相當ニ  
出來テ居ルノデアリマシテ、四千九百  
餘萬斤出來テ居ルノデアリマス、是等  
モヤリヤウニ依リマシテハ、之ヲ變ジ  
マシテ何等課税上ノ取締モ受ケズ、サ  
ウシテ租税ノ負擔ヲセズニ拵ヘルト云  
フコトニナリマス、變ヘ得ルコトト  
考ヘルノデアリマス、併ナガラ是ガ勿  
論沖繩、大島郡ノ砂糖ノ大部分ヲ之ニ  
依テ侵蝕スルト云フコトハ假ニナイト  
致シマシテモ、相當影響ヲシテ來ルコ  
トト考ヘマス、ソレカラシテ臺灣ニ付  
キマシテモ御話ガアリマシタガ、臺灣  
デ今日造ッテ居リマスモノハ勿論赤  
糖デゴザイマス、樽入黒糖ハナイノデ  
アリマスガ、是ハ臺灣ニ於キマスル消  
費ノ需要ノ關係カラ致シマシテ、ソレ  
ニ應ズル赤糖ヲ拵ヘテ居ルノデアリマ  
ス、ソレガ若シ樽入黒糖ト云フモノガ  
免税ニナリマシタ場合ニ於キマシテ  
ハ、之ヲ變ジテ黒糖ニ致シマスコトハ、  
是ハ極メテ容易ナモノデアリマス、是

ハ直グ出來ルヤウニモ臺灣總督府ノ方  
ノ關係官モ申シテ居ルノデアリマス、  
樽ノ事ニ付キマシテノ御話デアリマス  
ガ、沖繩縣ニ於キマシテモ、樽代ト云フ  
モノハ他カラ輸入シテ居ルヤウニ承知  
致シテ居ルノデアリマス、然ラバ之ヲ  
他ノ地方ニ於テ出來マスル場合ニ於テ  
ハ、同様若クハ容易ニ安ク得ラルルヤ  
ウニ相成ラウト考ヘル、生産費ノ上ニ  
於キマシテモ、沖繩縣ノ砂糖ノ生産費  
ガ相當高イト云フコトハ御意見ノ中ニ  
モアリマシタヤウデアリマス、是等モ  
臺灣糖ニ於キマシテハ非常ニ耕作ノ適  
地モアリ、又大量ニ採得ルノデアリ  
マスカラ、容易ニ却テ有利ニ出來ルト  
云フ風ナ事情モアラウ、輸入糖ニ付キ  
マシテモ相當輸入ガアルノデアリマ  
ス、是等ハ成程今日ニ於テハ税金ノ關  
係上之ヲ必ズシモ樽入ニスル必要ハナ  
イノデアリマスカラ、自然ニ袋ノヤウ  
ナモノニ這入ッテ居ルト云フコトモア  
ルノデアリマスケレドモ、是ガ若シ無  
稅ニナリ製造ガ容易ニナッテ、何等ノ取  
締モ受ケナイ、取締上ニ於テモ非常ニ  
輕便ニナルト云フコトニナルト云フ  
ト、之ヲ樽ニ致シマスコトモ、是モ亦容  
易ノヤウニ承知致シテ居ルノデアリマ  
ス、左様ナ點ヲ考ヘマスレバ、全部沖繩  
大島ノ砂糖ニ是ガ變ルト云フコトハ勿  
論考ヘラレナイノデアリマスガ、而モ  
ソレガ安ク出來ルト云フコトニナリマ  
スト、ドウシテモ嗜好ハ勿論消費ノ方

面カラ申シマシテモ、無稅ニナルト云  
フコトカラ非常ニ消費ガ殖エルカト申  
シマス、ソレハモウ特殊ノ嗜好品デ  
アリマスカラシテ、必ズシモソレ程増  
加スルコトモナカラウト思ヒマスガ、  
併ナガラ多少免稅ニナリマシテ安ク  
ナルト云フコトニナレバ、或ハ樽入白下  
トカ、或ハ第一種ノ丙ヲ使フト云フ者  
ノ消費ガ其方ニ移ッテ行クト云フコト  
モアラウカト思ヒマス、隨テ此價格ノ下  
落、他ノ供給ト云フコトガアリマス、  
ドウシテモ此沖繩、大島ト云フモノノ  
砂糖ト云フモノハ、競争上ニ於キマシ  
テ今日ヨリモ價格ヲ下ゲナケレバナラ  
ヌト云フ風ナコトニ自然ニ相成ッテ參  
ラウト考ヘルノデアリマス、ソレガ沖  
繩大島郡ノ爲ニ却テ不利益ニナルダラ  
ウト云フ風ニ考ヘマス次第デアリマ  
ス、數字ハ御希望ガアリマスレバ後カ  
ラ廻付サセマス

○禱委員 只今ノ御答辯中ニ消費稅ヲ  
存續セシメテ置クコトハ單一圓デナ  
イ、此一圓ヲ全廢スルニ依テ他ニモ負  
擔ガアルカラ漸次ニ外ノ方面ニモ調和  
ガ出來ル、是ハ大島沖繩ニ對シテモ矢  
張必要ナコトデアルト云フノデアリマ  
スガ、私ガ此廢稅ヲ主張致シマスノモ、  
單一圓ノ額ヲ減額スルノミデナイ、  
是ガ爲ニ少カラズ色々ナル損害ヲ蒙  
リ、其他色々ナル社會上教育上各方面  
ニ向ッテ惡影響ガアリマスガ故ニ、是ハ  
是非廢稅スベキモノナリトシテ居リマ

ス、他ノ方面ニ於テソレガ例ニナルカ  
ラ、多クナルト云フダケソレダケ大島  
沖繩ニ於ケル當業者ハ利益ヲ受ケルト  
云フコトニナリハセヌカ、而シテ是ガ  
廢稅ニナルト云フコトニナレバ、輸入  
糖及内地其他ノ諸リ鹿兒島沖繩以外ノ  
各府縣ニ於テ出來ル砂糖ノ生産額ガ殖  
エルニ依テ、沖繩並大島ノ砂糖ト云フ  
モノガ影響ヲ蒙ル、先日ノ御答辯デハ  
非常ニ壓迫ト云フコトガ今日ハ幾ラカ  
ノ影響ヲ受ケルト云フコトニナリマシ  
タ、私ノ考ヘマス所デハ、其影響タルヤ  
是ハ市場ニ向ッテノ競争デアリマシテ、  
サウシテ需要ガサウ澤山ナイ所デ、而  
モ黑糖ガ利益ニナル事業デナイト云フ  
コトハ先刻申上ゲマシタ通りデアリマ  
ス、是等ノ方面カラ沖繩大島ハ不利益  
ナガラモ此製糖事業ヲ繼續シテ居ルノ  
デアリマスカラ、内地他府縣ニ於テ此  
不利益ナル事業ガ盛ニナルトハドウシ  
テモ考ヘラレヌ、是ハ結局意見ノ相違  
ニ歸著スルコトデアラウト思ヒマス、  
故ニ此點ニ於テ壓迫ヲ受ケル故ニ沖繩  
ノ産業ニ資スル所以デナイト云フ御議  
論ハ到底承服ハ出來ヌト云フコトノ  
意思ヲ表明シテ置キタイノデアリマ  
ス、次ニ伺ヒタイノハ、今度ノ第二次稅  
制整理ニ於テ、殊ニ此黑糖ニ於テハ負  
擔ノ均衡ヲ得セシムルト云フコトガ主  
タル改正ノ理由ダ、其外社會政策ノ效  
果ヲ舉ゲルコト並産業ニ資スルト云  
フコトハ先刻來申シテモ居ラレマス、

所ガ此黑糖生産業者ガ他ノ農業者ニ對  
シ、又他ノ商工業者ニ對シ負擔ノ均衡  
ト云フモノガ何處ニアリマスかと云フ  
コトヲ私ハ考ヘナケレバナラヌ、何處  
ニ其公平ガアルカ、之ニ課稅セラルル  
ト云フコトハ頗ル不公平デアリマセ  
ヌかと云フノガ強ク私ノ頭ニアリマス  
疑問デアリマス、統計ニ基イテ申シマ  
スルト、大島ノ方面カラ——私ハ能ク  
知ッテ居リマスカラ、其方面カラ先ニ申  
上ゲタイ、全戸數ガ約三萬八千九百三  
十五、其中ノ農業戸數ニ於テ三萬二千  
百カリアリマス、殆ド農業者ハ製糖業  
者デアリマシタガ、此事業ガ有利ナル  
事業デナイト爲ニ漸次減少致シマシテ、  
大正十三年ノ統計ニ依リマス、二萬  
二千四百九十三戸ト云フ製糖業者ノ戸  
數デアル、大島ノ同年度ニ對スル砂糖  
ノ生産額ヲ此戸數デ割リマス、其斤  
量ナドハ面倒ニナリマスカラ金ニ換算  
致シマス、一戸當リノ一年ノ收益ガ  
ドレダケニナルカト申シマス、砂糖  
一斤ヲ十錢ト換算致シマス、其全戸數  
デ割リマス、五、八ト云フ數字ガ出テ  
居リマスガ、サウスルト六樽ニハ足リ  
マセヌ、五樽以上デアリマス、サウスル  
ト之ヲ金ニ換算致シマス、一斤十錢ト  
見積リマシテ一樽十三圓ニナリマス、  
五、八デ七十五圓ニ相當スルモノデア  
リマス、農業戸數全部是ノミトハ申シ  
マセヌガ、多クハ此砂糖ガ主要ナル收  
穫デス、金ヲ得ル所ノ農業所謂農家ノ

收入デアリマス、一年ニ七十五圓、從來デアリマシタラ此内十五圓八錢ノ消費稅ヲ納メマス、ソレダケ減額スルコトニナリマス、假ニ改正稅法ニ依リマシテモ七圓五十四錢ト云フ金額ヲ控除シマシタモノガ即チ大島ノ農民ノ一年ノ收益デアリマス、斯ウ云フヤウナドツチカト云フト非常ナ收穫ノ少イ年收ノ少イ所ノ農家ニ對シテ課稅ヲセラルル、先刻モ御話ガアリマシタカラ私モ存ジテ居リマスガ、成程是ハ間接稅デ負擔ヲスルノハ消費者デアツテ、生産者ガスルノデヤナイト云フ議論ガアリマシタガ、是ハ私ハ少クトモ大島ト沖繩ニ於ケル砂糖消費稅ナルモノハ、名ハ消費稅デアツテ、其實轉嫁セザル生産稅ナリト私ハ思フノデアリマス、サウシタナラバ此細民ノ收入ニ對スル此課稅ヲサルルト云フコトハ、所謂自作農創定維持ヲ高調セラレテ居ル現政府ノ政策ノ實現トシテハ、是ハ矛盾シテ居リハセヌカ、ソレカラ之ヲ他ノ方面ニ比較シテ負擔ガ不公平デアアル、均衡ヲ得テ居ナイ、外ノ農業者デアレバ、如何ニ米ヲ澤山作ラウガ、税金ハ負擔シテ居リマセヌ、ソレカラ假ニ農家ニ於テ同ジ業態ノ方面カラ考ヘテ見マシレバ、農家ニ於テ芋ヲ澤山作ッテ、餘ッタトキニハ澱粉ヲ拵ヘル、是モ相當ナ機械ヲ用ヒテ拵ヘル、而モ之ニ對シテハ純益四百圓以上ニ上ラウトモ、之ニハ課稅ヲシテ居ラレマセヌ、漁業者ガ鯉ヲ釣ッテ來テ、

サウシテ鯉節ヲ製造サルルニ純益四百圓以上ニ上リマセウトモ、之ニ對シテハ課稅ハセラレマセヌ、即チ農業ノ發展ニ資スル爲メ、其農業ノ發達ヲ或ハ漁業ノ發達ヲ助ケル爲ニ、國家ハ斯ノ如ク考ヘテ居ラルルノデアアルノニ、何故此生産品ガ砂糖デアアルガ故ニ、斯ノ如キ所謂慘酷ナル稅ヲ負擔サセナケレバナラヌカト云フノガ第二ノ私ノ疑問デアリマス、成程砂糖ハ生産品ガ、是ハ消費稅ノ目的物デアアルガ故ニ課稅スルノデアアル、澱粉トハ違フノデアアル、是ハ此前ノ御答辯ニモアリマシタガ、ソレハ此國ガ國民ニ對シテ負擔ヲナサシムル上ニ於テハ、其業態ニ於テ保護セラルルトキハ、業態ニ向ッテ是ハ小農デアアルカラ免稅シ、是ハ小資本家デアアルカラ免稅點ヲ設ケル、斯ウ云フ意味ニ於テ免稅點ヲ設ケラレ、又小サナ商工業者ニ對シテモ、又小サナ農業者ニ對シテモ、其趣旨ニ於テ免稅點ナリ種々ノ所謂社會政策的ノ見地カラ、此資力ノ薄弱ナ者ニ對シテハ稅ヲ輕減セラレテ居ルノニ、單リ此砂糖消費稅ノミハ其事ガ考ヘラレヌノハ何故デアアルカ、他ノ商工業者、農業者ニ對シテモ、負擔ノ公平ヲ得ラレテ居ルノデアアリマセヌカ、尙ホ諄イヤウデアリマスガ、砂糖ハ消費稅ノ目的物デアアルカラト云フノデアアリマスガ、是ハ機械製糖ノ製造業者カラ云ヘバ、機械製糖ヲ爲シテ、生産品ノ制限ガ自由ニナリ改良ガ自由ニナ

ル、此大資本ヲ以テ經營セラレテ居リマスル機械製糖ト、原始的ニ家庭的ニ經營セラルル所ノ此黑糖製造者ト同一ニ取扱ハラルト云フコトハ、是ハ誤ッタル見解デアアリマセヌカ、斯ウ思ヒマス、其意味ニ於テ其點ニ於テ一寸此砂糖消費稅ヲ設ケラレタ時ノ事情ガアルノデス、是ハ藤澤サンナドモ、町田サンナドモ御承知カモ知レマセヌガ、明治三十四年ニ此稅ガ設ケラレルトキニ、時ノ沖繩縣知事ノ奈良原繁ト云フ人ハ非常ニ自分ノ手柄ニシタ、砂糖消費稅ヲ設ケテ、ソレト殆ド同額ノ補助金ヲ國庫カラ貰ッテ、サウシテ糖業改良資金ニ資スルノデアアル、一人々々當業者カラ取ッテスルト云フコトハ到底出來ヌノデアアルカラト、手柄話ヲシタ、其時ニ私ノ方ノ代議士ニ對シテモ賛成ヲ求メラレタ、其方ガ利益デアアルカラト云フテ賛成ヲ求メラレタ、其翌年カラ直ニ廢減稅ノ運動ガアッタト云フコトハ御記憶ニ新タデアアラウト思フ、此時分ニモ議論ガ相當ニアツタ、機械製糖業者竝大資本ヲ抱ヘテ居ル所ノ者ガ經營シテ居ラレル所ノ機械製糖ト、是ト同一ニ取扱フベキモノデハナイノデアハナイカ、一方ハ寧ロソレヨリモ糖業試驗改良ノ方ニ使ッタ方ガ有利デアアルノダ、斯ウ云フ趣旨ニ於テ賛成ヲ求メラレタ、能ク今私ガ先刻來述ベテ居リマスル、所謂社會政策ノ上カラ、所謂産業ヲ發達セシメル上カラ、竝負擔ノ均衡ヲ

得セシメル上カラト云フコトハ考ヘラレズ、此黑糖製造業者ニ課セラレテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ事情ノ下ニ於テ出來タ法律ガ、今日ニ行ハレテ居ルト云フコトハ、是ハ甚ダ遺憾千萬ダト私ハ思フノデアリマス、故ニ私ノ伺ヒタイノハ、斯様ナ事情ニ於テ出來タ所ノ事柄ハ一日モ早ク廢止セラルルノガ當能デアラウ、他ノ農業者ニ對シテモ、他ノ商工業者ニ對シテモ、其負擔ノ均衡ト云フモノガ得ラレテ居ナイ、又此小農ヲ助ケルト云フ意味カラシテ、所謂社會政策ノ效果ヲ舉ゲル上カラモ頗ル是ハ不都合ナル稅制デアルト私ハ考ヘラ居リマスガ、此點ニ對シテハドウ云フ御考デアリマスガ、先ヅ以テ農林大臣ノ此負擔ノ均衡竝産業發達ニ資スルト云フコトハ、是デモ言ヘマスカ、ドウデスカ、此點ヲ伺ッテ置キマス

○町田國務大臣 縷御意見ヲ加ヘタ御尋ネデアリマスガ、先刻來再度大體御答ヲシタ以外ニ私トシテハ更ニ禱君ノ御満足ヲ得ルヤウナ答辯ヲ此上ニ致スコトハ、自分トシテ甚ダ困難ト思ッテ居リマス、大體ニ於キマシテハ寧ロ此消費稅ヲ一圓存シテ置クコトハ、沖繩當業者ノ利益デアアル、是ハ臺灣其他ニ之ヲ全慶シタ結果トシテ、臺灣其他ニ黑糖ノ產出ヲ促シテ、沖繩多數民ノ當業者ヲ不安ナ地位ニ置クト云フ不利益ノアルト云フコトガ、主トシテ二圓ヲ一圓ニ減ジテ一般多數階級ノ需要ニ應ズ





タモ相當ノ官吏デアルデセウカラ、男  
ラシク其有無ヲ明確ニ此所デ言明シテ  
戴キタイ

○平野商工技師 私ハ今奥村君ノ私ノ  
言トシテ私が申述ベタヤウニ申サレマ  
シタヤウナコトヲ實際信ジテ居リマセ  
ヌ、ソレ故ニサウ云フコトヲ申上ゲル  
コトハナイ筈ダト信ジテ居リマス

○奥村委員 一體此平野君ハ、昨年ノ  
議會ニ於テモ染料ノ問題ニ付テ同僚ノ  
倉元君、星島君或ハ飯塚君、吾ミカラ質  
疑ヲ致シ實物ヲ以テ示シマシタトキ  
ニ、何ヲ言フタカト申シマス云フト、  
輸入商側ノ宣傳ニ迷ハサレテ居ルト云  
フコトヲ議員ニ對シテ言ハレタ、本員

ハ非常ニ憤慨致シマシテ、同僚ト共ニ  
ソレヲ要求シ、サウシテ速記録ヲ――  
サウ云フ速記録ヲ削ッタト云フ事實ガ  
アル、併ナガラ今平野技師ガサウ云フ  
コトハ考ヘテ居ラヌトカ、或ハ言フタ  
コトハナイ、斯ウ云フ御話デアリマス

ルガ、言ハレタトカ言ハヌトカ云フコ  
トニ付キマシテハ、アナタト「ワイベ  
ル」トヲ紹介シタ所ノ長崎君ノ口カラ  
ソレガ出テ居ル、又一面信用スベキ東  
京商業會議所ノ議員ノ日下ト云フ人カ  
ラ出テ居ルト云フコト、又本員ハ其事

實ヲアナタモ今明言シタルコトヲ一方  
向フノ私ノ耳ニ入レタ人ニ對シテ之ヲ  
調べマス、此ニ於テ私ハ宮内工務局長ニ  
御尋ネ致シマス、部下ノ平野技師ガ斯  
ウ云フ議院ノ大問題ニナツテ居ル問題

ヲ、料理屋ナドヲ論議サレタ、斯様ナ事  
ハ何等官紀ノ上ニ於テ差支ナイと思ッ  
テ居ルカドウカ、此一點ヲ御伺ヒシマ  
ス

○宮内商工省工務局長 染料問題ハ洵  
ニ重要ナル問題デアアルコトハ、奥村君  
ノ御話ノ通りデアリマス、私共モ此問  
題ニ付キマシテ、若クハ關稅全般ノ問  
題ニ付キマシテ、非常ニ注意ヲ致シテ

居ル次第デアアルノデゴザイマス、成  
ベク多數ノ當業者ノ方ミノ御意見ヲ參  
酌致シマシテ、慎重ニ研究ヲ遂ゲテ、然  
後ニ斷案ヲ下シタイト云フ考ヲ以チマ  
シテ、注意ニ注意ヲ加ヘテ居ル次第デ  
アルノデゴザイマス、私自身ト致シマシ

テモ、成ベクハ關稅等ニ關スル重要ナル  
問題ハ役所デ會ヒマシテ、サウシテ能ク  
研究シタイト云フヤウナコトニ始終注  
意ヲ致シテ居ッタノデゴザイマスルガ、  
只今平野技師ガ或ル日本料理屋店ニ於  
テ會ッタト云フヤウナコトハ、ドウ云フ

何デゴザイマスルカ、私ハ實ハ今日マ  
デ存ジマセヌ、只今伺ヒマスレバ左様  
ナ事ガアルサウデゴザイマスガ、其席  
ニ於キマシテ果シテ奥村君ノ御話ノヤ  
ウニ、議員ノ體面ニ關シマスルコトニ  
付テ左様ナ言辭ヲ弄シマシタカ否カ、

私ハ平野君ノ平生ノ言動カラ徴シマシ  
テ左様ナ事ハ申ス筈ガナイト考ヘテ居  
ルノデゴザイマス、假定ノ事實ニ基キ  
マシテ適當デアアルカドウカト云フコト  
ノ考ヲ申上ゲルト云フコトハ……

○奥村委員 料理屋デ會ッタコトハド  
ウカ

○宮内商工省工務局長 此場合慎ムベ  
キコトデアアルト私考ヘテ居リマス、尙  
ホ料理屋デ會ッタト云フコトデゴザイ  
マスガ、ソレハ如何ナル所デ御會ヒニ  
ナリマシタカ、如何ナル問題デアリマ  
スカ、ソレモ實ハ私存ジマセヌノデ、其

點ニ付キマシテハ色々私交上ノ關係モ  
ゴザイマセウシ致シマスルカラ、ドン  
ナ事デアリマススカ、其點ニ付テ私能ク  
存ジマセヌ、只今伺ヒマシタヤウナ次  
第デゴザイマスノデ、其點ニ付テハ何  
トモ申上ゲルコトガ出來マセヌ次第デ  
アリマス

○奥村委員 宮内工務局長ニ希望シテ  
置キマス、只今日本料理店ニ於テ、獨逸  
ノ代表者「ワイベル」ト云フ人ト平野技  
師自ラモ會見シタト云フコトヲ言明セ  
ラレテ居ルノデアリマス、私ハ今宮内

工務局長ガ誠意アル言葉ニ依テ、常ニ  
誤解ナカラント期シテ居ルト云フ  
言葉デ、私モ宮内工務局長ハ左様ナ御  
心得ヲ以テ御扱ヒニナツテ居ルト信ジ  
テ居ル者デアリマス、然ルニ斯ウ云フ

事實ガ起キマシタ以上ハ、局長ハ部下  
ニ對スル斯ウ云フ事實ニ對シテ、事實  
ヲモット御調べニナリ、其會見致シタ話  
ノ内容モ調べテ貰ヒタイと思フ、同胞

ノ陳情ニ致シマシテモ、何カニ致シマ  
シテモ、會見スルト云フコトガ料理屋  
ナドデアッタト云フコトハ、國民之ヲ聞

イテ疑ハザルヲ得ナイノデアアル、然ル  
ニ獨逸ノ代表者ト會フナドト云フヤウ  
ナコトハ、私ハ日本ノ官吏ノ信用ノ上  
ニ於テモ重大ナ結果ヲ、無形デハアリ  
マスルケレドモ齎シハシナイカト考ヘ  
テ居リマス、ソレデ今平野技師ガ、席上

ニ於テ議員ノ體面ニ關スルコトヲ話シ  
タコトハ無イト言ハレタアツテモ是ハ  
無イトサウ言ハナケレバナラヌ立場ニ  
今在ルノデアリマスルノデ、或ハドウ  
カモ分リマセヌ、平野技師ナリ宮内工

務局長ニ於カレマシテハ、昨年關稅定  
率法ノ委員會ニ於テ、本員ト平野技師  
トノ質疑應答ノ速記録ヲ御讀ミニナッ  
テモ、吾ミハ――アア云フ不遜ノ言葉

ヲ使ヒ、サウシテ委員カラ突込マレル  
ト云フト、速記録ヲ訂正シタリ、速記録  
ヲ消シタリシタト云フヤウナ事實ガア  
ル、而モ私ハ最モ信用スベキ人カラ此

事實ヲ聞イタノデアリマス、當ノ平野  
君カラ言ツタ覺エガナイト言ヒマスル  
以上ハ、是ハ當委員會ノミナラズ、立法  
府ノ信用且ツ權威ニモ關スル問題デア  
リマスルニ依テ、同僚諸君ト能ク協議

ヲ致シマシテ、適當ノ機會ニ於テ政府  
ニ再質問ヲ致スコトニ致シマシテ、委  
員長、是デ本員ハ此問題ハ打切ツテ置キ  
マス

○武藤委員長 丁度藤澤商工大臣モ御  
出席ニナツテ居リマスカラ、此場合只今  
奥村君トノ應答モ御聽取デアリマセウ  
カラ、藤澤サン時代デナイカモ知レマ

セスケレドモ、一應商工大臣トシテ所感モアルコトデアリマセウシ、議員ノ體面ニ關係スル安カラザル御言葉デアリマスカラ、一應御取調ヲ願ヒタイト思ヒマス、宜シイデスネ——ソレデハサウ云フコトデ保留致シテ置キマス

○禱委員 先刻來質問應答ニ依リマシテ黑糖ノ廢稅ヲスルト云フコトハ洵ニ沖繩竝大島ノ黑糖製造業ヲ發展セシムル所以デナイト云フ政府度々ノ御説明デアリマスケレドモ、私ハ一向之ニ承服スルコトガ出來ナイ、是以上ハ所謂意見ノ相違カト思ハレマス、農林大臣モ意見ノ相違デアツテ、是以上述ベルコトモナイト云フ、又是以上追窮致シマシタ所ガ、矢張同ジコトヲ繰返シテ聽クニ過ギナイト思ヒマスカラ、農林大藏當局ニ向ッテノ質問ハ是デ打切ッテ置キマス、續イテ一點ダケデアリマス、遞信當局ニ極ク簡單ニ伺ッテ置キマスカ、沖繩竝大島ニ今日交通機關トシテ航海ヲ致シテ居リマスル汽船ハ、他ノモノモアリマスケレドモ、主トシテ大阪商船會社ノ船ガ之ニ從事シテ居ルノデアリマス、是ハ稅制ニハ直接ノ關係ハアリハセスケレドモ、砂糖ノ製造業者負擔ト云フ點ニ於テ少カラザル影響ガアリマスカラ、此點ヲ伺ッテ置キマスカ、此商船會社ガ主トシテ此航海ニ從事シテ居リマス、而シテ之ニ對シテハ國家ハ相當ナル補助ヲ與ヘテ居ラレ、其補助ヲ與ヘルニ付テハ、此航海業

者ノ運賃、即チ旅客並貨物ニ對スル運賃ハ、矢張認可制度ニナツテ居ルト私ハ承知致シテ居リマス、然ルニ此沖繩竝大島ニ對スル運賃ト云フモノハ、非常ニ高イ——高イ安イト云フノハ比較ノ問題デアリマスガ、今日瓜哇カラ神戸ニ、砂糖百斤持ッテ來マスル其運賃ガ、確カ十三年度ト思ヒマスカ、四十錢ダト思ッテ居リマス、ソレカラ臺灣ト神戸間ニ於ケル砂糖百斤ノ運賃ガ二十九錢、然ルニ沖繩大阪——起點ガ違ヒマスカ、大阪神戸ハサウ違ヒマセウカラ、大シタ差異ハナイト思ヒマスカ七十錢デアアル、大島大阪間モ七十錢、大島ノ管内デアアル沖之永良部、是ハ沖繩ヨリモ此處ニ對シテハ近イガ、是ガ一圓四十二錢、斯ウ云フ運賃ニナツテ居リマスカ、是ハ色々ナ事情モアリマセウ、併シ是デハ臺灣航路ニ比較シ、瓜哇航路ニ比較シ、大島沖繩ハ非常ニ高イ稅金ヲ拂ッテ居ル、是ハ産業發展ノ上ニ、又農業ノ上カラ見マシテ、負擔ノ上カラシテ非常ナ苦痛ヲ感ジテ居リマスカ、認可サレルニ對シテ、是等ノ比較並產業上ニ及ボス影響等ヲ御考慮ナサツテ、之ヲ認可サレタノデアリマセウカ、及ビスウシナケレバ出來ヌ、將來ハ又之ヲ輕減セラルル御方針デアリマスカ、其御見込ガアリマスカ、ソレダケノ事ヲ伺ッテ置キタイ

○宮崎遞信省管船局長 只今御尋ネノコトデアリマスカ、御承知ノ如ク内地

ト大島ハ那覇ノ間ニハ、鹿兒島ヲ起點トスルモノト、大阪ヲ起點トスルモノト、此二ツノ定期航海ヲヤツテ居ルガ、運賃ガ高イト云フヤウナ仰セデアリマシタガ、私共モ高イトハ思ッテ居リマスカ、併ナガラ運賃ガ定リマスニハ、色々ナ事情ガアルノデアリマシテ、譬ヘテ申シマスレバ、航路ノ狀況デアルトカ配船ノ狀況トカ、又ハ其區間ニ移動スル物資ノ數量、其他航海ガ定期的デアルカ、不特定のデアルカト云フコトニ依テ、色々變ッテ來ルノデアリマシテ、必シモ距離ノ長短ニ依テ定マルベキモノデヤナイトコトハ御承知ノ事ト存ズルノデアリマス、ソコデ只今仰セノヤウニ内地ト臺灣、又ハ内地ト瓜哇間ノ砂糖ノ運賃ニ比ベテ、内地ト大島、又ハ沖繩ノ砂糖ノ運賃ガ高イト云フコトハ事實デアリマス、唯々仰セノ數字ハ、私ハ具體的ノ運賃表ヲ持ッテ居リマセウカ、ラ申上兼ネマスカ、大體御話ノ數ニ近イモノト考ヘテ居リマス、ソレデ此航路ノ運賃ヲ定メマストキニ、一應ハ私共ハ關係ノ縣當局トモ相談ヲ致スノデアリマス、出來ルダケ運賃ノ低減ヲ圖ルト云フコトニ努メテ居リマス、併ナガラ大體現在ノ補助航路ノ遞信省ノ方針ト致シマシテハ、先ヅ或ル貨物が其運賃ニ堪ヘ得ルト云フ程度ナラバ、特ニ是ガ引下ヲ命ズルト云フコトハシナイデ、唯不當ノ引上ヲ爲スト云フ場合ニ之ヲ取締ルト云フ大體ノ方針ヲ執ッ

テ來タノデアリマス、只今ノ沖繩航路ノ如キハ、元々此處ガ輸送サルベキ所ノ數量ガ非常ニ少イ、而シテ其物資ノ多クハ季節的ナ物デアルト云フヤウナコトニナリマスカラ、例ヘバ砂糖ニシマシテモ、或ハ近時沖繩方面カラ出カケマシタ蔬菜類ニ致シマシテモ、春先カラ夏ノ初ニカケテハ相當出マスカ、夏頃カラ秋ニカケテハ殆ド荷物ガ無クナルト云フヤウナ有様デアリマス、此出盛期ニ於キマシテハ、船腹モ相當ニ貨物ニ依テ塞ガレルノデアリマスカ、季節ガ外レルト殆ド空船ノ儘デ走ラナケレバナラヌト云フヤウナ實況ニ至ルコトモアルノデアリマス、ソウ致シマスト、航海ニ從事スル側カラ見マスカ、先ヅ一年間打込ンデ如何ナル收支ノ計算ニナルカト云フコトニ依テ運賃ヲ考ヘテ行カナケレバナラヌノデアリマスカラ、是ガ定期的ト不特定のトニ依テ非常ニ違フノデアリマス、假ニ是ガ不定期デアリマスカレバ相當ノ物資ヲ集メテ、サウシテ之ヲ何噸ト云フコトヲ見積リマシタ上ニ、之ニ適當スル所ノ船腹ヲ以テ運送スル之ヲ運送スルハ斯々ノ運賃ナラバ引合ウトカ、引合ハナイト云フコトニナリマスカラ、自然運賃ガ安クナルト云フコトニナリマスカ、沖繩ニハ今申上ゲルヤウニ定期的ニ運航シテ居ルノデアリマスカラ、今申上ゲルヤウニ、貨物ノ數量如何ニ依テ、値ヲ左右スルコトガ出來ナイノ

デアリマス、貨物が無くテモ、矢張相當ノ船ヲ出サナケレバナラス、サウシテ其定期ヲ嚴重ニ維持シナケレバナラスト云フコトニナルカラ、諸般ノ點ニ於テ船舶ノ運輸上經費ガ膨大スル、隨テ輸送サルベキ所ノ貨物ノ運賃モ増大スルト云フコトハ是ハ已ムヲ得ナイ、又内地ト大島、内地ト沖繩ガ相當ニ距離ガ遠フニ拘ラズ運賃ガ同ジデアルノハ是ハドウデアアルカト云フヤウナ御話デアリマシタガ、是モ只今申上ゲルヤウニ此方面ノ運送貨物が非常ニ少イノデアリマシテ、距離ニシマスレバ、大島ノ名瀬ノ如キハ那覇ニ比シテ相當近イノデアリマスケレドモ、假ニ那覇カラ大

航路ニ於テハ同一運賃ヲ課セラルルト云フヤウナコトニナルデアリマス、ソレデハ政府ガ運賃ヲ引下ケルカドウカト云フヤウナ御話モアリマシタガ、私共モ出來ルダケハ此地方民ノ爲ニ、運賃ノ負擔ヲ輕クシタイト思フテ居リマス、併シ一面ニ於テハ又、此船舶ノ運輸ノ關係ヲモ顧慮シナケレバナラス、昨今ハ沖繩縣當局トモ寄リ一話ヲシマシテ、出來得ル限リ運賃ノ輕減ヲ圖ルヤウニ努力致シテ居リマス

○藤澤國務大臣 製鋼ニ付テ不當廉賣ノ法ヲ適用シナイト云フコトヲ商工省ガ既ニ決メタト云フコトヲ聞イテ居ルガ、果シテ然ルヤ否ヤト云フコトノ御尋ネデアリマスカ、サウデアリマスカ

○永田委員 サウデアリマス

○藤澤國務大臣 不當廉賣ノコトニ付テハ、其經過ハ既ニ御承知ノコトデアリマスカラ申上ゲマセヌガ、商工省ニ於キマシテハ當業者ノ國體カラ獨逸ノ製鋼ガドウモ不當廉賣的ニ這入ッテ來テ居ル模様ガアル、故ニ之ニ對シテ十分調査ヲシテ貫ヒタイト云フ注意モアルツタノデアリマス、斯ノ如キ事ガアレバ、政府ニ於テ當然註文ガゴザイマセヌデモ注意ヲ拂ハナケレバナラスコトデアリマスカラシテ、政府ハ十分調査ヲ遂ゲマシテ、將ニ其不當廉賣ニ關スル委員會ノ議ニ附セント致シテ居ルト云フ道程デアリマシテ、未ダ御問ノ如ク確定致シタ譯デゴザイマセヌ、其中途ニ在ルト云フコトヲ御注意置テ願ヒマス

持ッテ行クコトハ、昨年作ラレタ製鐵獎勵案ニ矛盾シタ結果ニナルカラシテ、先ヅ不當廉賣ト云フ玆ニ皮ヲ冠ッタモノヲ出シテ、ソレカラ是ガイケナイカラ其代リニ斯ウ轉化シタノデアアルト云フノデ、此方面ニ進ムノデナイカト私ハ考ヘルノデアリマス、但シ私ガ左様ニ考ヘルカラト言ッテ、ソレニ反對ト云フノデアリマセヌガ、併ナガラ昨年作ラレマシタ製鐵獎勵案ノ趣旨ハ、サウ簡單ニ覆ヘスコトガ出來ナイヤウニ當時政府ハ説明シテ居ラレタと思ヒマスガ、若モ是ガサウ簡單ニ覆ヘサレルト云フコトナラバ、私ハ今日鐵ノ國產ノ上ニ於テ困ッテ居ル問題ハ、唯ミ鋼材ノミニ限ラナイト思フ、鐵鋼一貫主義ノ三圓五圓ト云フ例ノ獎勵法デ行カナクナッテ、鋼材ノ方ニ對シテ特ニ輸入税ヲ課スルト云フコトニナレバ、結局昨年政友會ノ山本條太郎君ガ極力論ゼラレタ點ニ落チルノデアアル、製鐵國策ヲ維持スル上ニ於テハ、獎勵法デハイカヌ、ドウシテモ關稅主義ニ依ラナケレバナラヌト云フ意見ヲ述ベラレタノデアリマス、當時吾々ハ其趣旨ニハ大ニ賛成ヲ表シマシタ、又理由ガアルト信ジタノデアリマシタガ、政府ノ種々ナル御説明ニ依テ先ヅ製鐵獎勵案ニ賛成ヲ致シテ居ッタ、其時ニ政府當局ハ是デ屹度行ケルノダ、來年ニナッテ變ヘルコトハ決シテナイ、是ナラバ十分行ケルト云フコトヲ極力辯明セラレタノデアリマ

阪ニ物資ヲ輸送スル、或ハ大島カラ輸送スルト云フ場合ニ、那覇カラ滿船致シマスレバ、名瀬デ積ムコトハ出來ナイ、名瀬デ積ムトナレバ那覇カラ積ムコトガ出來ナイト云フコトニナリマスカラ、結局名瀬デ積ムト云フ時ニハ那覇名瀬間ニ運搬セラレルベキ物資ハアリマセヌカラ、此間ハ空ケテ置カナケレバナラスト云フコトニナルノデ、結局其間ノ運賃モ矢張名瀬内地間ノ貨物が負擔シナケレバナラスコトニ相成ルノデアリマス、是ハ相當物資ガ豊富デアッテ、船腹ガ如何ナル箇處ニ於テモ滿タサレルト云フヤウナ場合ニハ、輸送區間ニ依テ運賃ガ量ナルト云フコトハ當然ノコトデアリマスケレドモ、只今申上ゲルヤウナ實況デアリマスカラ此

力セララルト云フ事デアリマシタガ、尙ホ一層御盡力ヲ御願スルコトトシテ、是デ私ノ質問ヲ打切りマス

○永田委員 商工大臣ニ一ツ、此間岩切君カラ御話ガアッタヤウデアリマスガ、此際鋼材ニ對スル關稅ノ引上ヲ、當業者ハ盛ニ鐵道協會アタリデ昨年來叫ンデ居リマシタガ、ソレニ對シテ先般ノ御話デハ、只今岩切君モ伺ヒマシタ所ガ、不當廉賣ノ規定ニ當符ラナイ、是ガ實行ガ出來ナイト云フ狀態ニナッタナラバ、鋼材ノ關稅引上ヲスル積リデアルト云フヤウナ御話ガ、此前ノ委員會ニアッタサウデアリマス、ソレニ付キマシテ最近不當廉賣ヲ適用シナイト云フコトヲ省職デ御決メニナッタト云フコトヲ新聞デ拜見致シマシタ、事實サウ云フコトガ御決マリニナッタカドウカ知リマセヌガ、先ヅ第一ニソレヲ伺ヒタイト思ヒマス

○永田委員 大臣ノ御説明デ、マダ不當廉賣規定ヲ適用スルカ、ゼヌカ、分ラナイ、其途中デ今考ヘテ居ル所デアルト云フコトデアリマシタガ、私ハ今中途ニ居ルト云フ問題ハ、結局不當廉賣ノ規定ヲ適用シナケレバナラナイサウシテ、其結果ハ鋼ニ對スル關稅ノ引上ガ次イデ行ハレルモノデアルト思フ、モット惡推量ラスレバ、直ニ關稅引上ニ

持ッテ行クコトハ、昨年作ラレタ製鐵獎勵案ニ矛盾シタ結果ニナルカラシテ、先ヅ不當廉賣ト云フ玆ニ皮ヲ冠ッタモノヲ出シテ、ソレカラ是ガイケナイカラ其代リニ斯ウ轉化シタノデアアルト云フノデ、此方面ニ進ムノデナイカト私ハ考ヘルノデアリマス、但シ私ガ左様ニ考ヘルカラト言ッテ、ソレニ反對ト云フノデアリマセヌガ、併ナガラ昨年作ラレマシタ製鐵獎勵案ノ趣旨ハ、サウ簡單ニ覆ヘスコトガ出來ナイヤウニ當時政府ハ説明シテ居ラレタと思ヒマスガ、若モ是ガサウ簡單ニ覆ヘサレルト云フコトナラバ、私ハ今日鐵ノ國產ノ上ニ於テ困ッテ居ル問題ハ、唯ミ鋼材ノミニ限ラナイト思フ、鐵鋼一貫主義ノ三圓五圓ト云フ例ノ獎勵法デ行カナクナッテ、鋼材ノ方ニ對シテ特ニ輸入税ヲ課スルト云フコトニナレバ、結局昨年政友會ノ山本條太郎君ガ極力論ゼラレタ點ニ落チルノデアアル、製鐵國策ヲ維持スル上ニ於テハ、獎勵法デハイカヌ、ドウシテモ關稅主義ニ依ラナケレバナラヌト云フ意見ヲ述ベラレタノデアリマス、當時吾々ハ其趣旨ニハ大ニ賛成ヲ表シマシタ、又理由ガアルト信ジタノデアリマシタガ、政府ノ種々ナル御説明ニ依テ先ヅ製鐵獎勵案ニ賛成ヲ致シテ居ッタ、其時ニ政府當局ハ是デ屹度行ケルノダ、來年ニナッテ變ヘルコトハ決シテナイ、是ナラバ十分行ケルト云フコトヲ極力辯明セラレタノデアリマ

ス、流石ニ山本君モ之ニ對シテ肯定サレタノデアリマス、然ルニ一年經ツカ經タナイ中ニ、若モ私ノ推測スル如キ結果ニナルトスルナラバ、此製鐵獎勵案ハ全ク無用ノ案ガ作ラレタト言ッテモ私ハ差支ナイ、寧ロ此製鐵獎勵法ナルモノハ撤回シテシマッテ、銑鋼總テニ對シテ關稅主義ニ私ハ一轉スルコトガ男ラシイ堂々タル政策デハナイカト思フノデアリマス、密ニ承ル所ニ依レバ、今度ノ鋼ニ對スル改正ノ稅率ハ約二十七八圓或ハ三十圓、サウシテソレハ最も多ク輸入サレテ居ル所ノ二時以下ノ小物ニ限ル、大キイ物ハ現在ニ止メルト云フ、斯ウ云フ案デハドウナリマスカ、日本デ今日生産サレテ居ルモノハ二時限リデ、大キナモノハアリマセヌ、又此案ノ通り大キイモノハナイヤウデアリマス、要スルニ此鋼ニ對スル政策ハ銑鐵ノ獎勵案カラ離レテシマッテ、關稅主義ニ入ッタト言ッテモ私ハ差支ナイト思フ、斯様ナ方針デ進マレルト云フコトハ、私ハ善イコトデアルト思フ、反對スルノデハナイ、寧ロ更ニ擴張シテ銑鐵ニ對シテモ其方法デ進ンデ行カレタラドウカ、商工省ノ方ニ於キマシテハ、鋼ニ對シテ政策ノ變更ヲスルナラバ、更ニ思切ッテ銑鋼ニ對シテモ關稅主義ニ轉化サレタラドウデアるか、又サウ云フコトニ迄進ム御考ガ、尠クトモ今日芽ヲ吹イテ居ルカドウカト云フコトヲ一應承リマス

○藤澤國務大臣 永田君ニ御答致シマスガ、御尋ネノヤウナ御意見ヲ土臺トシテ御論ジニナリマスレバ、過去ノ政策ヲ變更シタカノ如クニ御承知ニナルカモ知レマセヌケレドモ、決シテ左様ナ譯デハナイノデアリマス、所謂銑鋼一貫主義、是ハドウシテモ貫カナケレバナリマセヌ、過日九州製鋼所ノ買收ノ豫算ヲ提出シ、又其買收案ヲ提出シタノモ、其主義ヲ全ウセンガ爲デアッタノデアリマス、然ルニ我國ノ鋼ノ需要高ハ御承知ノ通り百六十萬噸デアッテ、内地デ生産スル所ノモノガ百十萬噸ニ過ギナイノデアリマスカラ、ドウシテモ四五十萬噸ハ之ヲ外國ノ輸入ニ仰ガナケレバナリマセヌ、仰ガナケレバナリマセヌケレドモ、併ナガラ不當廉賣的ニ輸入ガ行ハレマスルコトニナリマスト、内地ノ製鋼事業ト云フモノハ破壊サレテシマフコトニナルノデアリマス、ソレハ極端ナ言葉カモ知レマセヌケレドモ、兎ニ角ニ非常ナ惡影響ヲ受クルノデアリマスカラ、此輸入ニ付キマシテハ十分ナル注意ヲ拂ハナケレバナラヌ、即チ不當廉賣法ノ持出サレタ所以デアアルノデアリマス、故ニ政府ハ其實施ニ當リマシテ、繰返サウデアリマスガ大ニ注意ヲ拂ッテ、左様ナ事ノナカラシムコトヲ希望シ努力致シテ居ルノデアリマス、然ルニ曩ニ御答致シマシタ如ク、過般製鋼懇話會ノ幹部カラ、本邦ニ輸入セラレル獨逸鋼鐵ニ付キマシテ、不當廉賣ノ疑ガアルカラ、ドウカ十分ニ調査シテ欲シイト云フコトノ要求ガアリマシタ、政府モ曩ニ申上ゲマシタ通り、勿論左様ナ事ガアリマシテハ容易ナラヌ事デアリマスカラ、十分ナ注意ヲ拂ッテ、サウシテ只今其調査ガ進ンデ居ルト云フコトデアリマス、決シテ從來ノ主義ヲ變更致シマシタ次第デハナイノデゴザイマス

○永田委員 マダソコマデ決マッテ居ラヌト云フ假定ノ事實ナラバ、尙ホ斯ウ云フ事ガ事實ニナッテ、恐ラク私ハ現ハレルガラウト思フ、其節ニ尙ホ御伺スルコトニシマス、私ハ是デ打切りマス

○武藤委員長 商工大臣ニ御質問ハアリマセヌカ——若シアリマスナラバ此機會ニ引續イテ——木暮君ハ……

○木暮委員 大藏大臣ニ伺ヒタイノデスガ……

○武藤委員長 ソレデハ高橋君ハ……

○高橋委員 私モ主ニ政策ノコトニ關係シマスカラ、大藏大臣ニ伺ヒタイノデスガ、政務次官ハ繰合セハ付キマセヌカ

○武藤委員長 政務次官ハ見エテ居リマス

○高橋委員 前ニ色々質問ヲ致シテ夫等ノ御答辯ヲ願ヒ、又同僚諸君カラノ質問ニ對シテソレ——御答辯ヲ戴イタヤウデアリマスガ、ドウモ徹底ヲ缺イテ居ル、ソレハ主ニ大臣並政務官ノ

諸君カラ御答辯ヲ伺フ機會ガナクシテ、事務官ノ御連中カラ伺ッタノデアアル、事務官ノ方ノ御答辯ニ依ルト云フト、吾ミト餘程同感ノヤウナ工合ニ見エテ、咽喉ノ所マデサウ云フ聲ガ出テ來テ居ルノダケレドモ、政策ニ關係スルコトデアアルカラト云フノデ、少シ濁サレルヤウニ思ハレル、サウ云フ質問應答ヲ何時マデ重ネテモ、ドウモ徹底ヲ缺クノデアリマスカラ、政府ノ答辯ハ成ベク政務官並大臣ヨリ承リタイト、斯ウ云フ私ノ考デアリマス、ソレデ色々非常ニ多岐ニ涉ルノデアリマスケレドモ、マア同僚諸君ト餘リ抵觸シナイ範圍内ニ於テ質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、登錄稅ノ方面デスガ、此前大體ニ於テ質問ヲ致シタノデアリマスガ、自分デマダ疑問ト致シテ居リマスノハ、登錄ノ此第二條改正案ニアル第一號、現行法ニ依リマスト第一號第二號トナッテ居リマス、相續ニ因ル所有權ノ取得デ、今迄ハ登錄稅法ノ制定當時ヨリ二通りニ區別サレテアッタノデアリマス、即チ普通ノ家督相續ト其他ノ家督相續並遺產相續ヲ區別シテ後者ニ對シテハ、特ニ稅率ヲ重クシテアッタガ、途中デ改正ヲ致シテ同率ニ致シタノデアリマスケレドモ、當初ハ餘程隔リガアッタノデアリマス、左様デアリマスカラ、此遺產ト云フヤウナモノ、即チ無償デ贈與サレテ行クヤウナ性質ノ遺產相續ト云フヤウナモノニ對シ

テ、私ハ理論上ドウシテモ是ハ現行法ノ第一號普通即チ法定家督相續ノ場合ト別ニ區別ヲ致シテ課税ヲスベキモノダト思フノデアリマス、殊ニ負擔ノ公正ト云フヤウナコトカラ考ヘテ見マスルト云フト、擔税力豐富ナル者ニ餘計ノ負擔ヲ爲サシメルト云フコトハ必ズ實現セシメナケレバナラヌモノデアラウト思フ、左様デアリマスカラ、是ハ遺産相續ノ如キ擔税力ノ相當ニ豐富ナルモノニ減税ヲ致スヤウナ形ニ相成ルノデアリマス、故ニ此ノ度ノ改正ハ負擔ノ公正ヲ圖ルト云フヤウナ意味カラ見マストフト、何等意義ヲ成サナイノデアリマス、此點ニ付テ御考慮ヲ拂ハレタカドウカト云フコトヲ承リタイ

○武内政府委員 只今御質問ガアリマシタガ、御質問ノ趣意ハ表面上一通リノ理由トシテ寔ニ御尤ナ御意見ト思フノデアリマスガ、徵税ノ如キモノハ御承知ノ通り中ニ完全ニ之ヲ實行スルコトガ困難ナノデアリマシテ、一方ガ非常ニ高イト云フト、他ノ色ニナ方法ヲ案出致シマシテ通税ヲ圖ルノデアリマス、此場合ニ於キマシテモ、率ガ高イト云フト矢張賣買其他ノ方法ニ依テ通税ヲ圖ルト云フノガ、實際ニ於テ非常ニ多イノデアリマスカラ、成ベク之ヲ低クシテ、サウ云フ不正ノコトヲサセナイデ納税ヲサセルト云フコトヲ圖ルト云フコトガ、徵税上一ツノ機宜ニ適スル方法ダラウト斯様ニ考ヘタノデア

リマシテ、只今御質問ノ趣旨ハ至極御尤ト思ヒマスケレドモ、實際問題トシテ實行ノ上ニ於キマシテ低減スル方ガ宜シイト、斯様ニ考ヘテ此改正ヲ致シタノデアリマス

○高橋委員 只今ノ御答辯ハ不徹底極マルモノデアリマスガ、後ニ保留シテ次ノ問題ニ移リマス、其次ノ第二號ノ贈與、無償名義ヲ以テ取得スルモノノ、登錄税デアリマス、マア贈與代表シテ置キマセウ——贈與ト云フコトデ申上ゲマス、此贈與ニ對スル登記ト、ソレカラ賣買ノ登記トハ、從來二十五ノ隔リガアツタ、今マデ政府委員カラ答辯ヲ願ヒマシタ所ニ依ルト、其差ガ大キイ、ソレデアルカラ賣買ト云フヤウナ形式ヲ執ッテ税ノ通脱ヲ致スノデアル、ソレヲ防グガ爲ニ此贈與ノ方面ノ登錄税ヲ六十カラ四十五ニ低下シタノデアル、サウ致スト云フト其差ガ十二ニナッテ低クナルカラ、サウ云フ手數ヲ致ス者ハ少クナッテ、通脱ノ弊害ガ除去サレルダラウ、斯ウ云フ意味デ以テ此ノ如キ改正ヲ行ッタト云フヤウニ承ッタノデアリマス、而シテ私共ガ考ヘマスルノニ、斯ウ云フ税金ヲ通レヤウト云フヤウナ方面ノ人々ハ、多少デモ其處ニ餘裕ガアレバ、ドウシテモ通レヤウトスルダラウト思フ、是ハ外ノ賣買ヤ其他ノ對象物ヲ目的トシテ行フ所取引行爲トハ異ルノデアル、登記サヘ濟メバ所有權ガ完全ニ移轉スルノデアル、左様デアルカラシテ登

記所ヲ通り越スト云フコトノミガ問題ニナルノデアル、外ノ場合ニハ移轉行爲ニ伴ッテ何カ對象物ヲ伺フカラ取ラナケレバナラヌ、サウ云フコトガアリマスカラ、値段ノ安イモノヨリハ高イモノノ方ガ、後デ値打ガアルカラ其方ガ宜カラウト云フヤウナコトモアリ得ルコトト考ヘラレマセウケレドモ、此登錄税ヲ拂フト云フ行爲、即チ登記所ニ於テ登記ヲスルト云フ行爲ハ、登記サヘ致セバソレデ其全部ガ完了スルノデアリマス、所有權ノ移轉、所有權ノ取得ト云フモノハ、ソレニ依テ確認サレルノデアリマス、ソレデアルカラ斯ウ云フ税ノ通脱ヲ圖リタイト云フヤウナ間違ッタ觀念ヲ持ッテ居ル者ハ、モウ一錢デモ一厘デモ——極端ニ申上グレバ其處ニ通脱ノ途ガアルナラバ、其途ヲ執ラウト云フ考ニナルノデアラウト思フ、左様デアリマスカラ、今迄ハ千圓ニ付テ二十五圓ノ隔リガアツテ、此度ハ千圓ニ付テ十二圓即チ一萬圓ニ付テハ百二十圓、十萬圓デハ千二百圓マダ隔リガアルノデアリマス、左様デアリマスカラ、サウ云フ慾張ッタ行爲ヲヤラウト云フ人間ハ、相變ラズソレニ依テ通脱ノ途ヲ講ズルデアラウト思フ、ソレデアリマスカラ、サウ云フ方面ニ於テハ何等御提案ノ趣旨トシテ御述べニナツタ脱税防止ト云フ事實ハ認メラレナイト思フノデアリマス、左様デアリマスカラ、之ニ付テ贈與ト云フコトヲ六

十ト云フ率ヲ四十五ニ御下ゲニナルニ付テハ、他ニ重大ナル理由ガアツタニ相違アルマイ、デ只今申上ゲタ理由以外ニ、何カ重大ナル理由ガアリマスレバ、ソレヲ承ッテ置キタイ、モウ一ツハ此六十ト云フ今迄ノ税率ヲ設ケタト云フコトハ、先般モ一寸申上ゲタ如クニ、相續税ノ方面ト從來ハ大ナル關係ガアツタヤウニ思ハレル、左様デアリマスルカラ、此登錄税ヲ前ノ六十ノ率ナルモノヲ千分ノ四十五ニ御引下ニナルノハ、從來政府ニ於テモ考慮サレテ居タルガ如クニ、相續税ノ方面ノ關係ヲ御考慮アツタコトト思フガ、其方ノ方面ハドウ云フヤウナ御考デ此提案ヲ爲サレタノデアアルカ、其邊ノコトヲ先ヅ承ッテ置キタイト思ヒマス、是ハ大臣ヨリ御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス

○片岡國務大臣 税制ノ問題ハ大變是ハムヅカシイ事柄デアリマシテ、技術的ニ渉ルコトハ政府委員ノ方ガ遙ニ詳シウゴザイマス、只今大體ニ付テ申上ゲマスガ、先刻武内政府委員ヨリモ御答辯ヲ致シマシタ如ク、餘リニ一方ガ苛酷ニ失スルト云フ嫌ヒガアルト、其通税ノヤウナ企テガ益ニ深刻ニナル、ソレ故ニ斯様ニ改正ヲ致シマシタカラト云ッテ、絕對ニ通税ノ途ガ杜絶スルトハ斷言ガ出來難イ事柄デハゴザイマスルガ、此改正ニ依リマシテ比較的其弊ヲ矯メ、又芟除スルニ近カラシムルモノガアルト、斯ウ考ヘタニ過ギナイノ

第五類第二號 登錄税法中改正法律案(政府提出)外三件委員會議錄 第七回

デアリマス

○黒田政府委員 相續税ノ關係ヲ如何ニ考ヘタカト云フ點ニ付テハ私カラ御答申上ゲマス、此點ニ付テモ既ニ高橋君トハ數回問答ヲ申上ゲタノデアリマス、大體御承知トハ考ヘマスルガ、相續税ニ付キマシテハ御承知ノ通り二十三條ニ於テ、親族間ノ贈與ト云フモノニ付テハ、相續税不動産並船舶ニ付テハ相續税ヲ課セズシテ、其代リニ登録税ノ方ニ於テ普通ノ相續税ヨリ、或ハ又普通ノ賣買ヨリモ税率ヲ高クシテ、相續税ノ代リニ此ノ方デ負擔ヲサシテ居ルト云フコトハ、此前申上ゲテ御承知ノ通りデアリマス、ソコデ相續税トノ關係ニ於テモ、今日ノ千分ノ六十ト云フノハ、幾分カ高イヤウニ考ヘルノデアリマス、此點ニ付テ此前ニ高橋君カラ頻ニ御議論ガアリマシタ、之ヲ下ゲルト云フコトハ非常ニ多クノ不動産ヲ相續サセル者ヲシテ、徒ニ負擔ヲ輕減サセルモノデアルト云フ風ナ御意見モアッタノデアリマスガ、不動産贈與ト云フ場合ニ於テモ、之ヲ分割シテ贈與致シマス、其税率ガ高クナルノデアリマス、高イノモアリ低イノモアリマスガ、是等ノ場合ヲ平均致シテ見マスルト、先ヅ千分ノ四十五、即チ賣買ノ場合カラ申シマスルト千分ノ十高イノデアリマス、普通ノ相續ノ場合カラ申シマスルト、千分ノ四十五デアリマス、大體是等ガ適當ナモノデアルト考ヘタ譯デア

リマス、相續税ヲ假ニ之ヲ相續税デ取ル、サウシテ登録税ノ方ニ於テハ之ヲ輕クスルト云フ風ナコトモ一ノ方法デアリマスガ、斯様ニ致シマス、不動産ノ移轉ガアリマシタ場合ニ於テ、是ガ親族間ニ行ッタノデアルカドウカ、ソレガ無償名義デアリ、而モ親族間デアルカドウカト云フ風ナコトヲ調べテ、登記所ニ於テモ假ニ相續税ヲ取りマシテモ、之ヲ千分ノ五ト致シマス、千分ノ五課税スルカ或ハ千分ノ三十三課税スルカ、又親族間デナイ場合ニ於ケル無償名義ノ贈與ト云フモノノ税率ヲ、假ニ三十三ト致シマスレバ、其何レヲ適用スルカト云フ風ナコトヲ登記所ニ於テ判斷シナケレバナラス、是ガ登記所ノ事務トシテ非常ニ困難ナ仕事デアルノデアリマス、此點ニ付テハ司法省ノ當局トモ能ク話合ヒラシマシテ、相談ヲシタ結果デアルノデアリマス、非常ニ登記所ニ於テハ是ハ困難デアリマス、ソレ故ニ矢張從前ノ通り茲ニ登記ノ方ニ於テ取ルコトニ致シマシテ、其税率ヲ適當ニ定メル、ソレカラ先程大藏大臣カラ申サレマシタ通り、餘リ高クシテ置クト賣買名義ニ名ヲ藉リテ、通稅ヲ圓ルト云フコトガ行ハレ易イ、且ツ負擔ノ均衡ヲ失スルカラ絶對ニ之ヲ防ギ得ナイト致シマシテモ、成ベク其弊ヲ少クシテ適當ノ負擔ニ致シマスレバ、之ヲ負擔スルコトハ納稅者ニ於テモ致スベキデアリマス、其點ヲ考ヘ

テ之ヲ平均シ均衡ヲ保タシノヤウト云フノデ千分ノ四十五ト致シタ次第デアリマス

○高橋委員 大臣ノ御答辯ニ付テモウ一應同ハナケレバナラヌノデスガ、サウスルト大臣ハ先程武内次官ノ答辯ト關聯シテ申サレマシタガ、其理由ハ關聯スルヤウデアリマスケレドモ、問題ガ違フ、併シソレハ別問題ト致シマシテモ、只今改正ノ重ナル理由ハ税ノ連脱ヲ防グニアリ、脱稅ヲ防グモノデアルカラ、率ヲ下グレバソレデ脱稅ヲ妨ゲルダウト云フコトデアリマシタガ、無暗ニ警察官吏ノヤウナ頭デ御判斷ニナリマス、或ハサウ云フヤウナコトモ考ヘラレマセウガ、泥棒ヲ少クシヤウ、泥棒ヲ捕ヘヤウトシテ、眞實ノ方面、本當ノ贈與、假裝ノ贈與デナク、即チ脱稅ガ目的デナイ眞實ノ贈與、負擔力ノ十分ナ財産ヲ只貰ハウト云フモノニ屬シテ徒ニ輕減ヲスルコトナル、此頃東京當リデハ地所ガ高イ、家屋ガ高イ、ソレ故家屋ヲ建築シテ次男三男ノ名義ニシテ與ヘテヤラウト云フ例ガ多イノデアル、是ハ無償贈與デアル、斯ウ云フ眞實ノ贈與ト云フモノガ隨分アルダラウト思フ、サウ云フモノニ安クシテ過度ノ恩典ヲ與ヘルト云フ必要ガ何處ニアル、負擔ノ均衡ヲ叫バレル大臣ニシテ、コンナ眞實ノ贈與ニマデモ輕減ヲスルト云フヤウナコトヲ爲サル必要ガアルカ、況ヤ吾々ノ見ル所ニ

依レバ六十ノモノガ四十五、千圓デ六十圓取ラレタモノガ四十五圓ニナッタカラト云ツテ、相變ラズ脱稅ヲ爲シ得ル途ハ十分アル、防ゲルト云フ途ハナイ、アルトシテモ幾分カ少クナルト云フコト位デアアルガ之レモ當テニナラス、ソレデアアルカラ一方ニ於テサウ云フ幾分カ少クナルダラウト云フ頼リノナイ所ニ御頼リニナツテ、實際ニ於テハ却ツテ負擔力ノ豐富ナル者ニ恩典ヲ與ヘルト云フコトニ終ルト云フコトハ、負擔公正ノ法則ニ依テ此稅制ノ改正ヲ爲サル、其公正ト云フ文字ニ對シテ私ハ申譯ハナカラウト斯ウ思フノデアル、ソレデアアルカラ斯ノ如クシテ無用ノ減稅ノ恩典ヲ負擔力ノ豐富ナル純然タル無償贈與ニ與ヘテ居ル、是ハ假裝のデモナケレバ連脱ノ目的デモナイ、眞實ノ無償贈與ト云フモノニ付テ斯ル減稅ノ恩典ヲ與ヘルト云フコトハ、決シテ社會正義ノ上ニ於テ容スベカラザルコトデハナイカト、斯ウ云フヤウニ考ヘル、其邊ノ事ハ御考慮ガアッタカドウカ、是ハ技術上ノ問題デハナイ、租稅ノ根本精神デアアルカラ、大臣カラ篤ト詳細ナル御説明ヲ煩シタイ

○片岡國務大臣 是ハ只今政府委員ヨリ御答ヲ致シマシタ所デ、餘程私ハ盡キテ居ルト思ヒマス、詰リ相續稅法ト登記稅トノ權衡ヲ考ヘ、所謂負擔ノ均衡ヲ得セシムルニ斯ウシタ方ガ宜シイ、併セテ從來ノ弊害ヲ矯正スルニモ利益



アリ、斯ウ云フ譯デアッテ、双方ノ利益ヲ考慮シタニ外ナラヌノデアリマス  
○高橋委員 トンデモナイ見當違ヒノ御答辯ヲ承ルノデアリマスガ、サウ云フコトデアルト云フト、モウ是ハ黒田政府委員ノ御答辯ノ中ニモアリマシタ如ク——是ハ混雜致シマスカラ、モウ少シ詳シク申シマスルト云フト、相續稅ノ此二十三條ト云フモノノ中ニハ、船舶並不動產ト云フモノヲ省カレテ居ル、昨年ノ改正ニ依テ千圓以上ノ、船舶並土地ヲ除イタ——土地ト云フト語弊ガアリマスガ、不動產ヲ除イタ、其他ノ財產ノ贈與ニ對シテ是ハ遺產相續ト看做シテ相續稅ヲ課スル、マア學問上デ謂フ準遺產相續稅トカ申シマスガ、ソナヤウナ條項ガアル、ソコデ私ハ立法ノ當時ノ事ヲ承ッテ見マスト云フト、船舶並不動產ト云フモノヲ此條項ノ中ニ省イテ、主ニ現金デアルトカ、有價證券デアルトカ云フモノヲ、千圓以上ノ價格ノ物ヲ贈與スル場合ニハ、之ニ遺產相續稅ヲ掛ケル、ソレニ不動產ヲ贈與シタ場合トカ船舶ヲ贈與シタ場合ニハ、何故遺產相續稅ヲ掛ケナイカト云フ疑問ノ起ル場合ニ、當時ノ立法ノ趣旨ニ基クト云フト、ソレハ登錄稅ノ方デ以テ千分ノ六十ト云フ可ナイ重イ負擔ヲ掛ケテ居ルノデアルカラシテ、此遺產相續稅ヲ掛ケヌデモ相當ノ負擔ヲサシテ置クノデアルカラシテ、決シテ其不動產ノ贈與ニ對シテハ

何等改メテ遺產相續稅ヲ掛ケナクテモ負擔ノ公平ヲ期スルコトガ出來ルト、斯ウ云フコトニ相成ッテ居ルト吾ミハ聞イテ居ッタノデアアル、然ルニ今日ハ相續稅ノ方ハズツト高クナル、左様デアリマスカラシテ相續稅ハ其儘ニシテ置イテアッテモ、私ハ此登錄稅ト云フモノヲ引下ゲルト云フコトニ付テハ相當ノ考ヲ持タナケレバナラヌト思フ、此二十三條ヲ制定シタ準遺產相續稅ト云フモノヲ御設ケニナッタト云フ趣旨ヲ御考ルト云フコトソレ自身ニ於テ、私ハ相當ノ御考慮アルベキ筈ダト思フ、況ヤ今日ハ、昨年ノ改正ニ於テ、相續稅ハ非常ナル累加稅率ヲ課セラレテ居ルノデアアル、昔日相續稅制定當時トハ殆ド雲泥ノ違ヒニナッテ居ルノデアアル、ソレデスカラ尙更此千分ノ六十ト云フ現行率ハ考慮ノ餘地ガ十分ニアル、是デモ今ノ二十三條ノ此精神ニ副フベクスルニハ、此六十ノ稅率ヲマダ——上ゲナケレバナラヌト云フコトニ相成ッテ居ルノデアアル、左様デアリマスカラ此相續稅ノ第二十三條ト、此登錄稅ノ贈與ノ稅率ト云フモノハ、双方相關聯シタモノデアアル、左様デアリマスカラ當然此登錄稅ノ改正ニ當ッテ是ハ考慮シナケレバナラヌ、私ハ寧ロ相續稅ノ改正ノ時分ニ、此二十三條ト云フモノニ付テハ相當ニ御考慮ニナッテ、其時分ニ此登錄稅ト云フモノハ考慮ノ中ニ御入レニ

ナラナケレバナラナカッタト私共ハ考ヘラレルノデ、是ハ立法上ノ技術デモナケレバ稅制上ノ技術デモ何デモナイ、我國ニ於ケル所ノ終始一貫シタル稅制ノ主義デアアル、其主義ヲ御變ヘニナッタノデアアルカ、御變ヘニナッタトスレバ、ドウ云フ意味ニ於テ其主義ヲ御變ヘニナッタノデアアルカト云フコトヲ責任者タル大藏大臣ニ御伺ヒシタイト思フ、是ハ立法上ノ技術デモ稅制上ノ技術デモ何デモナイ、從來稅制立法ノ上カラシテ、此主義ト云フモノハ終始一貫シテ居ル、今回ニナッテ初メテ之ヲ御棄テニナッタト云フ理由ハ何處ニ在ルカト云フコトヲ伺ヒタイ、是ハ重大ナル問題ダト思フ、ト云フノハ私共ハ、ドシドシ此ノ種ノ登錄稅改正ニ依テ相續稅ト云フ方ノ通脫ト云フモノガ行ハレ、現政府ハ之ヲ益々御獎勵ニナルヤウナコトニナルト思フ、相續稅制定ニ於テハ此相續稅率ガマダ——ズツト低イ場合ニ於テサヘ通脫ノ憂アリトシテ、此二十三條ヲ設ケテ居ッテ、ソレニ不動產船舶ヲ除イタノハ、之ニ對シテ登錄稅ノ方ニ相當ノ重稅ヲ掛ケテアルカラ之ヲ除イテ差支ナイ、斯ウ云フコトニナッテ居ッタ、然ルニ相續稅ノ方ハ昨年ノ改正ニ於テ非常ナル増加ヲ致シタ、假リニ其儘ニ據置イテモ此ノ登錄稅率ノ引下ニ依テ、此二十三條ノ立法當時ノ意思ト云フモノハ、此處デ無クナッテシマッテ居ル、ソレデスカラ矢張其當時悞レ

ラレテ居ッタ如クニ、矢張ドン——通脫ト云フモノハ財產ノ贈與ト云フ形式ニ於テ行ハレル、ソレデアリマスカラ之ヲ此通りニシテ行クナラ、尙ホ一層其弊害ヲ助長スルコトニナル、ソレデアルカラ私ハ之ヲ呼ンデ相續稅通脫ノ獎勵法ナリト稱ヘルモノハ之ニ由ルノデアアル、ソレデアアルカラ今迄終始一貫シタル所ノ稅制上ノ原則ヲ御破リニナッタニ付テハ、モウ少シ大臣ニ於テ相當ナル御考慮ガアッタコト考ヘテ居ル、ソレデ是ハ重大ナ政治上ノ問題デアリ、立法技術ナドト云フ單ナル問題デヤナイ、ソレデアアルカラ之ニ付テハ責任ノ重大ナル大臣トシテハ餘程御考慮ニナッタ筈ト思フノデアアルガ、之ニ付テ大臣ハ實際御考慮ニナッタカ、サウシテ御考慮ニナッタナラバドウ云フ理由ニ依テ斯ウ云フ大改正ヲ——稅制ヲ通ズル此大方針ヲ御變ヘニナッタカト云フコトヲ此場合ニ承リタイト思フノデア

○黒田政府委員 御尋ネハ大臣デアリマシテ、大臣何レ御答辯ニナリマスガ、只今技術上ノ點ハナイト云フ風ニ御判斷ニナッテ御議論ニナリマシタガ、實ハ餘程立法技術ニモ關係致シテ居ルノデアリマス、其點ヲ私カラ申上ゲマシテ、尙ホ不足デアリマスレバ大臣ニ補ッテ戴クコトニ致シタイト思ヒマス、相續稅トノ關係デアリマス、是ハ先ニモ私ガ御答申上ゲタト思フノデアリマス

ガ、昨年相續稅法ノ改正ノ際ニ於テ、二十三條ヲ改正致シマシタ、是ハ御承知ノ通りデアリマス、範圍ヲ少シ擴メマシテ親族間ノ贈與ヲ認メタノデアリマスガ、此際ニ於キマシテ實ハ色々研究ヲ致シタノデアリマス即チ此親族間ノ贈與ト云フモノニ課稅シテ居リマス、今迄ハモット狹ク、直系卑屬ニ行ク場合ニ課稅シテ居リマシタガ、ソレヲ擴ゲテ、親族間ニ課稅致シマシタガ、尙ホ之ヲ擴ゲマシテ、之ヲ贈與稅ト云フモノニシテシマウコトガ適當ナリヤ否ヤ、相續稅ト云フ觀念カラハ聊カ離レマスケレドモ、贈與致シタ場合ニハ遺產相續稅ノ如キモノヲ課稅スルコトガ適當ナリヤ否ヤト云フコトハ、是ハ尤モナ論斷デアリマス、ソレ故ニソレヲ考ヘマシタガ、又之ヲ贈與稅ト云フヤウニ廣ク致シマシタコトハ、色々關係ガアリマスノデ、贈與ニモ種々アリマシタガ、親族間ノ贈與ト云フコトニ止メマシタ次第デアリマス、之ヲ若シ今回登錄稅ノ方ニ取ルコトヲ止メマシテ、相續稅ノ方デ以テ取ルト云フコトニシマス、即チ二十三條ノ船舶不動産ト云フモノヲ除外シテ居リマスモノヲ廢メルコトニナルノデアリマシテ、二十三條ニ依テ課稅スルコトニナルノデアリマスガ、廣ク之ヲ相續稅ト云フコトニ致シマス、幾分カ登錄稅ノ方ニ於テモソレニ關聯シマシテ取扱モ便宜ニハナリマス、併ナガラ親族間ノ贈與ト云

フコトニ限ツテ居リマス現行ノ稅制ト致シマシテハ、登錄ノ場合ニ於テ此三號、即チ今度ノ二號デアリマスガ、二號ハ廣ク親族間ノモノモ親族間ニアラザルモノモ、總テ無償名義ノ移轉ト云フコトヲ規定シテ居ルノデアリマスカラ、此無償名義ノ場合ニ於テ之ヲ親族間ナリヤ否ヤト云フコトヲ登記所デ判斷シナケレバナラス、是ガ困難デアルト云フコトハ、先程申述ベマシタ通りデアリマス、ソレ故ニ矢張現行ノ制度ノヤウニ、登錄稅ニ於テ課稅ヲスル方ガ適當デアルト云フ風ニ考ヘテ規定ヲシマシタ、是等ハ寧ロ主トシテ立法技術ノ問題カラ參ルノデアリマス、技術上サウデアリマスルナラバ、相續稅トノ權衡ヲ考ヘナケレバナラス、是ハ申スマデモノイコトデアリマシテ、高橋君ノ御心配モ洵ニ御尤ト考ヘルノデアリマス、併ナガラ二十三條ハ、相續稅ヲ改正シマシテ、昨年稅率ヲ引上ゲマシタ、是ハ御述ニナリマスル通りデアリマス其稅率ヲ引上ゲマシタ際ニ、然ラバ登錄稅ノ方ノ相續稅ニ代ルベキ、即チ登錄稅タル千分ノ六十モ當然引下ゲルガ當リ前デハナイカト云フ御話デアリマス、之ヲ引上ゲナイデ却テ引下ゲルト云フコトハ、前ノ相續稅ヲ改正シタ趣意ニ反スルデハナイカト云フ御話デアリマスガ、相續稅法ノ二十三條ニ於キマシテハ、是ハ普通ノ遺產相續ノ場合トハ違ヒマシテ、遺產相續又ハ家

督相續ノ場合ト異リマシテ、是ハ何時デモ贈與ガ出來ルノデアリマス、ソレ故ニ例ヘバ私ガ假ニ茲ニ百萬圓ノ不動產ヲ持ツテ居リマシテモ、是ガ家督相續デアリマス、死亡ニ因テ遺產相續ガ起ツタト云フ場合ニハ、百萬圓ガ一時ニ行クノデアリマスカラ、ソレダケノ稅率ガ掛カルノデアリマスケレドモ、贈與致シマス場合ニ於テハ、五萬圓或ハ二萬圓或ハ一萬圓ト云フ風ニ之ヲ贈與モ出來ルノデアリマス、又サウ云フ風ニ贈與スルコトガ多イノデアリマス、ソレ故ニ是等ノ相續稅ニ於キマスル遺產相續ノ稅率ガ、凡ソドレ位ニナルカト云フコトヲ見マスルノハ、必シモ今日ノ千分ノ六十ト云フモノデナケレバナラストハ考ヘナカッタノデアリマス、今日千分ノ六十ト云フノ一面ニ於テハ相當高イ稅デアリマス、隨テ先程モ既ニ述ベマシタ通り今日ニ於テハ三十五トノ間ニ二十五ノ開キガアリマスル爲ニ、假想致シマシテ賣買ニ名ヲ藉ツテ連稅ヲ圖ルト云フコトガ起ル、ソレ故ニ若シ之ヲ上ゲルト云フコトニ致シマスレバ、相續稅ノ關係カラ申シマシテモ、之ヲ唯々遺產相續ノ率ガ上リマシタカラ當然其比例デ上ラナケレバナラヌト云フ性質ノモノデナカラウト思ヒマス、假ニ之ヲ其精神ニ依テ引上ゲルト致シマスルト、益其弊ヲ助成致シマシテ、已ムヲ得ナイモノ又正直ナモノト、不正ノモノトノ間ニ負擔ガ著シ

ク權衡ヲ失スル結果ヲ起スノデアリマス、ソレ故ニ相續稅トノ餘リ權衡ヲ失シナイ程度ニ於テ、成ベク之ヲ近クスル、其程度ハ程度問題デアリマス、十ノ差ガ宜イカ、十五ノ差ガ宜イカ、ソレハ程度ノ問題デアリマスガ、相當ナ間隔ニ致シテ置キマスレバ、之ニ依テ脫稅ヲ防グ、之ハ他ノ稅ニ依テモ多ク起ルノデアリマス、例ヘバ此問題ニナッテ居ル砂糖稅ニ致シマシテモ、四分ト五分トノ開キヲ幾ラニスルカト云フコトハ、大體ソレニ依テ落付クト云フ所ノ開キヲ見ルノデアリマス、ソレ故ニ是等モ——殊ニ二號ハ遺產相續稅ヲ課セラルベキ性質ノモノト、課セラレナイ法定ノ贈與、全ク親族關係ノ無イ者ノ間ノ贈與モ包含致シテ居ルノデアリマスカラ、是等ノ點ヲ色々考慮致シマスレバ、先ヅ是位ノ率ナラバ權衡モ得ラレルシ、又今日起ル所ノ弊害モ是モ相當直シテ行クコトガ出來ルト云フ考デ致シタノデアリマシテ、是ハ勿論政策ニモ關係シタコトデモアリマス、政策ノ點ニ付テハ大藏大臣ハ勿論御考ノ上デ此案ヲ御定メニナッタコトデアリマスガ、併シ其間ニ於テハ立法上ノ技術ノ點ニ付テ非常ニ澤山ノ分ガ這入ッテ居ルノデアリマスカラ、私カラ一應御說明申上ゲマス

○高橋委員 大臣ノ御答辯ハ……

○片岡國務大臣 是ハ先刻申上ゲマシタ通りニ外ナラヌノデアリマシテ、多

ク御説ヲ承ルト意見ノ相違ノヤウデア  
リマスガ、當局者トシテノ意見ハ先刻  
來申述べタ通りデアリマス

○高橋委員 私ハ異ナコトヲ承ルヤウ  
ニ思フノデアリマスガ、意見ナドヲ申  
シテ居ッタノデハナイ、質問ノ要點ヲ申  
上ゲテ居ッタノデアアル、私ノ私見ナドヲ  
挾シテ居ハナイ、ソレナラバ大臣ハ  
相續稅制定當時ノ政府ノ意思ト云フモ  
ノヲ私ハ御變ヘニナッタト思フガ、實際  
御變ヘニナッタノカ御變ヘニナラヌノ  
カ、其事ヲ判然承ツテ見タイト思ヒマ  
ス、私ハ何モ私見ヲ述べタノデハナイ、  
相續稅法制定當時ノ政府ノ意見ヲ土臺  
トシテ私ハ述べテ居ルノデアアル、其當  
時ノ租稅上ノ意見ヲ御變ヘニナッタノ  
デアアルカドウカト云フコトヲ伺ッテ居  
ルノデアリマス

○片岡國務大臣 先刻來申上ゲマシタ  
所ノモノハ、少シモ意見ヲ變更シタト  
申シタ覺エハゴザイマセヌ、即チ從來  
カラ執リ來ッタ所ニ基キマシテ、實際上  
ノ事情ヲ考ヘテ斯ク致ス方ガ適當ノ結  
果ヲ得ルト、斯ウ信ジタニ外ナラヌノ  
デアリマス

○高橋委員 只今ノハ屬僚ト申スト失  
禮カモ知レマセヌガ、事務官ノ連中カ  
ラ御答辯ヲ承ルベキ筋ノ範圍ノモノデ  
アツテ、大臣ノ御答辯トシテハ少シ要領  
ヲ得ナ過ギルト私ハ失禮ナガラ思フノ  
デアリマス、サウスルト大臣ハ相續稅  
制定當時ニ於ケル政府ノ御考ハ、ドウ

云フ方針デ相續稅ヲ制定致シ、而シテ  
議員間トノ質問應答ニ依テ、其當時ハ  
相續稅ノ第二十二條デアッタ、只今ノ御  
二十三條ニアル所ノ親族間ノ贈與ト云  
フヤウナ、或ハ本家ヨリ分家ニ致シタ  
ル所ノ贈與ト云フヤウナモノニ對シテ  
相續稅ヲ課スル準相續稅トモ取ラレベ  
キ所ノ相續稅——昨年改正ニナッタ千  
圓以上、此前ニハ五百圓以上ト云フコ  
トデアッタガ、其當時ニ於テ相當ニ議論  
ノアッタコトデアアルガ、其當時ノ事ハ大  
臣ハ御調べニナラズシテ、此改正案ヲ  
御提出ニナッタノカ、其事ヲ能ク御調べ  
ニナッタ上デオヤリニナッタノカ、此點  
ヲ一ツ承リタイ

○片岡國務大臣 勿論、相當ニ考慮シ  
タ結果ニ外ナリマセヌ

○高橋委員 其當時ノ事情ヲ考慮ナス  
ツタト云フナラバ、此二十三條ヲ設ケ  
タト云フコトハ、又此二十三條ハ多ク  
ハ現金デアルトカ有價證券デアルトカ  
云フモノヲ目標トシテ、此二十三條ハ  
適用スルコトニナツテ居ル、船舶並不  
動產ト云フモノヲ除外シタノハ、ドウ  
云フ意味デヤッタノデアアルカト云フヤ  
ウナコトハ、其當時明白ニナツテ居ル譯  
デアアル、ソレハ登錄稅ヲ之ニ掛ケルカ  
ラ、ソレデ之ヲ除外シタノデアアルト云  
フ其當時ノ趣旨デアッタト吾々ハ記憶  
シテ居ルノデアアル、サウスルト云フト  
其時分ノ趣旨ト云フモノヲ十分ニ御考  
慮ニナッタト云フ跡ガ見エナイノデ、ア

ル、其趣旨ハドウ云フ工合ニ御考ニナッ  
タノデアアルカ、其邊ノ事ヲ承リタイ  
○片岡國務大臣 ドウモ困リマシタ  
ナ、先刻來政府委員ガ反覆申上ゲタ通  
リ、斯ウ云フ風ニ致シタ方ガ便宜デア  
ルカラ不動産船舶等ハ他方面ニ讓ル、  
其讓ツタモノニ對スル方法ヲ今日決メ  
ルノデアアリマシテ、別ニ新ラシイ、非常  
ナル新意見ガ茲ニ差挾マレテ居ルモノ  
デモ何デモナイ

○高橋委員 段々迷宮ニ這入ッテ來ル  
ノデアリマスルガ、ソレデハ私ハドウ  
モ、大臣ノ御答辯ハ些トモ理解ガ出來  
ヌノデアリマス、私ノ申上ゲルノハ率  
ノ問題デアアル、此二十三條ト云フモノ  
ヲ制定スル當時ニ、不動産、船舶ト云フ  
モノヲ二十三條カラ除イテ、之ヲ贈與  
シタモノハ現金、有價證券ト云フモノ  
ト同一ニ取扱ハシテ、直ニ之ニ遺產相  
續稅ヲ掛ケナカッタト云フノハ、即チ登  
錄稅ニ於テ、千分ノ六十ト云フ稅率ノ  
下ニ課稅ヲ致シテ居ルカラシテ、サウ  
云フ脫稅ノ弊害ハナカラウト思フト斯  
ウ云フコトヲ前提トシテ此條項ヲ設ケ  
ラレタノデアアル、ソレヲ今度ハ其當時  
デサヘ六十マデ出來タノデアアル、六十  
ト云フ稅率ヲ掛ケテ居ルカラシテ、其連  
脱ノヤウナコトハナカラウト思フ、ソ  
レデアアルノニ今度ハ四十五ニ下ゲタナ  
ラバ、其當時ヨリハ更ニ其憂ト云フモ  
ノガ多クナルト云フコトニナル、況ヤ  
先程申上ゲタ通り、相續稅法ハ昨年改

正ニ相成ッテ、而シテ今日ニ於テハ非常  
ナ高率ニナツテ居ル、益々其當時ノ心配  
ト云フモノハ、今日ニ於テ一層酷クナ  
ル、サウスルト云フコトデアアルカラ、ソレヲ考  
慮スルト云フコトニナルナラバ、相當  
ニ一時間ニモ二時間ニモ互ッテ御辯明  
ガナケレバナラヌ、此點ニ付テ以前黒  
田政府委員カラ承ツタ所ガ餘リボンヤ  
リシテ居ルカラ、一體サウスルト云フ所ハド  
ウ云フ工合デアアルカト思ッテ、圖書館ヘ  
行ッテ其當時ノ速記録ヲ出シテ見タ所  
ガ、驚クベシ今ノ若槻首相ガ黒田サン  
ト同ジ主稅局長デアッタトキ、議員ノ質  
問ニ對シテ答ヘテ居ル、磯部四郎トカ、  
木村格之輔ト云フヤウナ一騎當選ノ方  
方ヲ向フニ廻シテ、堂々ト御議論ニナ  
ツテ居ル、速記録ヲ見ルト云フト、吾々  
ノ心配シテ居ルト同ジ事ヲ當時ノ議員  
ガ心配シテ居ル、之ニ對シテ政府ノ方  
方ハ御心配ニハ及バヌ、ソレハハチヤン  
ト登錄稅デ以テ、贈與ノ規程デ以テ千  
分ノ六十デ押ヘテ居ルカラ、サウスルト  
ヤウナコトハ免レルコトハ出來ヌノデ  
アル、斯ウ云フ御答辯ガアル、立派ニ其  
時ノ特別委員會ノ速記録ニ載ッテ居ル、  
而モ今ノ總理大臣ノ若槻氏ガサウスルト  
コトヲ答ヘテ居ルノデアアル、ソレデア  
リマスカラ、サウスルト云フコトヲ今回片岡  
大藏大臣ハ責ヲ他ニ嫁シテシマツテ、ナ  
ニ若槻輩ノ言フコトガ分ルモンカト云  
フヤウナコトデ御決メニナッタノカ、ド  
ウカ、其當時ノ趣旨ト云フモノヲ根底

カラ覆サレテ、サウシテ大ナル資産ヲ持ツテ居ルトカ、或ハ東京アタリデ不動産ヲ持ツテ居テ、子供ノ名義ニ成ベク安クシテ置イテヤリタイ、即チ贈與シテ置イテヤリタイト云フヤウナ方面ノ便宜ノミヲ御考慮ニナツテ、此改正案ヲ御企テニナツタカ、是ハ大臣ノ税法改革上ノ大方針ヲ御決メニナル時分ニハ、既ニ斯ウ云フコトヲ御考慮ノ中ニ入レナケレバナラナイ、私ノ私見デモ何デモナイ、私ハ其當時ノ若槻主税局長ガ言ハレタコトノ答辯ヲ、土台トシテ申上ゲテ居ルノデアアル、左様デアリマスルカラ、ドウカ其點ヲ誤解ナサラナイヤウニシテ、御深切ナル御答辯ヲ求メテ居ルノデアリマス、若シサウ云フコトヲ、忙シイノデツイ氣ガ付カナイデ旨判ヲ押シタノデアアルト仰シヤレバ、ソレデモ私ハ——ソレハ別問題ニナリマシテ諒解モ行キマスガ、一カラ十マデ能ク心得テヤッタト云フコトデアレバ、吾ミモ當惑ヲ致シマス、國民モ亦第一次ノ税制ニ於テ懲リテ居ル、第二次ノ税制ト云フモノハ、果シテドウ云フモノデアルカ、是亦懲リテハナラヌ、ダカラ第二次税制ニ於テハ、餘程的確ナ、餘程國民生活ノ現狀ニ副フヤウナ税制整理ガ出來ヤウト期待シテ居ルノデアリマスルカラ、吾ミハ斯ル税法上ノ原則トモ申スベキ所ハ、是ハ好イ加減ノ素通りハ出來ヌト思フノデアリマス、此意味ニ於テ吾ミハ時間ヲ費シテ居ルノ

デアリマスルカラ、大臣ニ於ケレテモ、其邊ノコトヲ、能ク御考慮下サツテ、御深切ニ御答辯ヲ願ヒタイ、分ラヌコトハ分ラヌデ宜シイ、大臣デアアルカラ何デモ彼デモ分ルトハ言ハナイ、サウ昨年云フコトモ吾ミノ頭ニアル、ソレデアリマスカラ、ドウカソレニ付テ、十分徹底シタル御答辯、胡魔化シデナイ答辯ヲ一ツヤツテ戴キタイト思ヒマス

○片岡國務大臣 御言葉中ニハ當時ノ主税局長若槻君ガ御答辯ヲ申上ゲタ當時ノ事實ヲ御舉ゲニナリマシテ、若槻風情ノ言ツタ事ハ何トモ顧慮スル必要ハナイト云フガ如キ意思ノ下ニ私ガ此改正ヲヤツタカト云フ、斯ウ云フ御話デアリマスガ、決シテ左様デハナイノデアリマス、若槻氏ハ御承知ノ通り大藏省生ヘヌキノ人デアリマシテ、私ナドヨリハ大藏省ノ事務ニ堪能ナルコトハ、是ハ今更申スマデモナイ、併ナガラ時勢ト事實ハ始終動イテ變ルモノデアリマス、即チ昨年ニ於テ斯様ニシテ宜シイト信ジマシタモノモ、其後ノ經過等ヲ考ヘ、又既往ニ遡ツテ考慮シタ結果ハ、斯ウシタ方ガ宜シイト云フガ如キコトハ事實上種々ノ點ニ於テ起ルコトハ避クベカラザルコトデアアル、即チ今回ノ改正モ、前ノ方針ヲ覆スデモ何デモナイ、唯前ノ率ニシテ置ケバ斯ウ云フ片一方ノ弊害ガ起ル、ソレカラ又一ノ方ト權衡ヲ考ヘテ見ルト、少シ不穩當デ、旁々權衡ヲ考ヘテ弊害ヲ少カラシムルニハ、斯様ニ改正ヲシタ方ガ宜イ、斯ウ信ジタニ過ギナイノデアリマス、何モ其間ニ他ヲ輕蔑スルナンカト云フコトハアリマセヌ、固ヨリ私ハ九月就職シタノデアリマスカラ、細目ノ事ニ至ツテ餘リ詳シイコトハ存ジマセヌガ、大體ノ方針ノ事ニ付テ責任ヲ他ニ轉嫁スル考ノ下ニ官判ヲ押シハ致シマセヌ

○高橋委員 洵ニ大臣ノ抱負ヲ承ツテ非常ニ欣快トスルノデアリマスガ、何モ私ハ若槻氏ノ言ツタコトヲ蔑シテシマッタト云フ斯ウ云フノデナクテ、其當時ノ終始一貫シタル税法ノ精神ト云フモノガアツタ、其精神ヲ茲ニ抛ツテシマツテ、新シイ方針ノ下ニ此税制ヲ御立テニナル、相續税モ隨テ新シイ精神ノ上ニ今度ハ立テラレタト云フコトニ相成ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ、是ハ税制ヲ研究スル上ニ於テ隨分是ハ重大ナ問題デアラウト思フ、恐ラクハ是ハ學者間ナドニ分ツタラ非常ニ大キナ問題ニナツテ來ルダラウト思ヒマス、學者間バカリデナク、實際ノ上ニ於テ權衡々々ト言ハレルケレドモ、私ハ寧ロ是ハ大ナル不權衡ヲ來スノデハナイカト斯ウ見ル、是ハ私ノ意見デアリマス、ソレデアリマスカラ從來相續税法ノ制定當時ニ起ツタ所ノ其實、今トハソシナニ大シタ變リハナイ、今ノ方ガ却テ其當時憂ヘテ居ラレタヤウナ脱税ノ方法ガ行ハレ易イノデアリマス、人情モ亦其時分ヨリハ功利主義ニ走ツテ居ル、ソレデスカラ白イモノガ黒クナツタ譯デハナイ、時勢ハ變化シタモ白イモノハ白、黒イモノハ黒——多少ノ其處ニ變化ハ出來マセウケレドモ、大體ニ於テサウ云フヤウナ差別ガアルノデアリマス、其當時脱税ヲ遁レルダラウト思ツタモノガ、今日ニナツテ時勢ノ變化ニナツテ、脱税ヲスルヤウナコトハ無クナツタト云フヤウナコトニハ相成ラヌト私ハ思フノデアリマス、ソレデスカラ其當時ハ只今申上ゲル通り此二十三條、其當時ノ二十二條ト云フモノヲ拵ヘテ、サウシテ一體ナラバ之ヲ只デ以テ人ニ遺ルベキモノデハナイ、遺産相續ナリ其他ノ相續ナリニ致シテ、是ハ親族ノ者ニ讓ルベキモノデアアル、或ハ本家ヨリ分家ニ讓リ渡スベキモノデアアル、然ルニ其途中ニ於テ有價證券ナリ現金ナリヲ贈與スル、ソレデアリマスカラ其贈與ト云フモノニ對シテ、當時ハ五百圓以上、只今ハ千圓以上ニ互ルト云フト、是ハ只ノ贈與デハ相濟マヌ、是ハ遺産相續税ヲ掛ケルノデアアル、斯ウ云フノデアアル、遺産相續税ヲ取ツテ、遺産相續税ノ逋脱ヲ此處デ防ガレル、斯ウ云フ心配ガアルト云フナラバ、何故不動産ノ贈與ト云フモノニ對シテ政府ハ心配ヲセヌカ、不動産ヤ船舶ニモ矢張同ジヤウナ脱税ヲ圖ル所ノ憂ヒハ無イノデアアルカ、斯ウ云フ其當時ノ議員ノ心配デアッタノデアリマ

ス、ソレニ對シテ政府ハサウ云フ心配  
ハアル、アルケレドモ登録稅ノ方ニ依  
テ無償ノ贈與ト云フモノニ對シテハ、  
千分ノ六十ト云フ重イ稅金ヲ掛ケテ置  
クノデアアルカラ、其方ノ脫稅ハ防ゲル  
カラシテ、其方ハ特ニ此二十三條ニハ  
加ヘナカッタノデアアル、斯ウ云フコトヲ  
ハッキリ其當時ノ若槻主稅局長ガ委員  
會デ答ヘラレテ居ル、斯ウ云フノデ  
アルカラシテ、登録稅ノ其六十ト云フ  
所ノ稅率ト云フモノハ、相續稅ノ方ト  
大ナル關係ノアルモノデアアル、ソレデ  
アルカラ相續稅ノ方ガ動ケバ是モ矢張  
動カナケレバナラス、一種ノ「スライデ  
イニング・スケール」見タヤウナ形ニナッ  
テ居リハシナイカト思フ、ソレハ登録  
稅ハ今度ハ其儘デ相續稅ガ上ツタト云  
フ場合ニハ、登録稅ノ方モ引上ゲルカ  
何カシナケレバナラス、ソレガ相續稅  
ノ時分ニ御考ニナラナカッタヤウデア  
ル、ソレデアアルカラ今日ニナツテ今度ハ  
御考ニナルベキ筈デアアルノニ、マルデサ  
ウ云フ所ノ關係ヲ御考ニナラヌデ、逆  
ニ之ヲ六十ノモノヲ四十五ニ下ゲル、  
サウスルト云フト、益此相續稅ト云フ  
モノヲ脫稅ヲ致シテ、大手ヲ振ッテ此財  
產ノ贈與々々ト云フコトデ以テ登記デ  
行クノデハナイカ、斯ウ云フコトヲ言ッ  
テ居ルノデアリマス、實際東京邊リニ  
於テ——東京バカリトハ限リマセヌガ、  
主ナル都會ニ於テ、殊ニ多イ家屋ヤ土  
地ヲ自分ノ次男ナリ三男ナリニ譲リタ

イ、又長男ニモ譲リタイ、或ハ自分ノオ  
カミサンニ之ヲ遺シテ置キタイト思フ  
時分ニ、皆其人ノ名前デ以テ建築ヲ致  
シテ家屋ヲ其儘ニ贈與シテ見タリ、或  
ハ不動産ヲ新シク買ヒ、或ハ名義書換ナ  
ドヲシテ、無償ノ贈與ヲ盛ニヤツテ居  
ル、株券ヤ現金ヲ遺ル時分ニハ、相續稅  
ノ二十三條ニ依テ之ヲ押ヘテ、サウシ  
テ遺產相續稅ヲ千圓以上ナラバ之ニ掛  
ケテ行クト云フ途ガアル、サウ云フヤ  
ウナ現金ヤ有價證券、其他ノモノノ船  
舶並不動産ヲ除イタ以外ノモノニ、斯  
ウ云フヤウナ重稅ヲ掛ケル方法ヲ存  
シテ置イテ、サウシテ今度ハ不動産ヤ  
船舶ヤラニ持ッテ行ッテ——殊ニ不動  
產ニ持ッテ行ッテ、斯ウ云フヤウナ輕減  
ヲスルト云フ理由ハ何處ニ在ルカ、斯  
ウ云フノデアリマス、ソレデアリマス  
カラ當時ハサウ云フ相續稅ノ遺脫ヲ防  
ガンガ爲ニ、登録稅ヲ千分ノ六十ニ致  
シテ居ルノデアルト云フ、當時ノ政府當  
局者ノ立法意思ヲ片岡大臣ハ之ヲ抹殺  
致シテ、サウシテ時勢ノ變遷一點張デ  
以テ改正ヲオヤリニナルトハ思ヘマイ  
ト私ハ考ヘテ居ル、ソレデスカラサウ  
云フコトヲ能ク御考慮ニナツタノカ、御  
考慮ニナラナカッタノカト云フコトヲ、  
私ハ此處デ伺ッテ居ルノデアリマス、時  
勢ノ變遷ナドト云フコトハ、ソシテ事  
ハ分リ切ッテ居ルコトデアアル、時勢ノ變  
遷ニ依テモ變ルコトハアルケレドモ、  
コンナモノハ變ラナイノデアアル、其當

時黒イモノハ今日モ黒イノデ白クナリ  
ハセヌ、ソレデアリマスカラ其當時遺  
脫ノ憂ガアツタ原因ト云フモノハ、ソレ  
ヨリハ色ガ濃クナツテモ薄クナリハセ  
ヌ、今日ノ人情、今日ノ思想ト云フモノ  
ハ、益惡化シテ居ルノデアアル、サウ云フ  
ノデアアルカラ、其當時ヨリモ遺脫ノ危  
險ガ多クナツタ、斯ウ云フコトニナルノ  
デアアル、ソレヲ御考ニナツタカ、ナラナ  
イカ、サウ云フコトヲ承ッテ居ルノデア  
ル、私見ヲ述ベテ居ルノデモ何デモ  
ナイ、ソレデアアルカラ時勢ノ變遷ニ依  
テドウノ斯ウノト云フノハ、ソレハア  
ナタノ議論デアラウケレドモ、ソレハ  
説明ニハナラヌト私ハ考ヘテ居ル、ソ  
レデアリマスカラ、サウ云フコトニ非  
ズシテ其當時政府ハドウ云フ答ヲシテ  
居ツタカト云フト、私ハ茲ニ一寸書拔イ  
テアルノデアリマスガ、或ル議員ノ——  
阿部徳三郎ト云フ方ノ質問ニ對シ  
テ、不動産及船舶ト云フモノヲ相續稅  
法ノ其當時ハ第二十二條、只今ノ第二十  
三條ヨリ除外シテ、是等ノモノガ贈與  
ト云フ形式ヲ取ッテ相續稅ヲ遺脫セン  
トスル虞ハナイカ、斯ウ云フコトガア  
ル、是ハ此二十三條カラ不動産、船舶  
ト云フヤウナモノヲ取ッテシマツテ、サ  
ウシテ其他ノモノトスルノデアアルカラ  
シテ、有價證券ナリ現金ナリヲ出スコ  
トニナルノダ、ソレダケヲ押ヘテサウ  
シテ此不動産及船舶ト云フモノハ、矢  
張此相續稅カラシテ遺脫セントスル憂

ハナイカト云フ此質問ニ對シテ、當時  
ノ若槻主稅局長ハ斯ウ云フコトヲ答ヘ  
テ居ルノデアアル、「不動産ト船舶ニハ登  
錄稅ガアリマスノデ、贈與致シマスト云  
フト千分ノ六十掛カルカラ、此方ハ別  
ニ防ギマセヌデモ遺脫ノ憂ハナイモノ  
ト見タノデアアル」斯ウ云フ御答辯ガア  
ルノデアリマス、左様デアリマスカラ、  
此相續稅ノ遺脫ヲ防グノニハ、矢張此  
登録稅ノ千分ノ六十ト云フモノハ當時  
ノ比率ニ於テ缺クベカラザルモノデア  
ルノデアアル、時勢ノ變遷ト申シマスル  
ト、ドウ云フ變遷ヲヤツタカト云フト、其  
時分ニハ相續稅ノ累進稅率ト云フモノ  
ハ今ヨリズツト低クカッタノデアリマ  
ス、左様デアリマスカラ今ハ非常ニ高  
クナツタノデアアル、若シマダ必要トアル  
ナラバ私ハ此處デ讀上ゲテモ宜イノデ  
アリマスケレドモ、此相續稅ハ昨年ノ  
コトデ其當時大臣ハ大藏大臣デナカッ  
タカラデアアリマスガ、相續稅ガ非常  
ナ勢ヒデ以テ上ゲラレタト云フコトハ  
御分リニナツテ居ルダラウト思フ、ソレ  
デアリマスカラ相續稅ト云フモノハ從  
來遺產相續稅ナドハ、十五萬圓ヲ超ユ  
ル金額ハ千分ノ五十、二十萬圓ヲ超ユ  
ル金額ハ、十萬圓毎ニ千分ノ五ヲ加エ百  
萬圓ニ至ツテ止ムト云フコトニナツテ居  
ツタノガ、今度ハドウナツテ居ルカト云  
フト、五百萬圓ヲ超ユル金額ハ千分ノ  
百八十、十五萬圓ヲ超ユル金額ハ千分

ノ七十五、トイフノデ十五萬圓ノ相續財產ニ對シテハコデ二十五ノ率ヲ増シテ居ル、十五萬圓ノ金額ハ千分五十ノデアッタモノガ、昨年ノ改正ニ依テ千分ノ七十五マデ上ツタ、ソレデアリマスカラコデ五割上ツテ居ルノデアアルカラシテ、其當時ノ若槻主税局長ノ御説明ヲ土臺トシテ考ヘルト云フト、此登録税ト云フモノハマダ上ゲナケレバナラス、千分ノ六十デハ通脱ノ目的、阿部徳三郎氏ノ言ハレタ心配ト云フモノハ除去サレナイノデアアル、ソレデアリマスカラ五割上ツタトシタナラバ、矢張ソツチノ方即チ登録税ノ方デ五割上ゲナケレバナラスト云フコトニ相成ルダラウト思フ、斯ウ云フ事實ガ玆ニアル、其事實ヲ考慮サレタカドウカト云フコトヲ聞イテ居ルノニ、時勢ノ變遷ダノ何ダノト言ハレテ、答辯ニマルキリ懸ケ離レテ、大阪ニ行クノニ北海道ハ今雪ガ降ッテ居ルト云フヤウナコトヲ言ハレテモ、吾々ハ承知ハ出來ナイコトデアリマス、サウ云フ譯デアリマスカラ、何卒御深切ナル御答辯ヲ得タイト思ヒマス

テ、通税等ヲ免レシメヌト云フ其精神ハ今モ何モ變ラヌノデアリマス、唯モ六十デハ通税ヲ企テル者ガ多クナル、之ヲ幾ラカ引下ゲタ方ガ其弊害ヲ除去シ易イ、率ヲ變ヘタト云フダケノ話デアツテ、其率ヲ變ヘタコトガ當不當ト云フコトハ、是ハ見ル所ノ人ニ依テ違ヒマセウ、即チ高橋君ノ如キハ御意見ガ違フカモ知レヌ、當局者トシテハ此方ガ宜シイト考ヘタニ過ギナイ、何モ其他ニ變タコトハナイノデアリマス

○黒田政府委員 不動産ト金錢有價證券トノ間ニ如何ニモ著シク權衡ヲ失シテ居ルカノヤウニ御議論ニナリマシタガ、今日ノ實際カラ見マス、金錢有價證券ヲ、詰リ二十三條ニ依テ課税ヲ致シテ居リマス平均率ハ、只今一寸此處ニ持ッテ居リマセヌカラ後カラ差上ゲテ宜シイノ、デアリマスカ、是ヨリ低クナツテ居リマス、千分ノ四十五ヨリハ少シ低イ率ニナツテ居ルノデアリマス、ソレ故ニソレトノ權衡カラ見マシテモ、四十五必ズシモ低イト云フコトハ申サレナイヤウニ考ヘテ居ルノデアリマスカ、ソレカラシテ先程大臣カラモ御答辯ニナリマシタコトデアリマスルガ、相續税ノ税率ガ動ケバ、然ラバ此六十ト云フモノハ常ニ「スライディング・スケール」デ動イテ行クデアラウ、是ハ寧ロ今日ノ事情ニ於キマシテ適當ナルモノデアアル、サウ云ウ關係ニアルモノデアリマスレバ、左様ニ相成ルデアラウ

ト思ヒマス、併ナガラ此六十ト云フモノヲ變ヘナケレバナラスト云フ必要ニ付キマシテハ、私モ申上ゲ大臣モ御述ベニナリマシタ通りデアリマス、此方ガ却テ負擔ノ公平ヲ得セシメ通税ヲ少カラシムル所以デアルトシテ定メルノデアリマスカラ、是ハ必ズシモ「スライディング・スケール」ニ行クベキモノデアナイ、又有價證券等ニ比較致シマシテ、必シモ此率ガ低イトハ申サレナイ、先程私ガ申シマシタ中デ申シ落シテ居リマシタ點ヲ御參考マデニ申上ゲテ御考ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、相續税ニ於キマシテハ免稅點ガアルノデアリマス、然ルニ此方ハ免稅點ガアリマセヌ、極ク安イ百圓トカ二百圓トカ不動産ヲ贈與致シマシテモ、ソレデモ掛カノデアリマス、色々ノ點ヲ考慮致サナケレバナラス、又此登録税ノ方ハ是ハ一時ノ納付デアリマス、然ルニ相續税ノ方ニ於キマシテハ分納ト云フ制度モアルノデアリマス、色々ノ點ヲ考ヘマシテ、千分ノ四十五デアレバ適當デアルト云フ風ニ考ヘタノデアリマスカラ、是ハ御參考マデニ申上ゲテ置キマス

○高橋委員 只今ノハ登録税ノ二十三條ノ實蹟ヲ見ルト云フト、多クハ千分ノ四十五以下デアルト申サレマスケレドモ、相續税ト云フモノハ昨年初メテ改正ニナツテ、非常ナ重イ税率ニナツタ、有價證券現金ト云フヤウナモノハ中ニ通脱ノ目的ガ簡便ニ行ハレル、ソレデアリマスカラ、ソレヲ潛ッテ行クナドト云フコトハ極ク僅カナ例デアラウト思フシ、又切ッテ幾同ニモ行ケル、ソレデアリマスカラ先程黒田政府委員カラ御述ベノ如クニ、幾ラニモ相續財產ヲ切ッテヤルト云フコトニナレバ、矢張サウ云フ輕イ税率ニナルデアラウト思フ、併ナガラ不動産トカ船舶トカ云フモノハ、殊ニ船舶ノ如キハ是ハ半分ニ立切ッテ登記ヲ履ンデ行クト云フ譯ニハ行カナイ、不動産ガ最も多イ宅地ノヤウナモノ中ニサウ云フ譯ニハ行カナイ、ソレデスカラ只今仰セニナリマスカラコトハ、矢張私ハ大阪ノ事ヲ言ッテ居ルノニ拘ラズ、北海道マデ行カナイデモ仙臺位ノ事ヲ言ッテ居ラレルヤウナ嫌ガアルノデス、ソレデ先ヅ第一ニ御尋ネシタイノハ、先ニ讀上ゲタ此相續税ノ上ツタ其當時ニ於ケル所ノ若槻氏ノ答辯ト云フモノノ趣旨ハ御認ニナラナイノカドウカ、若槻氏ガ誤ッタコトヲ言ツタノデアッタ、事實ハサウ云フモノデアナイノデアアル、此二十三條ニ於テ船舶並不動産ト云フモノヲ除外シテモ、登録税ノ千分ノ六十デ押ヘルコトガ出來ルカラ、阿部徳三郎氏ナドガ心配ニナルヤウナ登録税通脱ノ不動産並船舶ニ對スル危險ハ是デ防止ガ出來ルノデアアル、斯ウ云フコトヲ言ハレタノハソレハ間違デアルト御認デアアルカドウカヲ先ヅ豫メ伺ッテ置キマス

○片岡國務大臣 若槻主税局長ノ當時、審議ノゴザイマシタ時分ノ相續税ハ寧ロ安カッタノデアリマス、高カッタノデハナイ筈デアリマス、昨年ノ議會ニ於テ引上ゲノ御協賛ヲ願ッタノハ其通りデアリマス、ソレカラ又此六十ト云フ率ヲ一方デ課スルト云フコトニシ

テ、通税等ヲ免レシメヌト云フ其精神ハ今モ何モ變ラヌノデアリマス、唯モ六十デハ通税ヲ企テル者ガ多クナル、之ヲ幾ラカ引下ゲタ方ガ其弊害ヲ除去シ易イ、率ヲ變ヘタト云フダケノ話デアツテ、其率ヲ變ヘタコトガ當不當ト云フコトハ、是ハ見ル所ノ人ニ依テ違ヒマセウ、即チ高橋君ノ如キハ御意見ガ違フカモ知レヌ、當局者トシテハ此方ガ宜シイト考ヘタニ過ギナイ、何モ其他ニ變タコトハナイノデアリマス

○黒田政府委員 不動産ト金錢有價證券トノ間ニ如何ニモ著シク權衡ヲ失シテ居ルカノヤウニ御議論ニナリマシタガ、今日ノ實際カラ見マス、金錢有價證券ヲ、詰リ二十三條ニ依テ課税ヲ致シテ居リマス平均率ハ、只今一寸此處ニ持ッテ居リマセヌカラ後カラ差上ゲテ宜シイノ、デアリマスカ、是ヨリ低クナツテ居リマス、千分ノ四十五ヨリハ少シ低イ率ニナツテ居ルノデアリマス、ソレ故ニソレトノ權衡カラ見マシテモ、四十五必ズシモ低イト云フコトハ申サレナイヤウニ考ヘテ居ルノデアリマスカ、ソレカラシテ先程大臣カラモ御答辯ニナリマシタコトデアリマスルガ、相續税ノ税率ガ動ケバ、然ラバ此六十ト云フモノハ常ニ「スライディング・スケール」デ動イテ行クデアラウ、是ハ寧ロ今日ノ事情ニ於キマシテ適當ナルモノデアアル、サウ云ウ關係ニアルモノデアリマスレバ、左様ニ相成ルデアラウ

ト思ヒマス、併ナガラ此六十ト云フモノヲ變ヘナケレバナラスト云フ必要ニ付キマシテハ、私モ申上ゲ大臣モ御述ベニナリマシタ通りデアリマス、此方ガ却テ負擔ノ公平ヲ得セシメ通税ヲ少カラシムル所以デアルトシテ定メルノデアリマスカラ、是ハ必ズシモ「スライディング・スケール」ニ行クベキモノデアナイ、又有價證券等ニ比較致シマシテ、必シモ此率ガ低イトハ申サレナイ、先程私ガ申シマシタ中デ申シ落シテ居リマシタ點ヲ御參考マデニ申上ゲテ御考ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、相續税ニ於キマシテハ免稅點ガアルノデアリマス、然ルニ此方ハ免稅點ガアリマセヌ、極ク安イ百圓トカ二百圓トカ不動産ヲ贈與致シマシテモ、ソレデモ掛カノデアリマス、色々ノ點ヲ考慮致サナケレバナラス、又此登録税ノ方ハ是ハ一時ノ納付デアリマス、然ルニ相續税ノ方ニ於キマシテハ分納ト云フ制度モアルノデアリマス、色々ノ點ヲ考ヘマシテ、千分ノ四十五デアレバ適當デアルト云フ風ニ考ヘタノデアリマスカラ、是ハ御參考マデニ申上ゲテ置キマス

○高橋委員 只今ノハ登録税ノ二十三條ノ實蹟ヲ見ルト云フト、多クハ千分ノ四十五以下デアルト申サレマスケレドモ、相續税ト云フモノハ昨年初メテ改正ニナツテ、非常ナ重イ税率ニナツタ、有價證券現金ト云フヤウナモノハ中ニ通脱ノ目的ガ簡便ニ行ハレル、ソレデアリマスカラ、ソレヲ潛ッテ行クナドト云フコトハ極ク僅カナ例デアラウト思フシ、又切ッテ幾同ニモ行ケル、ソレデアリマスカラ先程黒田政府委員カラ御述ベノ如クニ、幾ラニモ相續財產ヲ切ッテヤルト云フコトニナレバ、矢張サウ云フ輕イ税率ニナルデアラウト思フ、併ナガラ不動産トカ船舶トカ云フモノハ、殊ニ船舶ノ如キハ是ハ半分ニ立切ッテ登記ヲ履ンデ行クト云フ譯ニハ行カナイ、不動産ガ最も多イ宅地ノヤウナモノ中ニサウ云フ譯ニハ行カナイ、ソレデスカラ只今仰セニナリマスカラコトハ、矢張私ハ大阪ノ事ヲ言ッテ居ルノニ拘ラズ、北海道マデ行カナイデモ仙臺位ノ事ヲ言ッテ居ラレルヤウナ嫌ガアルノデス、ソレデ先ヅ第一ニ御尋ネシタイノハ、先ニ讀上ゲタ此相續税ノ上ツタ其當時ニ於ケル所ノ若槻氏ノ答辯ト云フモノノ趣旨ハ御認ニナラナイノカドウカ、若槻氏ガ誤ッタコトヲ言ツタノデアッタ、事實ハサウ云フモノデアナイノデアアル、此二十三條ニ於テ船舶並不動産ト云フモノヲ除外シテモ、登録税ノ千分ノ六十デ押ヘルコトガ出來ルカラ、阿部徳三郎氏ナドガ心配ニナルヤウナ登録税通脱ノ不動産並船舶ニ對スル危險ハ是デ防止ガ出來ルノデアアル、斯ウ云フコトヲ言ハレタノハソレハ間違デアルト御認デアアルカドウカヲ先ヅ豫メ伺ッテ置キマス



○片岡國務大臣 間違デモ何デモナイ  
ト存ジマス、其當時ハ六十デ逋税ヲ防  
止ガ出来ルト信ジタカラ、サウ云フ答  
辯ヲシタニ相違ナイト存ジマス、今回  
ノ改正ハ矢張其趣旨ハ少シモ變リマセ  
ヌ、唯々六十ニシテハ多過ギル、之ヲ低  
クシタ方ガ弊害ヲ防ギ納税ヲ全カラシ  
ムルト斯ウ見タダケノコトデアリマ  
ス、率其モノニ對シテ變更ヲ加ヘルト  
云フダケデ、之ヲ六十ニスレバ逋税ヲ  
逃ゲラレル、或ハ七十ニスレバ逃ゲラ  
レル、片一方ヲ下ゲタナラバ逃ゲラレ  
ナイ、斯ウ云フノデハナクシテ、其當時  
六十ニシテ適當ナリトシタモノガ、實  
際ノ狀況ヲ考ヘテ見ルト云フト、之ヲ  
今回ノ如ク改正シタ方ガ其精神ヲ貫徹  
スル上ニ利益デアアル、斯ウ云フノ外  
ナラヌノデアリマス

○高橋委員 非常ニ諄イヤウデアリマ  
スケレドモ、ソレデハ少シモ答辯ニナッ  
テ居ナイ、私ハ相續税ノ方ノ逋税ヲ免  
レンガ爲ニ此千分ノ六十ト云フ高イ税  
率ヲ掛ケテ居ルノデアルト其當時若槻  
氏ハ御説明ニナッテ居ッタ、ソレヲ今度  
相續税ノ方ハモット率ガ上ッタノデア  
ル、其當時ハ十五萬圓デ千分ノ五十ダ  
ケ掛ッテ居ッタモノガ、今度ハ千分ノ七  
十七掛カルノデアアル、五割増シテ居ル、  
此相續税ノ方ハ十五萬圓ノ財産ヲ相續  
シヤウト云フコトニナルナラバ、千圓  
ニ付テ今マデハ五十圓掛ッタモノガ、今  
度ハ七十五圓掛カルコトニナル、サウ

スルト今度ハ贈與ノ方デ登記ヲ受ケル  
ト、登記料即チ登録税ト云フモノハ、今  
マデ千圓デ六十圓掛ッタモノガ、今度ハ  
四十五圓下ッタト云フナラバ、マダ  
今マデ通りデアッテモ、十五萬圓ノ財産  
トスルナラバソコニ五圓ノ隔リガア  
ル、登録税ノ方ハ少イ、ソレダケ相續税  
ヲ逋脱ノ危險ガアル、ソレヲ只今ノ案  
デ七十五ニナッテ、十五萬圓ト云フ金額  
ヲ提ヘテモ、七十五圓トナルト六十圓  
ト致シテモソコニ十五圓ノ隔リガア  
ル、四十五圓ト致シマスレバ、其ノ倍額  
ノ三十圓トイフ大シタ隔リガ出テ來ル  
ト云フコトニナリマス、ソレデアルカ  
ラ登録税ヲ下ゲタ方ガ逋脱ノ危險ガ少  
クナルト云フソナ道理ハ無イデアラ  
ウト思フ、子供ニ今迄ハ一圓ノ札ヲ持  
タシテ居ッタラ無駄遣ヒラスル、十圓札  
ヲ持タシテ行ッタラ無駄遣ヒラシナイ  
ダラウト云フ、ソナ馬鹿ナ話ガ何處  
ニアルカト私ハ思フ、ソナコトヲ大  
臣ハ取違ヘテ居ルノカ、夫レトモ全然  
分ラヌノカ、ドツチカダラウト思フ、モ  
ウ少シ落付イテ答辯ヲシテ貰ヒタイト  
思フ

○黒田政府委員 一應私カラ御答ヲ申  
上ゲマシテ、不十分デアリマシタラ大  
藏大臣カラ申上ゲマス、只今ノ御質問  
ヲ伺ヒマス云フト、相續税ヲ掛ケラ  
レル詰リ不動産ヲ持ッテ居ッテ自分ガ死  
亡スルコトニナレバ相續税ヲ掛ケラレ  
ル、ソレ故ニ之ヲ贈與ヲシテサウシテ

相續税ヲ通レヤウト云フコトニ使ハレ  
ハシナイカ、ソレヲ千分ノ六十デ防ゲ  
タ、然ルニ今日ニ於テハ千分ノ四十五ニ  
シテ下ゲテ置イテ防ゲルト云フコト  
オカシイデヤナイト云フ風ナ御意見ノ  
ヤウニ今伺ッタノデアリマス、左様デア  
リマスナラバ、相續税ヲ掛ケラレルノ  
ヲ通レル爲ニ千分ノ六十デ防グト云フ  
コトノ立前ニナッテ居リマスガ、千分ノ  
六十ト云フコトハ度々申上ゲマシタ通  
リ、相當ナ高率ニナッテ居リマスノデ、  
寧ロソレニ參リマセヌデ、之ヲ賣買ノ  
ヤウナ形式ニ依テ千分ノ三十五デ通レ  
ルト云フコトハ、是ハ屢申上ゲマシタ通  
リ其三十五デ通レル爲ニソレトソコニ  
公平ヲ失シテ來ル、ソコデソレヲ千分  
ノ四十五ニ致サウト云フノデアリマ  
ス、今日不動産ノ課税價額ヲ見マスト  
云フト、現行ノ三號ヲ適用シテ課税ヲ  
シタノヲ見マシテモ、不動産ノ價格ハ  
相當低イノデアリマス、ソレ故ニ是  
ハ丁度平均ヲ取ッテ見マスト云フト、十  
四年度ヲ見マスト一件當リ九百四十七  
圓ニナッテ居リマス、是ハ尤モ平均デア  
リマスカラ、大キイノモアリマス、小サ  
イノモアリマス、千分ノ四十五ト云フ  
コトニ致シマスレバ、是ハ相當ニ

分ノ六十ヲ押ヘマスレバ、相續税ハ成  
程假ニ權衡ヲ得ルト云フコトニ致シマ  
シテモ、ソコニ行カナイデ高イ爲ニ今  
度ハ三十五ノ方ニ持ッテ行ッテシマフ弊  
ガ起ルノデアリマス、此三十五ノ方ヲ  
四十五ニ持ッテ來ルノデアリマスカラ、  
却テ其方ガ高橋君ノ御心配ニナル相續  
税ヲ逋レヤウトスルコトヲ、此税率ニ  
於テ今日ハ相當防ギ得ルト云フ風ニ考  
ヘテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ登録  
税ノ方ノ課税ニ依テ、相續税ノ逋脱ヲ  
逋レヤウトスル者ヲ防グト云フ精神ニ  
於テハ、依然トシテ少シモ變ラナイノ  
デアリマス、是ガ今日ニ於テハ税率ハ  
成程多少變更シテ居リマス、必シモ上ッ  
テ居ナイトハ私ハ申シマセヌ、變更シ  
テハ居リマスガ、併ナガラ今日ノ實狀  
カラ見マシテ、四十五デ之ヲ防ギ得ル  
ト云フ考ヲ持ッテ居リマスカラ、精神ニ  
於テハ少シモ變ッテ居リマセヌ

○高橋委員 サウスルト今政府委員ノ  
御答辯ノ跡ヲ考ヘテ見マスト、今迄ハ  
二十三條ノ船舶並不動産ヲ除外シタト  
云フコトハ、此登録税ノ贈與ノ率ノ千  
分ノ六十デ之ヲ防ゲルト云フ方法ヲ立  
テタ、併ナガラ今日ハソレヨリハ賣買  
ノ形式デ以テ逋脱ヲスル方ガ多イカ  
ラ、今度ハ逋脱ノ方法ヲソレヘ向ケテ  
ヤルヤウニ仕向ケタト云フ御意見ニナ  
リマスガ、サウスルト今迄サウ云フ風  
ニ向ケテ居ルガ、賣買ノ形式ニ依ルモ  
ノ方ガ多イカラ、ソレデアルカラ今

第五類第二號 登録税法中改正法律案(政府提出)外三件委員會議錄 第七回

ノ贈與ノ形式ヲ取ツテ居ルモノガ少カ  
タ、ソレデアルカラ今度ハ賣買ノ形式  
ニ依ルモノト云フモノガ少クナツテ、贈  
與ノ形式ノ方ヲ取ルモノガ今度ハ多ク  
ナルダラウ、斯ウ云フヤウナコトニナ  
ルノデアリマス、サウデセウカ、今ノ  
御説明ハ今迄ハ其二十三條ノ規定ト云  
フモノハドウ云フ工合ニシテ相續ヲ通  
レタカト云フト、賣買ノ形式ニ依テ三  
十五ノ稅率ヲ掛ケタ、ソレデ以テ皆通  
ゲテ行ツタ、ソレデアルカラ今度ハソレ  
ト均衡ヲ取レルヤウニ、ソレヲ二十三  
致シテ、ソレト均衡ヲ取レルヤウニ六  
十ヲ四十五ニ下ゲタノダ、サウスルナ  
ラバ賣買ノ形式ヲ取ルモノガ今度ハ贈  
與ノ形式ヲ取ツテ行クヤウニナルダラ  
ウ、斯ウ云フヤウナ御見込ノヤウニ思  
ハレル、ソレデアリマス、カラ今迄ハ相  
續稅連脱ノ危險ト云フモノハ、今迄ハ  
千分ノ六十ト云フ贈與ノ形式デアルノ  
ヲ之ヲ防イデ居ツタ、併ナガラ實際ニ於  
キマシテハ賣買ノ形式ハソレヨリモ三  
十五デヤツテ居タ、ソレデカラ今度登錄  
稅ノ六十ヲ四十五ニ下ゲルト、三十五  
デヤツタモノヲ四十五デ今度ハ大手ヲ  
振ツテヤラレルヤウニナルカラ、ソレデ  
ヤルノダト云フ風ニ取レル、ソレデア  
リマス、カラ私ノ疑問トスル相續稅ノ連  
脱ト云フコトハ、今ノ御趣旨ニ依テ何  
等防ゲナイ、今ノ御説明ニ依ルト、賣買  
ノ形式ニ依タモノヲ之ヲ轉化シテ、贈  
與ノ形式デアルヤウニナルノダ、斯ウ

云フコトニナルカラ、サウ云フコトニ  
スルヤウニ贈與ヲ下ゲタト云フコトニ  
シカナルマイ、私ハ相續稅トノ關係ノ  
説明ハサウシカ取レナイ、唯相續稅ト  
云フモノヲ切離シテ、無償贈與ト云フ  
モノハドウスルカト云フ問題ハ別ノ問  
題デ、相續稅ト比較シテ、相續稅ノ二十  
三條ニ有價證券並現金ノミヲ押ヘテ、  
不動産並船舶ヲ除外シタト云フ其說  
明ニナラヌ、ソレデアリマス、カラ、ソ  
ナコトヲ言ツテ——政府委員ノ方モ大  
臣ニ御遠慮ニナツテソシナ事ヲ言ハ  
ルカ知ラヌガ、ソレデカラ私ハ事務官  
ノ御答辯ガ當ニナラヌカラ嫌ヒダト言  
ツテ忌避スル所以ノモノハ其處ニ在  
ル、是ハ重大ナ問題デアリマス、今迄ノ  
相續稅ノ立法當時ノ精神ト云フモノ  
ヲ、此第二次稅制整理ニ於テ之ヲ根本  
カラ打壞シテ、新シク片岡案ナルモノ  
ヲ拵ヘテ、片岡主義ナルモノヲ此處デ  
植付ケル、飛ンデモナイコトニナリマ  
ス、ソレデアリマス、カラ若槻主義ヲ排  
除シテ片岡主義ニナルコトハ重大ナル  
問題デアリマス、カラ、私ハ諄ク此事ヲ  
承ツテ居ルノデアリマス、ソレデアリマ  
ス、カラ事務官ガ好イ加減ナコトヲ言  
ツテ、後デ已ハ事務官ガ責任ガ無いノ  
ダ、後ハ大臣ノ責任ダ、其時ハサウデア  
ツタカ知ラヌト云フコトデ御茶ヲ濁サ  
レテハ困ル、重大ナル問題デアリマス  
カラ大臣ヲ煩スノデアリマス、重大問  
題デナケレバ大臣ノ答辯ヲ促シテ居ナ

イ、又コンナ大キナ聲ヲ出シテ居ナイ、  
重大問題ダト云フコトヲ少シ御考ヲ願  
ヒタイ  
○黒田政府委員 相續稅ノ二十三條ヲ  
通レマスルノヲ千分ノ六十デ防グ、然  
ルニ其千分ノ六十ト云フ稅率ガ高イ爲  
ニ、是ガ千分ノ三十五ト云フノニ參リ  
マジテ、却テ防グト云フ目的ヲ達セズ、  
而モ負擔ノ不均衡ナルト云フ點カラ致  
シマシテ、寧ロ此適當ノ稅率ヲ定メル  
コトガ宜カラウ、ソレデ四十五ニ致シ  
タト云フコトハ繰返シテ申上ゲテアル  
ノデアリマス、決シテ四十五ニシテ相  
續稅ノ課稅サレルモノヲソコニ引付ケ  
テ、相續稅ノ課稅ヲ受ケルヨリモ、登錄  
稅ノ方ニ持ツテ來サセヤウ、サウシテソ  
レ等ノ負擔ヲ輕減サセヤウト云フ趣旨  
デハナイノデス、ソレハ少シ事實ヲ御  
覽下サイマス、レバ明瞭ニナルト考ヘ  
ルノデアリマシテ、動産等ノ相續稅ト云  
フモノハ多額ニアルノデアリマス、ガ  
然ラバ登錄稅法ノ第二條ノ三號ニ依ル  
所ノ稅率ガ多額ニアルカト申シマスル  
ト、是ハ前回ニモ申下ゲマシタヤウニ、  
今日ニ於テハ非常ニ少イノデス、然ラ  
バ贈與ト云フヤウナ事實ニ於テ移轉ト  
云フモノガ行ハレナイカト申シマス  
ト、賣買ノ形式ニ於テハ行ハレテ居ル  
ト云フ考デアリマス、カラ、今日此六十  
ト云フ爲ニ千分ノ三十五ト云フ賣買ノ  
方ニ行クモノヲ、之ヲ適當ニ緩和シテ、  
千分ノ四十五ト云フモノデ課稅ヲ受ケ

ルヤウニシテ行クト云フコトガ、却テ  
負擔ノ公正ヲ保ツコトガ出來ルト云フ  
風ニ考ヘタノデス、ソレカラ尙ホ當時  
若槻總理ガ御答辯ニナリマシタトキ  
ニ、稅率ガ今度ハ増シテ居ルカラ、ソレ  
ニ準ジテ増スベキモノデアルト云フ御  
話デアリマス、ガ、御承知ノ通り其以後  
ニ於テ遺產相續稅ガ減ゼラレタ時ガア  
リマス、其時ニモ矢張千分ノ六十ガ其  
儘存シテ居ツタノデアリマス、必シモソ  
レト伴ツテ増減ハ致シテ居リマセヌヤ  
ウニ考ヘテ居リマス、ソレカラ稅率ハ  
私正確ニチヨット申上ゲラレマセヌガ  
ラ、後カラデモ能ク御懇談申上ゲテ宜  
シウゴザイマス、ガ、併シ之ニ依テ當然  
下ゲルモノデアルトカ、高クナルトカ  
云フコトヲ申スモノデハナイノデアリ  
マシテ、唯御質問中ニ屢御引用ニナリ  
マス、カラ、一應申上ゲテ御參考ニ供  
シタイト思ヒマス、ガ、昨年ノ改正ニ於  
テモ、稅率ノ引上ラ致シマシタ、併ナ  
ラ是ハ制定當時ニ比較致シマスレバ、  
餘程緩和シタ引上ラ致シタノデアリマ  
ス、最高ハ當時ノ最高ニ達シテ居リマ  
シテ、其達シマスノハ餘程上ノ方ニ於  
テ達スルト云フコトニナツテ居リマシ  
テ、途中ニ於テハ餘程緩和シテ居ル  
デアリマス、併シ是ハ緩和シテ居ルカ  
ラドウノト云フコトハ決シテ申上ゲル  
譯デハナイノデアリマス、唯當時トハ  
多少違ヒマス、ト云フコトヲ御參考ニ申  
上ゲテ置キマス

○高橋委員 私バカリ時間ヲ取ツテモ

恐縮デスカラ、大概ニシテ止メテ又他日ノ機會ニ讓ラウト思ヒマスルガ、私ガ事務官諸君ノ御答辯ヲ嫌フト云フノハ、御説明ニナレバナル程私ノ言フコトガ、ソレハ高橋ノ言フコトガ本當ダ、併ナガラ財政ノ遺線デ、サウ云フ譯ニ行カナカッタト云フコトヲ言葉ノ先デ胡麻化サウトバカリ努メテ居ラレル、大臣デアルトカ政務官デアルト、政治上ノ責任ガ生ジテソシナ胡麻化シハ言ヘナイガ、事務官ノ方ハ政治上ノ責任ガ無イカラ好イ加減ナ事ヲ言ハレル、次ノ内閣ニナレバ大臣ガ違フ、内閣ノ方針ガ違フカラ斯ウナッタト言ハレル、私ハ何モ相續稅ガ其後改正ニナツテ、其時分ノ率ガ低クナツタト云フ場合ニ、何モ其時分ニ登錄稅ヲ下ゲネバナラスト云フ意味デ「スライディング・スケール」ト言ツタノデハナイ、段々何デモ下ゲルト云フ意味デハナイ、其登錄稅ガ其儘ニ之ヲ千分ノ六十ニシテ置ケバ、相續稅ノ連脫ヲ防ゲルト云フノデ、登錄稅率ガ比較的高ケレバ高イ程相續稅ハ完全ニ連脫ガ防ゲル、其目的ハソコデ完成スル譯デス、併ナガラ此六十ガ高イ安イト云フヤウナ、登錄稅自身ノ負擔關係ノ問題ハ別問題デアル、ソレハソレデ以テ自作農ニ對シテハ免稅スルトカ、或ハ免稅點ヲ設ケルト云フヤウナ別ニソレハ外ノ方法デ——面倒臭イ地租マデ免稅點ナド設ケテ、役場

ニ手數ヲ掛ケテ、悲鳴ヲ揚ゲサセテ、ソレマデヤツテ居ル、サウ云フヤウナ方法デ不動産登錄稅ヲ改正シタナラバ、サウ云フヤウナ負擔力ノ薄イ者ニ對シテ負擔ヲ輕減スル途ハ幾ラモアラウト思フ、又相續稅ガ改正ニナツタケレドモ、ソレハ必シモ稅ガ重クナツタノデハナイ、ソシナ事ヲ何處デ言ハレル、免稅點ヲ引上ゲタリナンカシタデセウケレドモ、財產ヲ持ツテ居ル、相當ノ留保分ヲ餘計持ツテ居ルヤウナモノヲ段々引上ゲル、ソレダカラ斯ウ云フ連脫ヲ圖ル、又財產ヲ分割シテ而シテ贈與ノ出來ルナドト云フ餘地ノアル者ハ、是ハ相當ナ大資產ヲ持ツテ居ル者デナケレバ出來ナイ、小ナル資產ヲ持ツテハ、他ニ分割シテ遺留財產——遺留財產ト云ツテハ語弊ガアリマスガ、留保財產ヲ持ツテソレデ暮シ付ケルコトハ出來ナイ、ソレデアリマスカラ百萬圓ヲ持ツテ居ルナラバ五十萬圓贈與シテ、後ノ五十萬圓デ立派ニヤツテ行ケルカラ、斯ウ云フ大ナル資產家ガ初メテ出來ル脫稅ノ仕方デアル、ソレデ私ハサウ云フ大ナル資產家、二三十萬圓以上四五十萬圓、尙ホ何百萬圓ト云フ財產家ガ、相續稅ヲ免レル爲ニ大手ヲ振ツテ無償贈與ニ依テ登錄稅法第二條ノ——現行法ニ於ケル第三號、改正案ノ第二號ノ稅率ニ依テ大手ヲ振ツテ相續稅ヲ免レルト云フ方法ガ、大資產家ニ於テ行ハレル、斯ウ云フノデス、ソレダカラ大資產家ノ

脫稅獎勵法ヲ御設ケニナルノデアルト云フコトヲ繰返シ繰返シ申上ゲルノハ此處ノ理由デアリマス、ソレハ尙ホ能ク立法當時ノ政府委員議員間ノ應答ナドヲ御熟讀ナサツテ御覽ナサイ、其時分ニ木村格之輔ナドト云フ熱心ナ議員ハ、二十三條ノ方面ノ贈與ト云フコトバカリデナク、又阿部德三郎氏モ贈與ト云フ所ニ付テ御心配ニナツタケレドモ、賣買ノ名義ヲ以テヤルモノハ之ヲ縛ル譯ニ行カナイデヤナイカ、押ヘル譯ニ行カナイデヤナイカ、斯ウ云フコトモアツタ、其時分ニ若槻サンハドウ云フ事ヲ言ツタカト云フト、「賣買ノ形デ以テ爲シタナラバ、或ハ相續稅ノ目的ヲ達セヌト云フヤウナコトガ起リハセヌカドウカト云フ御尋ネデアリマスガ……登錄稅法ノ改正案ニ於テ不動産ノ稅率ガ上ゲテ御座イマス、ソレハ一方ニハ戰時歲入ガ欲シイ爲ニ上ゲタノデアリマスガ、ソレト同時ニ一方ニ相續稅ト關聯シテ賣買ノ場合ニ於ケル相續稅ヲ課シテアル、此方デ大體ノ取締ハ付ケル積リデアリマス、斯ウ云フコトマデ言ツテ居ラレルノデアリマス、斯ウ云フコトヲ全然無視シテ此度ノ改正ガ行ハレタトシカ吾ミニハ思ヘナイノデアリマス、ソレデアルカラ大臣ニ於カレマシテモ、能ク其當時ノ事情ヲ御調ベニナリマシテ、他日ノ機會ニ於テ改メテ明確ナル御答辯ヲ求メテ、私ハ此登錄稅ニ關スル此相續稅關係ノ問題ニ

付テハ今日ハ是デ覺テ付ケマス、其他ニマダ十數項ニ互ル質問ガアリマスガ、他ノ諸君ノ御倦怠ヲ招クノ虞ガアリマスカラ、本日ハ是デ私ノ質問ハ中止致シマシテ、他日ノ機會ニ讓リマス

○片岡國務大臣 曩ノ速記録等ヲ見テ篤ト考ヘテ返事ヲセヨト斯ウ云フ御求デアリマスカラ、尙ホ調ベテモ見マセウガ、併ナガラ先刻來申上ゲマス通り、此六十ト云フ稅率ノ爲ニ却テ連稅ヲ行フ者ガ多イヤウデアル、其證據ニハ此種ノ收入ガ比較的少イ、必ズ是ハ一方ノ稅率ノ安イ三十五デ濟ムヤウナ途ヲ講ジテ行キ居ルヤウデアル、ソレ故ニ斯様ニシテ他ノ手續ニ依テ財產ヲ讓ラウト云フガ如キ、所謂此法律カラ言ヘバ連稅、此連稅ノ途ヲ避ケル爲ニ其率ヲ四十五マデニスレバ左様ナ道行ヲ取ル者ガ却テ減ツテ、此稅法ノ精神ヲ貫クコトガ出來ルデアラウト云フコトガ、此改正ノ目的デアリマス、別ニ連稅者ヲ導クノ何ノト云フコトハナイ、現在マデ行ハレテ來タ事實ニ對シテ、連稅者ガドウモ多イヤウニ見受ケラレル、其多イノハ何故デアルカト云フト、片方ハ六十デ高イノデアアル、之ヲ片方ノ三十五デ濟ム途ヲ取リサヘスレバ、ソレデ行ケル、ソレヲ取ツテ行キ居ル傾キガアルカラ、之ヲ四十五ニスレバ尙シタ違ヒハナイ、同ジヤウニスレバ尙宜イカモ知レマセヌガ、四十五マデニスレバ其手段ヲ施ス者ハ少クナツテ行ッ

テ、國民ノ稅ヲ負擔スル上ニ於テ當然ノ道行ニ進ミ得ラレル、是ガ即チ改正ノ要旨デアリマス、別ニ今日迄ニ政府委員ガ言ッテ來タコトヲ無視シタカ、方針ヲ變ヘタト云フコトハ少シモナイノデアリマス、尙速記録等ヲ見テ云々ト云フ御注意モアリマスカラ、能ク調ベテハ見マスガ、要點ハ之ニ外ナラヌノデアリマス、念ノ爲メ之ヲ申上ゲテ置キマス

○高橋委員 私ハ先程此處デ中止ラスルト云フタガ、大臣ガ間違ッタ考、「デブレデユデス」ノ下ニ此事ヲ見ラレテ居ルト、幾ラ御研究ニナッテモ分ルマイト思フカラ、一言又費ヤサナケレバナラヌ、大臣モ政府委員モ多少ソシナヤウナ頭ヲ持ッテ居ラレルヤウデスガ、相續稅ノ二十三條ノ通稅ヲ防グト云フヤウナ方面ノ考ト、ソレカラ一方相續稅ト切離シタル無償贈與ト云フモノト、賣買トノ關係、是ト兩方ゴッチヤ混ゼニシテ居ラレル、アナタノ仰ッタノハ眞實ナル贈與ト云フモノト、賣買ノ形式ヲ以テ之ヲ通脫スルモノトノ間ノ關係ヲアナタハ言ハレタノデアアル、何等其理窟ヲ直ニ押ヘテ相續稅ヲ通脫スル、相續稅ヲ通レヤウトスル方面ノ關係ニハソレハ及バナインデアアル、唯其方ノ關係ニ應用スルナラバ、今マデハ賣買ノ形式ヲ以テヤッタノヲ、今度ハ贈與ノ形式デ免カレシメルノト何等變ッタコトハナイ、ソレデスカラソレヲ二ツ混同シナ

イヤウニ能ク落付イテ御考ニナッテ、サウシテ私ノ言フコトハ、是ハ何モ攻撃ヲスル爲ニ言フノデハナイ、稅ト云フモノハ神聖ナルモノデアアル、國民ハ苛歛誅求ト云フ聲ヲ今放ッテ居ル、ソレヲサウデハナイ、苛歛誅求デハナイ、是ハ實際斯ウ云フ純理ニ基イテヤッテ居ルノデアルト云フコトヲ徹底サセナケレバナラヌ、ソレデ吾々ハ此問題ヲ高唱力説シテ居ルノデアアル、是ハ不純ナ動機デモ何デモナイノデアアルカラ、大臣モ餘程頭ヲ冷ヤカニシテ、サウシテ此問題ニ付テ——稅制問題ハ他ノ財政問題ト違フ、政黨政派ノ問題デハナイ、ソレデアリマスカラ餘程之ニ付テハ深甚ナル御考慮ヲ此際煩ハシテ置クノデアリマス、ドウゾ其積リデ御考慮ヲ願ヒマス

○武藤委員長 今日ハ此程度デ散會致シマス

午後五時四分散會